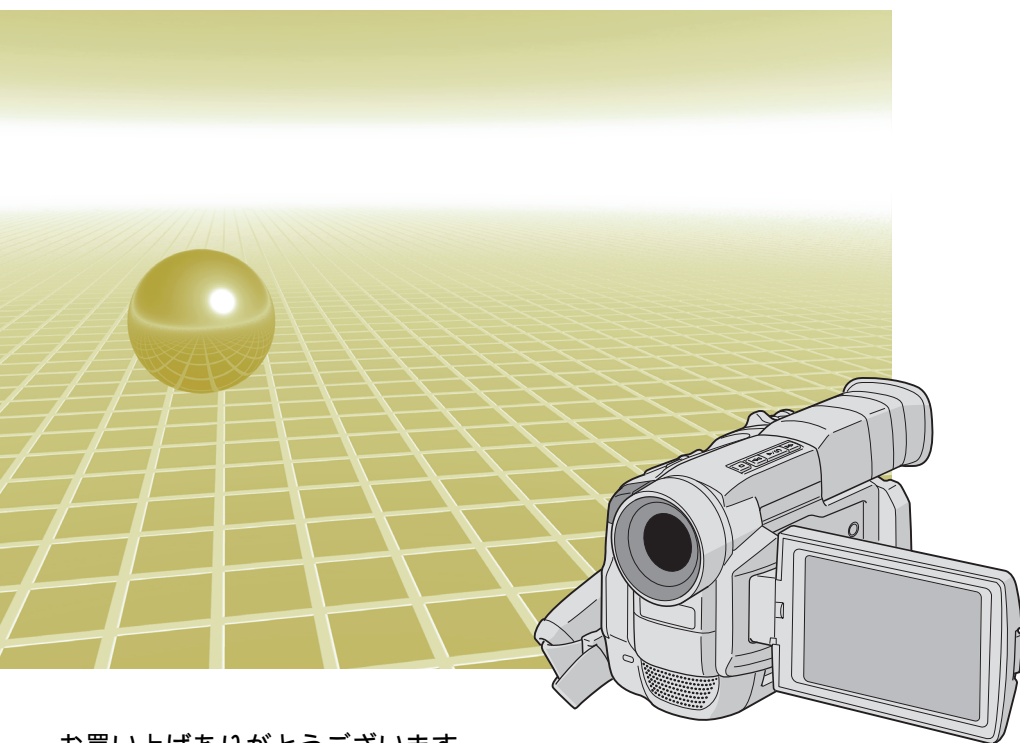
デジタルビデオカメラ

型名 **GR-DVA10**

Mini DV NTSC

Digital Video Camera
GR-DVA10

はじめに
準備
基本
応用
その他

お買い上げありがとうございます。

⚠ご使用の前に

この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
特に「安全上のご注意」（10〜19ページ）は、必ずお読みいただき、安全にお使いください。
お読みになったあとは、保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。

LYT0536-001B

もくじ

はじめに

準　備

基　本

応　用

応　用

その他

いますぐ撮影してみよう ☞は参照ページです。

❸ レンズキャップをはずす

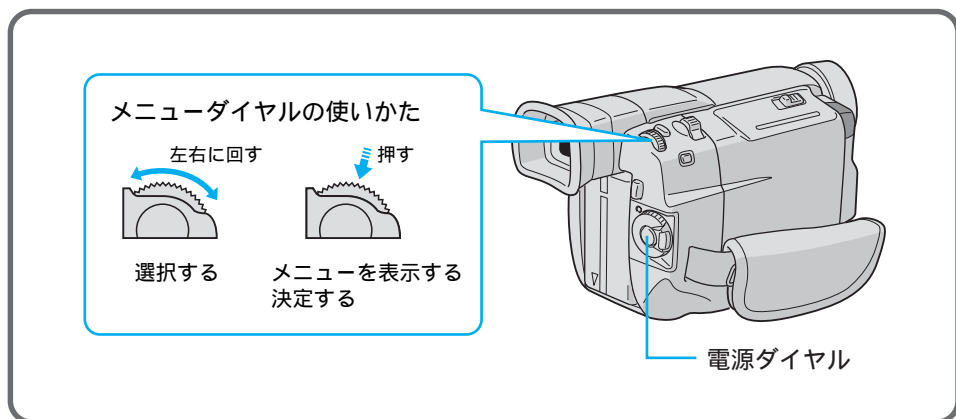
❹ 電源を入れる (☞42ページ)

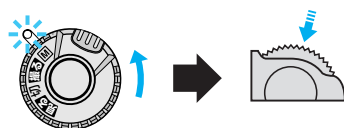
❺ 撮る (☞42ページ)

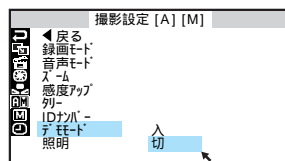
いますぐ見てみよう

❶ 再生する（☞50 ページ）
1 ロック解除ボタンを押しながら電源ダイヤルを「見る」に合わせる
見る
切
撮る
M
ロック解除ボタン
逆光補正
フォーカス
停止ボタン
3 再生ボタン（II/▶）を押す
・再生をやめたいときは、停止ボタン（■）を押します。
2 巻戻しボタン（◀◀）を押してテープを巻戻す

デモンストレーションを見てみよう

本機には、演出効果などの機能を確認するための実演（デモンストレーション）モードがあります。ビデオカメラをお使いになる前に、是非一度ご覧になってください。
お買い上げ時は､「デモモード」の設定が「入」になっていますので､カセットテープを入れずに電源ダイヤルを「撮る」､または「M」に合わせると自動的にデモモードが始まります。
デモモードをご覧になったあとは、以下の手順で「デモモード」の設定を「切」にしてください。
「入」のままにしていると、設定できない機能があります。

❶ デモモード表示中に電源ダイヤルを「M」に合わせ、メニューダイヤルを押す

●「デモモード」の設定を切り替えるためのメニューが表示されます。

❷ メニューダイヤルを回して「切」を選び、ダイヤルを押す

●メニューを終了し､通常の撮影画面に戻ります。

●デモモード表示中にズームスイッチを動かすなどの操作をすると､デモモードを一時的に中断します。その後約１分間､何の操作もしないとデモモードが再開します。

ご使用の前に

大切な撮影の前に

- 本機は DV 方式のデジタルビデオカメラです。
  （ MiniDV ）マークの付いたデジタルビデオテープをご使用ください。
- 大切な録画の場合は、必ず事前に試し撮りをし、正常に録画・録音されていることを確かめてください。
- 万一、デジタルビデオカメラおよびテープ等の不具合により、正常に録画、録音や再生できなかった場合、内容の補償についてはご容赦ください。
- 本機前面下部のマイクやカメラセンサー部分に手や指をかけないようにしてください。雑音が入ったり正しい明るさで撮影できなかったりすることがあります。

著作権について

あなたがビデオカメラで録画、録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。（なお、鑑賞や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場所がありますのでご注意ください。）

本文中の記号の見方

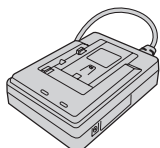
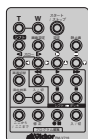
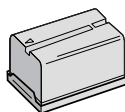
操作上の注意などが書かれています。

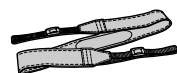
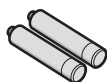
知っているとちょっと便利な内容やキーポイントが書かれています。

機能や使用上の制限などが書かれています。

参照ページや参照項目を示しています。

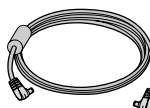
付属品について

本機の付属品をお確かめください。

ACアダプター
AA-V40

リモートコントロール
RM-V716（リモコン）

バッテリー
BN-V416

ショルダーストラップ

フェライトコア(大)
(1個:別売DVコード用)

単4乾電池（2本）
（リモコン動作確認用）

（Windows用）
パソコン接続コード

CD-ROM

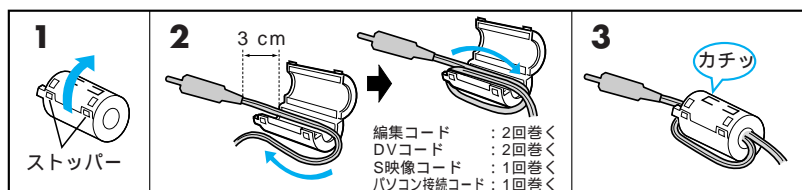
フェライトコア(小)
(3個：編集コード、S映像コードおよびパソコン接続コード用)

DCコード
長さ：約2.0m

映像/音声コード（φ3.5）
φ3.5ミニプラグ ▶ピンプラグ×3
長さ：約1.5m
ビデオカメラとテレビ、またはビデオデッキ接続用

編集コード
長さ：約1.5m
自動編集用

S映像コード
長さ：約1.5m
ビデオカメラとS映像対応のテレビ、またはビデオデッキ接続用

フェライトコアの取り付けかた

付属のS映像コード、編集コード、パソコン接続コード、および別売のDVコードをお使いになるときに取り付けてください。映像機器と接続したときにおきるノイズを軽減することができます。

1 両端のストッパーをはずして開く

2 フェライトコアにコードを巻く
●端子から約3cmの位置にフェライトコアを取り付けます。

3 コードをはさみ、カチッと音がするまで閉じる

■ 編集コードにフェライトコアを取り付けるときは、端子(プラグ)の4極側(3本の輪が付いている側)に取り付けてください。
■ 接続するときは、フェライトコアを取り付けた側の端子をビデオカメラに接続してください。

安全上のご注意

安全のために必ずお守りください

絵記号について

**この取扱説明書と製品には、いろいろな絵記号が記載されています。
これらは、製品を安全に正しくお使いいただき、人への危害や財産への損害を未然に防止するための表示です。絵記号の意味をよく理解して本文をお読みください。**

⚠危険 この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される内容を示しています。

⚠警告 この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠注意 この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の説明

●注意（危険、警告を含む）が必要なことを示す記号

一般的注意

手がはさまれる

●してはいけない行為（禁止行為）を示す記号

禁止

水場での使用禁止

接触禁止

分解禁止

ぬれ手禁止　水ぬれ禁止

●必ずしてほしい行為（強制、指示行為）を示す記号

一般的指示

プラグをコンセントから抜く

⚠警告

■煙が出たり、へんな臭いがするときなどは、バッテリーをはずす、または電源プラグを抜く

・販売店に修理を依頼してください。
・そのまま使用すると火災や感電の原因となります。
・お客様ご自身による修理は危険です。絶対におやめください。

■落としたり、壊れたときなどは、バッテリーをはずす、または電源プラグを抜く

・販売店に修理を依頼してください。
・そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。
・お客様ご自身による修理は危険です。絶対におやめください。

■内部に水や異物が入ったときは、バッテリーをはずす、または電源プラグを抜く

・販売店に修理を依頼してください。
・そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。
・お客様ご自身による修理は危険です。絶対におやめください。

■電源コードが傷んだときは、電源プラグを抜く

・販売店に修理を依頼してください。
・芯線が露出していたり、断線したままで使用すると、火災や感電の原因になります。

■持ち運ぶときには、液晶画面やファインダーを持たない

・液晶画面、またはファインダーを持って運ぶと、故障したり落として、けがの原因となります。

■不安定な場所に置かない

・ぐらついた台の上や傾いた所には置かないでください。
・落ちたり、倒れたりして、故障やけがの原因となります。

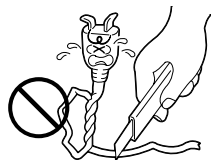
■指定の電源電圧以外で使用しない

・ぐらついた台の上や傾いた所には置かないでください。
・火災や感電の原因となります。

安全上のご注意（つづき）

⚠警告

■電源コードを傷つけない

・火災や感電の原因となります。
・次のようなことをすると、傷つく原因となります。ご注意ください。
　加工する、無理に曲げる、ねじる、引っ張る、重いものをのせる、
　熱器具に近づける。

■内部に物を入れない

・カセットの出し入れ口などから、金属類や燃えやすいものなどを入れない でください。
・火災や感電の原因となります。
・特にお子様にご注意ください。

■内部の部品に触らない

・カセットの出し入れ口から見える部品に触らないでください。
・感電や故障の原因となります。

■機器を接続するときは、電源を切る

・電源を入れたまま接続すると、感電や故障の原因となります。

■分解や改造はしない

・火災や感電の原因となります。
・お客様ご自身による点検、整備、修理は危険です。絶対おやめください。
・内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。

■自動車などの運転中に使用しない

・運転をしながら、撮影、再生をすることは絶対におやめください。
・交通事故の原因になります。

■レンズやファインダーを太陽や強い光源に向けない

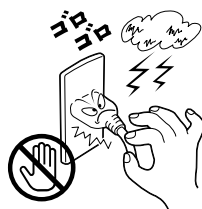
・レンズやファインダーを太陽に向けたまま放置しておくと､集光により内部部品が破損して発熱し、火災や故障の原因となります。

⚠警告

■ぬらさない

・火災や感電の原因となります。
・風呂場では使用しないでください。
・雨天、降雪中、海岸、水辺で使用するときは、ご注意ください。
・水などの入った容器（花びん、植木鉢、コップ、化粧水、薬品など）は、こぼれたりしますので、機器の近くに置かないでください。

■雷が鳴り出したら、電源プラグにはふれない

・感電の原因となります。

■電源プラグが不完全な接続状態で使用しない

・接触不良で発熱し、火災や感電の原因となります。
・最後までしっかりと接続してください。

■電源プラグにほこりや金属物を付着させない

・ほこりや金属物を伝わって電気が流れ、ショートや絶縁不良で発熱し、火災や感電の原因となります。
・ほこりや金属物が付着しているときは、電源プラグを抜き、取り除いてください。

■上に乗らない

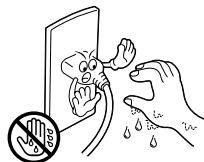
・倒れたり、こわれたりして、けがの原因になります。特に小さなお子様がいるご家庭ではご注意ください。

⚠注意

■電源コードはコードの部分を持って抜かない

・コードの部分を持って抜くと、コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。
・プラグの部分を持って抜いてください。

■ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

・感電の原因となることがあります。

■次のような場所には置かない

・砂浜などの砂ぼこりのある所
・湿気やほこりの多い所
・調理台や加湿器のそばなど、油煙や湯気の当たる所
・熱器具の近くなど
・真夏の車内など高温になる所
・直射日光の強い所

火災や感電の原因となることがあります。

■上に重い物を置かない

・バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。

■カセットテープの出し入れ口に手を入れない

・手をはさまれてけがをする原因となります。
・特にお子様にご注意ください。

■本体に衝撃を与えない

・けがをするおそれがあります。また、本機が故障する原因となります。

⚠注意

■指定以外のアクセサリーを使わない
- 性能や形状が異なると、火災や故障、感電の原因となることがあります。
- 本機に指定されたものか確かめ、アクセサリーの取扱説明書もよくお読みください。

■照明用ライトなどを使うときはライト部に顔、素手、髪の毛などを近づけない
- 高温のため、やけどや髪の毛が燃える原因となります。

■本機やアクセサリーなどを布などでおおった状態で使用しない
- 熱がこもって変形したり、火災の原因となることがあります。

■コード類は正しく配置する
- ＡＣアダプターの電源コードや接続用コードなどは、足にひっかけると製品の落下や転倒などによりけがの原因となることがあります。
- 十分注意して接続、配置してください。

■長期間使用しないときはバッテリーをはずす、または電源プラグを抜く
- 電源が「切」でも本機に電気が流れていますので、安全のためにお守りください。

■別売の三脚を不安定な状態で使用しない
- 足などの上に倒れる、けがをする原因となります。また、本機が故障する原因となります。
- 足などを引っかけないようにご注意ください。強風にもご注意ください。

■移動するときは、電源プラグや接続コード類をはずす
- 接続したまま移動すると、コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。
- カセットテープも取り出しておいてください。

⚠注意

■バッテリーやショルダーストラップは正しく取り付ける

・正しく取り付けられていないと、落下によりけがや故障の原因となることがあります。

■お手入れするときは、バッテリーをはずす、または電源プラグを抜く

・電源が「切」でも機器に電源が流れていますので感電の原因となることがあります。

■5年に一度は内部の点検を販売店に依頼する

・内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないで使用し続けると、火災や感電の原因となることがあります。
・湿気の多くなる梅雨期の前に点検すると、より効果的です。
・費用については、販売店にご相談ください。

■強い電波や磁気の発生する所、または雷が近いときは使用しない

・故障の原因となることがあります。
・テレビの上や近くでは使用しないでください。
・ACアダプターを使用しているときは、なるべく本機から遠ざけてご使用ください。

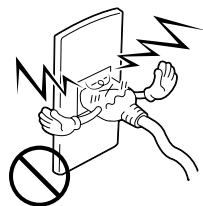
■飛行機内で使うときは、航空会社の指示に従う

・本機が出す電磁波などにより、飛行機の計器に影響を与える原因となります。

ACアダプター、バッテリーや乾電池について

⚠危険

■ AC アダプターを指定の電源電圧以外で使用しない

・火災や感電の原因となります。

■ AC アダプターは指定以外のビデオカメラやバッテリーには使わない

・性能や形状が異なると、火災や故障、感電の原因となることがあります。
・指定されたものか確かめ、取扱説明書もよくお読みください。

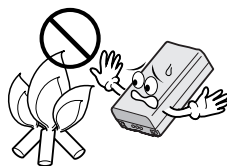
■ AC アダプターを分解や改造はしない

・火災や感電の原因となります。
・お客様ご自身による点検・整備・修理は危険です。絶対におやめください。
・内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。

■ バッテリーを充電するときは、指定の AC アダプターを使う

・性能や形状が異なると、液漏れ、発熱、破裂、発火の原因となります。

■ バッテリーは絶対に分解、加工（はんだ付けなど）、加熱、火中投入などをしない

・液漏れ、発熱、破裂、発火し、火災やけがの原因となります。

ACアダプター、バッテリーや乾電池について

⚠危険

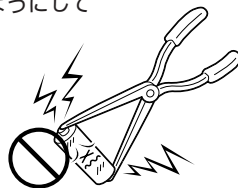
■高温の場所（60℃以上）に置かない

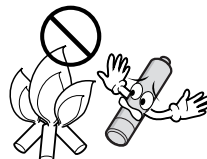
・発熱、破裂、発火の原因となります。

■バッテリーの端子部に金属物（ネックレスやヘアピンなど）を接触させない

・ショートして発熱し、火災やけがの原因となります。
・持ち運びの際にはキャップを取りつけて、金属物と端子が接触しないようにしてください。

■乾電池の端子部（⊕と⊖）に金属物（ネックレスやヘアピンなど）を接触させない

・液漏れ、発熱の原因となります。
・持ち運びの際にはビニール袋などに入れ、金属物と端子が接触しないようにしてください。

■乾電池は絶対に分解、加工（はんだ付けなど）、充電、加熱、火中投入などをしない

・液漏れ、破裂などの原因となります。

ACアダプター、バッテリーや乾電池について

⚠警告

■指定以外の乾電池は使わない、また液漏れを起こしたバッテリーや乾電池を使わない

・液漏れを起こした電池はショートによる発熱で、さわるとやけどをする原因となります。
・電池を入れる前に品番をよく確かめてください。
・電池の液が漏れたときは、電池取り付け部の液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。
・電池の液が身体や衣服についたときには、水でよく洗い流してください。
万一、目などに液が入った場合はきれいな水で洗った後、ただちに医師に相談してください。

■乾電池は幼児の手の届かない所に置く

・万一、誤って飲み込んだときは、ただちに医師と相談してください。

■濡れたバッテリーは使わない

・故障、感電、発熱、発火の原因となります。

⚠注意

■乾電池を入れるときは、極性表示（⊕と⊖）の向きに注意する

・機器の指示通りに乾電池を入れてください。間違えると電池の破壊、液漏れにより、火災やけが、周囲を汚す原因になることがあります。

■通電中のACアダプターや充電中のバッテリーに長時間触れない

・温度が上がり、長時間皮膚がふれたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。

主な特長 ☞は参照ページです。

記念写真

静止画を色々なモード（フレーム、フル、ピンナップ、マルチ4、マルチ9）で撮影できます。
☞48 ページ

逆光補正

太陽などで背景が明るい場合に被写体が暗く写ります。逆光補正ボタンを押すだけで簡単に自然な画像で撮影できます。
☞46 ページ

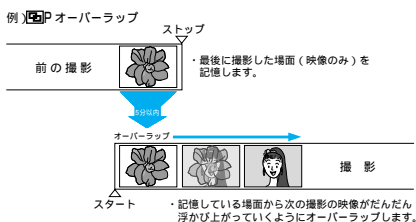
オートライト

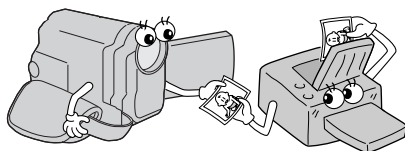
撮影時にまわりの明るさを感知して、自動的にライトが点灯します。暗い場所でも撮影が可能です。
☞45 ページ

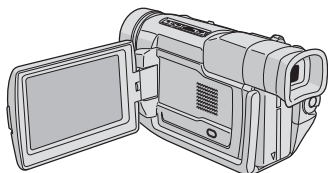
100倍デジタルズーム

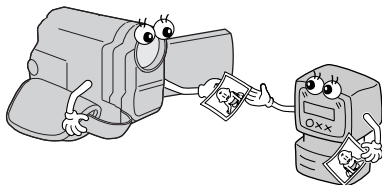
デジタルズームも補正技術でギザギザの少ない滑らかな画像で拡大します。
☞44 ページ

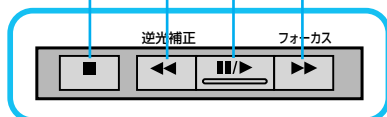
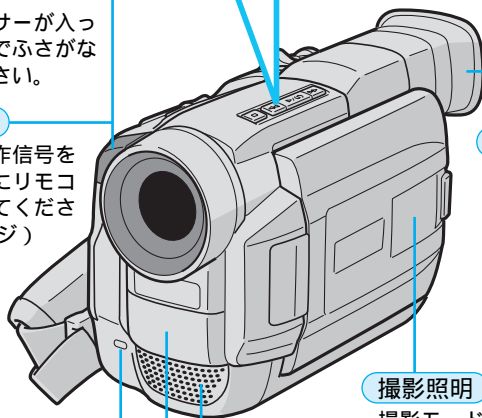
デジタル演出効果

映像を加工してさまざまな演出をほどこした録画や再生ができます。
☞62、68ページ

DV 入力 / 出力端子

DVケーブル（別売）でDV端子を搭載するデジタルビデオ機器などと接続することで、画質・音声劣化のないダビング編集や画像取り込みができます。
☞81、95ページ

3.0 型液晶画面

大型液晶画面で撮影画像や再生画像が見やすくなりました。

デジタル静止画出力端子

付属のソフトウェアを使用してWindows® パソコンへ簡単に静止画像を取り込めます。
☞94ページ

各部のなまえとはたらき ☞は参照ページです。

ビデオカメラ本体

ズームスイッチ
映像のズームを行います。
（☞44ページ）

記念写真ボタン
記念写真を撮るときに押します。
（☞48ページ）

音量スイッチ
再生中はスピーカー音量を調節します。
（☞51ページ）

メニューダイヤル
メニュー操作や液晶画面の明るさ調節を行います。
（☞38、98ページ）

記念写真モードボタン
記念写真モードを選択します。
（☞48ページ）

バッテリー取りはずしボタン
バッテリーを取りはずすときに押します。
（☞31ページ）

カセット取出しスイッチ
カセットを出し入れしたいときに横にスライドさせて手でカセットカバーを開きます。
（☞33ページ）

端子カバー
手前に引いて開けます。

DC入力端子
DCコードを接続します。
（☞32ページ）

ショルダーストラップ取り付け部
ショルダーストラップを取り付けます。
（☞35ページ）

AV（出力）端子
AVコードでテレビやビデオデッキに接続します。
（☞51、80、88ページ）

グリップベルト
（☞34ページ）

DV入/出力端子（i-LINK*）
DV端子付きのビデオ機器と接続します。
（☞81、95ページ ）
*：i-LINKは、IEEE1394-1995仕様およびその拡張仕様です。
はi-LINKに準拠した商品につけられるロゴマークです。

S（映像出力）端子
S端子付きのビデオ機器と接続します。
（☞51、78、86ページ）

スピーカー
再生すると音声が出ます。ただしAVコード接続時は音はでません。
(☞50ページ)

JLIP(編集)端子
・JLIPコードを使ってJLIP対応機器を接続します。
・編集コードを使ってリモコンを接続します。
(☞88ページ)

押ー開ボタン
液晶画面を開くときにボタンを押します。

撮影ボタン
撮影の開始、一時停止をします。(☞42ページ)

液晶画面
撮影中、再生中に映像が映ります。
(☞42、50ページ)

ビデオライトスイッチ
ビデオライトを使うときに「オート」か「入」にします。(☞45ページ)

パソコン(デジタル静止画)端子
パソコンに静止画を出力します。
(☞94ページ)

バッテリー取り付け部
バッテリーを取り付けます。
(☞31ページ)

電源ダイヤル

ロック解除ボタン
ボタンを押しながら、電源ダイヤルのモードを切り替えます。

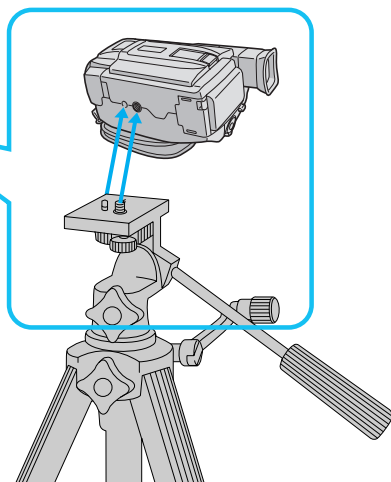
M　マニュアル撮影モード
撮影方法を細かく設定できます。(☞96ページ)

撮る　フルオート撮影モード
全自動でビデオ撮影ができます。(☞42ページ)

切　電源が切れます。

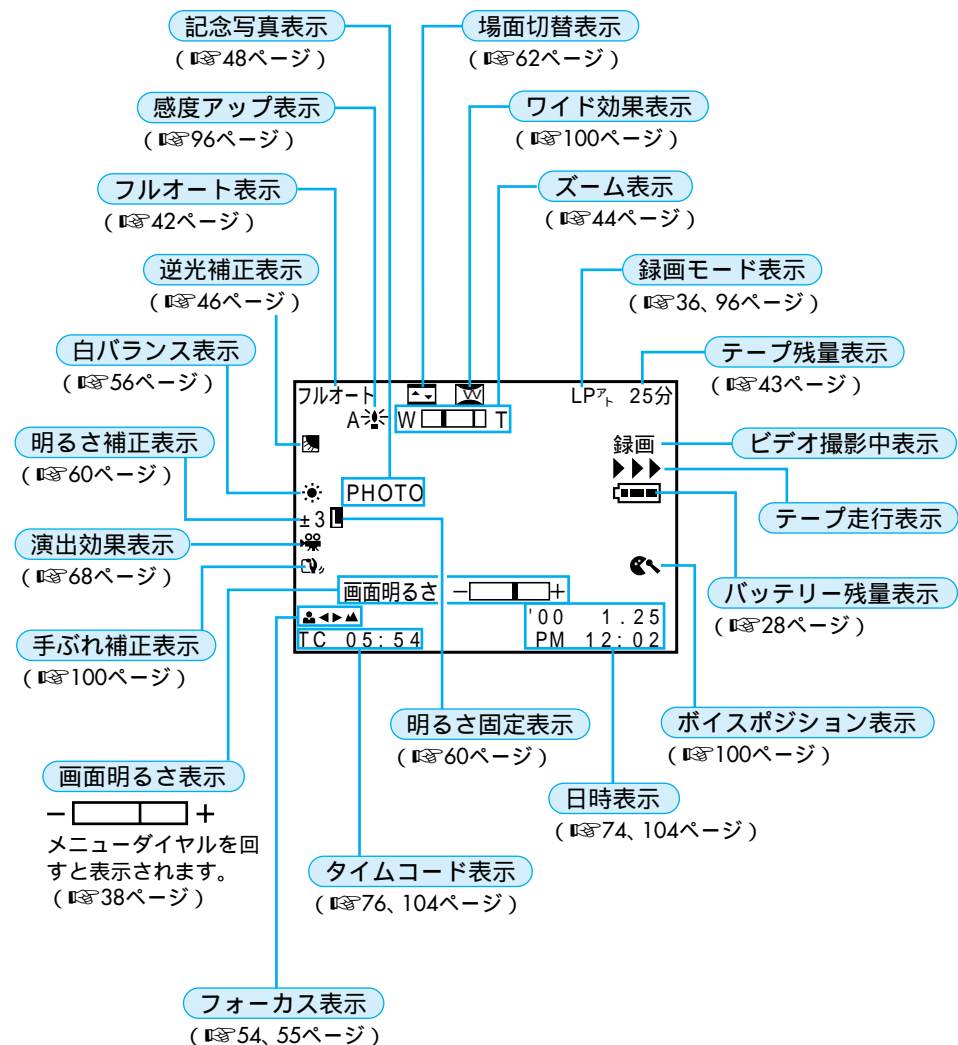
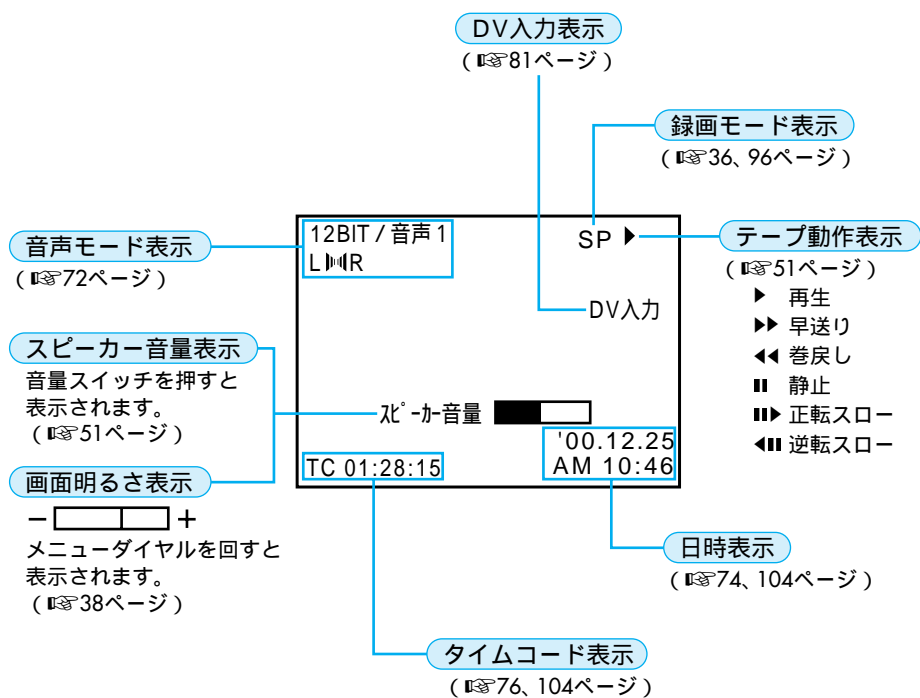
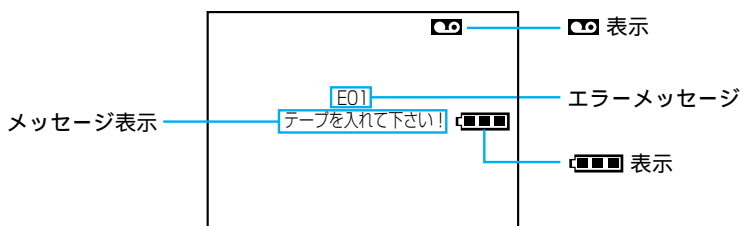
見る　再生モード
撮った映像を見るときに、切り替えます。
(☞50ページ)

三脚に取り付ける

ご使用になる三脚の取扱説明書もご覧ください。

液晶画面とファインダー表示

ー撮影時の表示ー

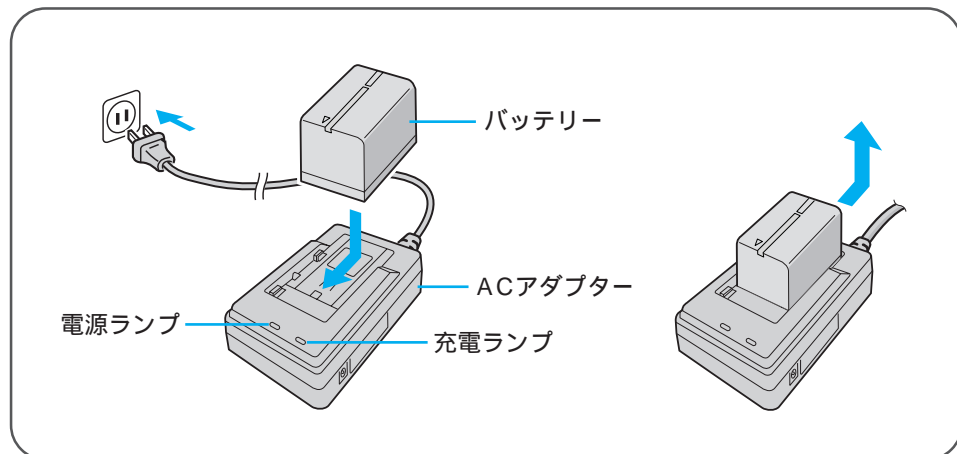
ー再生時の表示ー

DV入力表示
(☞81ページ)
録画モード表示
(☞36、96ページ)
音声モード表示
(☞72ページ)
12BIT／音声1
L R
SP ▶
テープ動作表示
(☞51ページ)
▶ 再生
▶▶ 早送り
◀◀ 巻戻し
II 静止
II▶ 正転スロー
◀II 逆転スロー
DV入力
スピーカー音量表示
音量スイッチを押すと
表示されます。
(☞51ページ)
ｽﾋﾟｰｶｰ音量
'00.12.25
AM 10:46
画面明るさ表示
TC 01:28:15
ー ＋
メニューダイヤルを回すと
表示されます。
(☞38ページ)
日時表示
(☞74、104ページ)
タイムコード表示
(☞76、104ページ)

お知らせ表示

表示	表示内容	参照
	バッテリーの残量を表示します。 残量大 → → → 残量なし バッテリーが少なくなると が点滅します。 バッテリーがなくなると自動的に電源が切れます。	43
	テープが入っていないときや、テープの誤消去防止用ツマミが「SAVE」側にあるときに表示されます	121
テープを入れて下さい！	テープが入っていないときに撮影ボタンや記念写真ボタンを押したときに表示されます。	—
テープおわり	録画や再生中に、テープが終わると表示されます。	—
レンズキャップ	レンズキャップがレンズについていると表示されます。	—
日時を設定して下さい	内蔵の時計用電池の容量がなくなり、日時情報が失われると表示されます。電池の交換は最寄りの「ビクターサービス窓口」にご相談ください。	126
テープがちがいます!	異なるフォーマットのテープを入れたときに表示されます。	—
このテープは録画できません テープのツマミをたしかめて下さい	・誤消去防止用ツマミが「SAVE」側のテープで録画しようとしたときに表示されます。	121
コピーガードがかかっています	コピーガードがかかった信号を本機でダビング（録画）しようとしたときに表示されます。	—
音声16BIT (12BIT)モード	電源ダイヤルを「撮る」または「M」に合わせて電源が入ると、音声モードが約5秒間表示されます。	—
DV入力	DV入力状態で録画一時停止または録画中に表示されます。	81
通信中	JLIP端子やパソコン端子を使用して通信中に表示されます。	94

表示	表示内容	参照
音声アフレコできません	テープの無記録部分でアフレコ編集しようとしたときに表示されます。	82
音声ｱﾌﾚｺできません <LPモードで記録されています> <16BITで記録されています> <テープのツマミをたしかめて下さい>	・LPモードで記録されたテープでアフレコ編集しようとしたときに表示されます。LPモードで記録されたテープにはアフレコ編集できません。 ・16BIT音声で録音されたテープでアフレコ編集しようとしたときに表示されます。16BIT音声で録音されたテープにはアフレコ編集できません。 ・誤消去防止用ツマミが「SAVE」側のテープでアフレコ編集しようとしたときに表示されます。	82
インサート録画できません	テープの無記録部分でインサート編集しようとしたときに表示されます。	84
インサート録画できません <LPモードで記録されています> <テープのツマミをたしかめて下さい>	・LPモードで記録されたテープでインサート編集しようとしたときに表示されます。LPモードで記録されたテープにはインサート編集できません。 ・誤消去防止用ツマミが「SAVE」側のテープでインサート編集しようとしたときに表示されます。	84
E01～06 セーフティがはたらきました バッテリーをはずしてつけ直してください	ビデオカメラに生じたトラブルを判断するための表示です。E01～06が表示されるとビデオカメラは自動的に停止します。バッテリーなどの電源を外してください。数分待ち、再び電源を入れてください。2、3度くり返しても表示が消えないときは、お買い上げ販売店か、ビクターサービス窓口にご相談ください。	126
ヘッドが汚れています クリーニングカセットをためしてください	ヘッドが汚れているときに表示されます。 クリーニングカセットを再生して、ヘッドを清掃してください。	114
ツユがつきました しばらくおまちください	つゆつきが発生したときに表示されます。 表示が消えるまで1時間以上お待ちください。	123

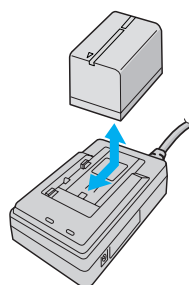
バッテリーを充電する

バッテリーの充電

バッテリーの充電には付属の AC アダプターを使用します。
充電するときはバッテリーのキャップをはずしてください。

❶ 電源コードをコンセントに差し込む

差し込む

❷ バッテリーを取り付ける

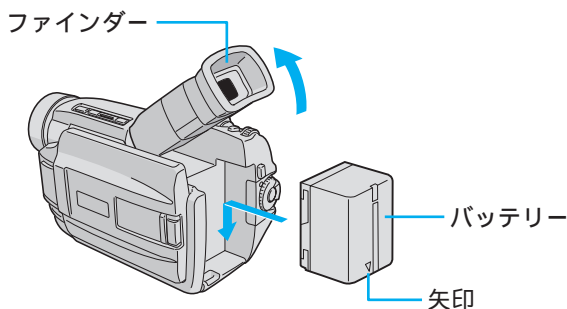
- 充電ランプが点滅します。
- 点滅から点灯に変わったら充電完了です。

❸ バッテリーをはずす

- 次に電源コードもはずします。

- 充電時間の目安（室温 10℃～ 35℃）➡ バッテリー（BN-V416：付属）で 約 120 分
バッテリー（BN-V428：別売）で約 200 分
- 充電できない ➡ AC アダプターに DC コードが接続されていると充電できません。
- 充電しても撮影時間が短い ➡ 寿命です。新しいバッテリーに交換してください。
- バッテリーについて ➡ 122 ページもご覧ください。

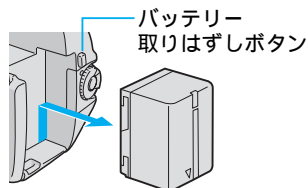
バッテリーを取り付ける

バッテリーの取り付けかた／取りはずしかた

バッテリーは出荷時には充電されていません。ACアダプターで充電してからお使いください。

❶ **ファインダーを上にあげる**

❷ **バッテリーを取り付ける**
- 矢印を下向きにしてバッテリーを押し付けるようにしながら下にスライドさせます。

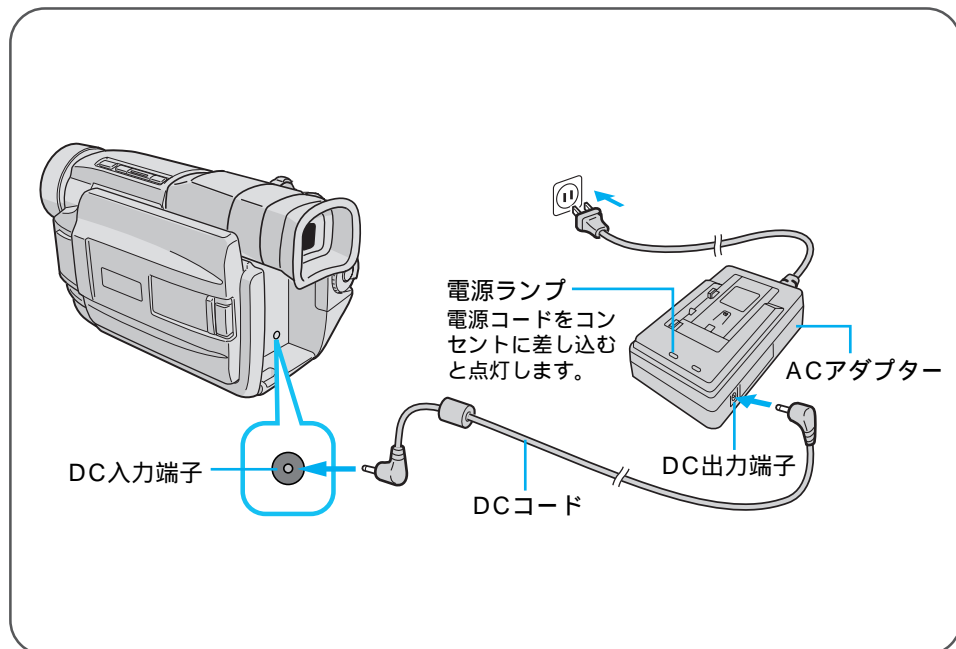
バッテリーを取りはずす

❶ **バッテリー取りはずしボタンを押したままバッテリーを取りはずす。**
- 下から上へスライドさせて手前に引いて取りはずしてください。

- バッテリーを保存するときはキャップに取り付けておいてください。（☞122 ページ）

コンセントの電源でビデオカメラを動かす

コンセントにつないで使う

室内で使うときは、AC アダプター（付属）を使ってコンセントから電源をとると便利です。変換プラグを使用すると海外でもご利用できます。（☞124 ページ）

電源ランプ
電源コードをコンセントに差し込むと点灯します。
ACアダプター
DC入力端子
DC出力端子
DCコード

❶ DCコードをビデオカメラのDC入力端子に差し込む

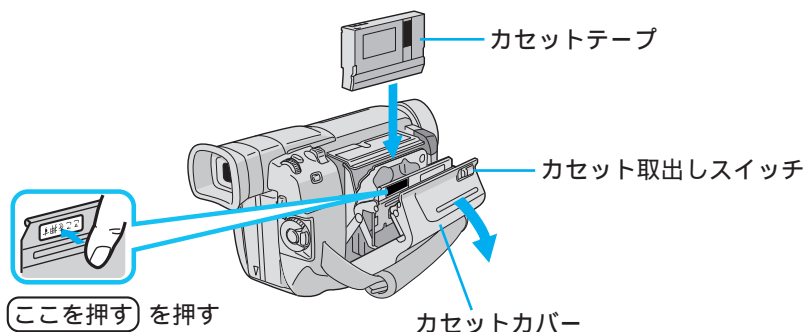
❷ DCコードをACアダプターのDC出力端子に差し込む

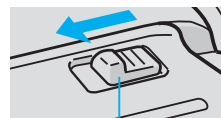
❸ 電源コードをコンセントに差し込む

- バッテリーの充電中に DC コードを AC アダプターに差し込むと、充電が中断されます。
- AC アダプターが、温かくなることがあります。

カセットテープを入れる

カセットテープの入れかた／取り出しかた

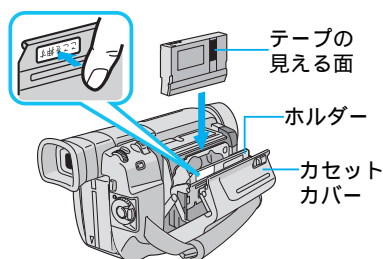
電源ダイヤルが「切」のままでもホルダーを開けることができます。

❶ カセット取出しスイッチを矢印方向にスライドさせて、カセットカバーを開く

- 自動的に、ホルダーが開きます。

- 内部の部品を直接手でさわらないでください。

❷ カセットテープをホルダーに入れ ここを押す を押す

- カセットテープは奥まで確実に入れてください。
- 自動的にテープが収納されます。

ここを押す を押す

テープの見える面

ホルダー

カセットカバー

❸ カセットカバーを「カチッ」と音がするまで閉める

- テープが収納されない場合は、カセットカバーを一度完全に開いて、カセットを取り出し、少し待ってからカセットを入れ直してください。

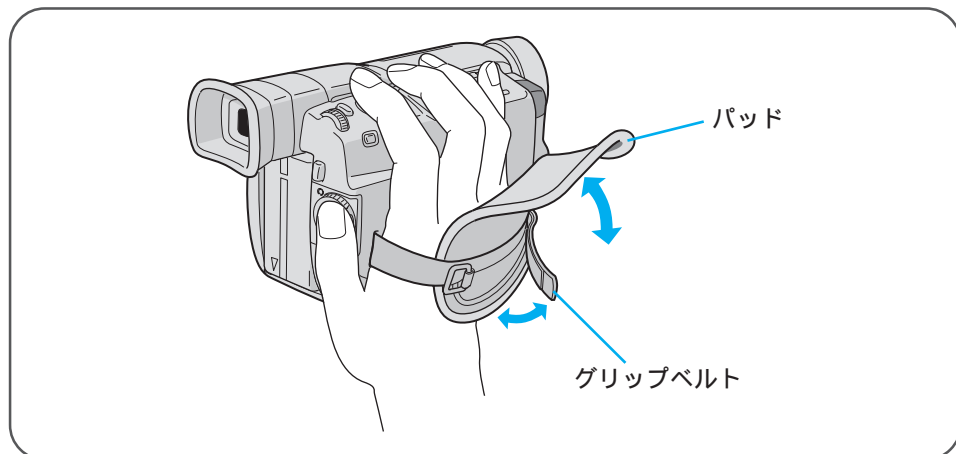
- ホルダーに指をはさまないようにご注意ください。

カセットテープを取り出す

上の手順 ❶ のあとでカセットテープを引き上げて取り出す

グリップベルトを手に合わせる

グリップベルトの合わせかた

手の大きさに合わせて、グリップベルトを調節します。

❶ パッドをはがす

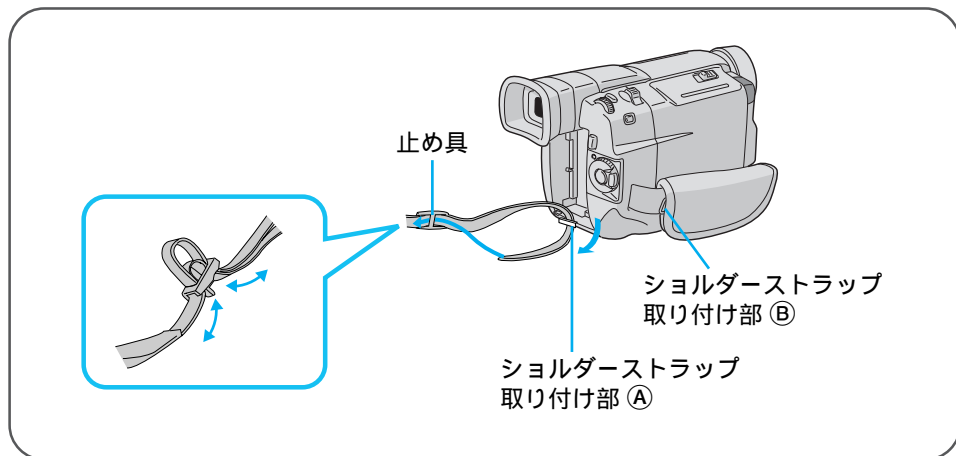
❷ グリップベルトを調節する

●手を入れてズームスイッチと撮影ボタンを操作しやすいように調節してください。

❸ パッドをはりつける

ショルダーストラップを取り付ける

ショルダーストラップの取り付けかた

移動中落下したりしないようにしっかりと取り付けます。

❶ ショルダーストラップ取り付け部 Ⓐ に通す

ショルダーストラップの先をショルダーストラップ取り付け部 Ⓐ に通します。

- バッテリーや、DC コードははずしておきます。

❷ 止め具に通す

ショルダーストラップの先を長さ調整用の止め具に通します。

❸ 長さを調節する

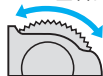
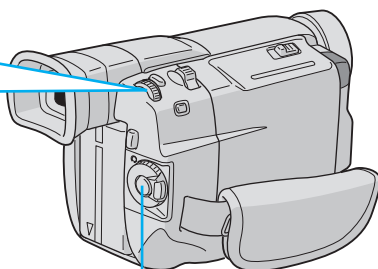
調整用バックルに通っているショルダーストラップを少しゆるめて、長さを調節します。

❹ ショルダーストラップ取り付け部 Ⓑ についても同様に❷〜❸を繰り返す

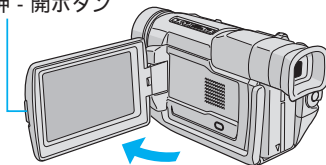
ショルダーストラップを引っぱり、確実に取り付けられたか確認します。

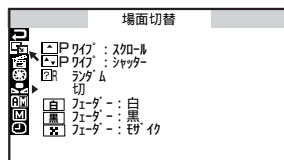
録画モードを選ぶ

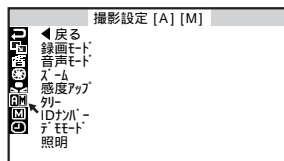
撮影時の録画モード選択

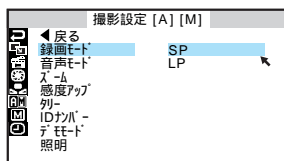
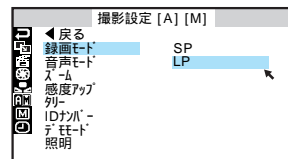
SP モードと LP モードの 2 種類の録画モードがあります。LP モードは SP モードの 1.5 倍の撮影ができます。ただし LP モードにするとアフレコ編集（☞82ページ）やインサート編集（☞84ページ）ができなくなります。

❶ ロック解除ボタンを押しながら電源ダイヤルを「Ⓜ」に合わせる

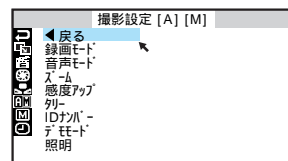
●電源ランプが点灯し電源が入ります。

❷「押－開」ボタンを押して液晶画面を開く

❸ メニューダイヤルを押す

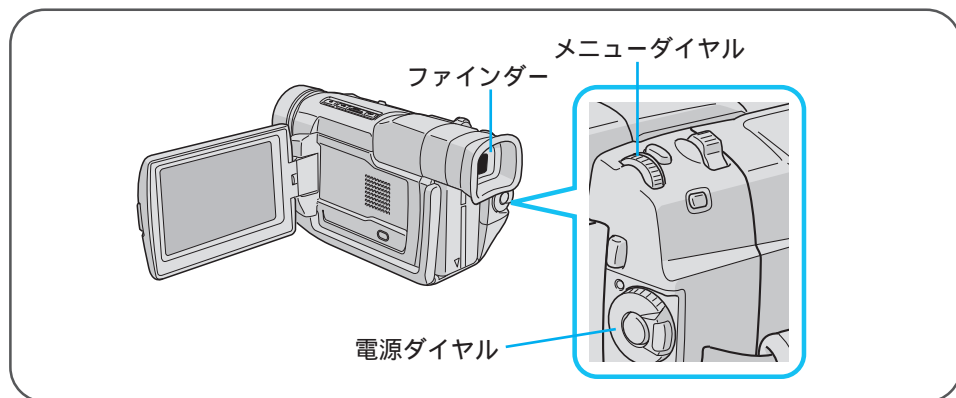
●場面切替メニューが表示されます。

❹ メニューダイヤルを回して「AM」を選び、ダイヤルを押す

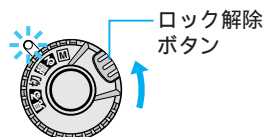
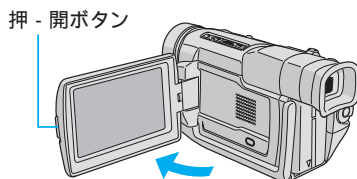
●「録画モード」が選択されます。

❺ ダイヤルを押す

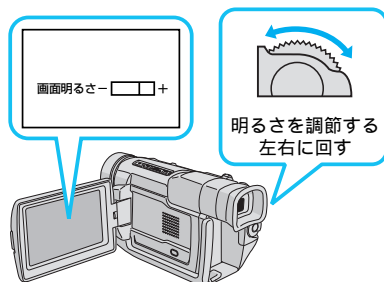
●「SP」と「LP」が表示されます。

❻ メニューダイヤルを回して「SP」または「LP」を選び、ダイヤルを押す

❼ メニューダイヤルを回して「◀戻る」を選び、ダイヤルを２回押す

●撮影画面に戻ります。

画面の明るさを調節する

画面の明るさ調節

液晶画面やファインダーの明るさを調節してから、撮影や再生を行います。

❶ ロック解除ボタンを押しながら電源ダイヤルを「撮る」に合わせる

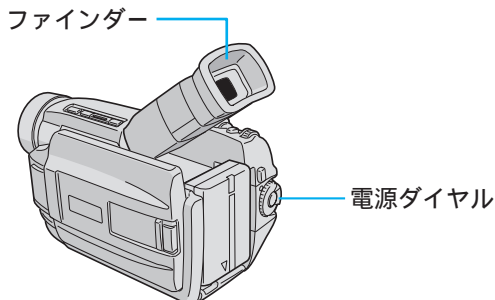
● 電源ランプが点灯し電源が入ります。

❷ 「押ー開」ボタンを押して液晶画面を開く

❸ メニューダイヤルを回す

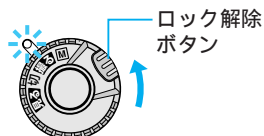
● 画面の明るさを調節します。

ファインダーの明るさ調節

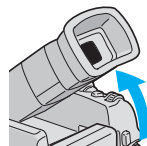
上の手順 ❷ で液晶画面を閉じて手順 ❸ をおこなう

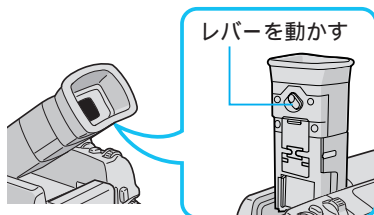
ファインダーの視度を調節する

ファインダーの視度調節

ファインダー内の表示が見やすくなるように調節します。

❶ ロック解除ボタンを押しながら電源ダイヤルを「撮る」に合わせる

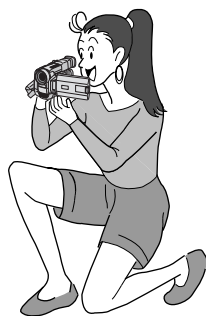
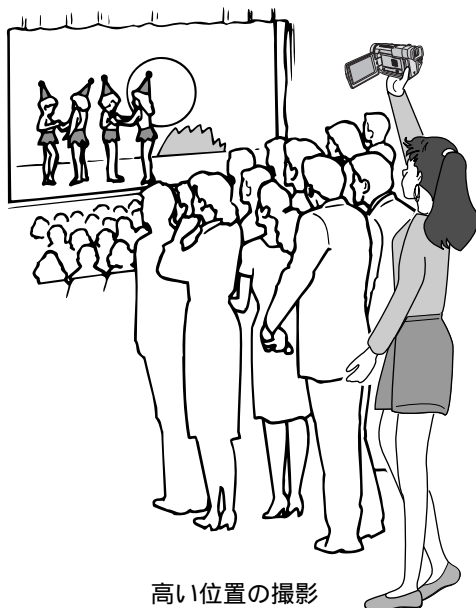
● 電源ランプが点灯し電源が入ります。

❷ ファインダーを上げる

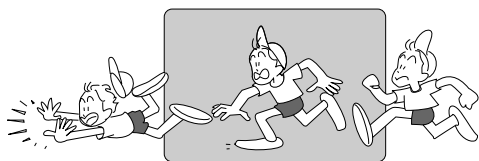
● 液晶画面は閉じておいてください。

❸ ファインダーをのぞいてレバーを動かす

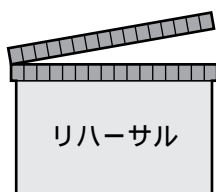
● ファインダー内の表示が良く見えるように調節します。

● ファインダーの角度調節
ファインダーは映像が見やすいように約 90 ° 動かすことができます。

撮影の基本

上手にとる姿勢

安定した画面を撮るためのコツは、画面の中の人が動いてもビデオカメラを動かさないことです。ふらつかず、安定した姿勢で撮影します。

撮影の基本操作

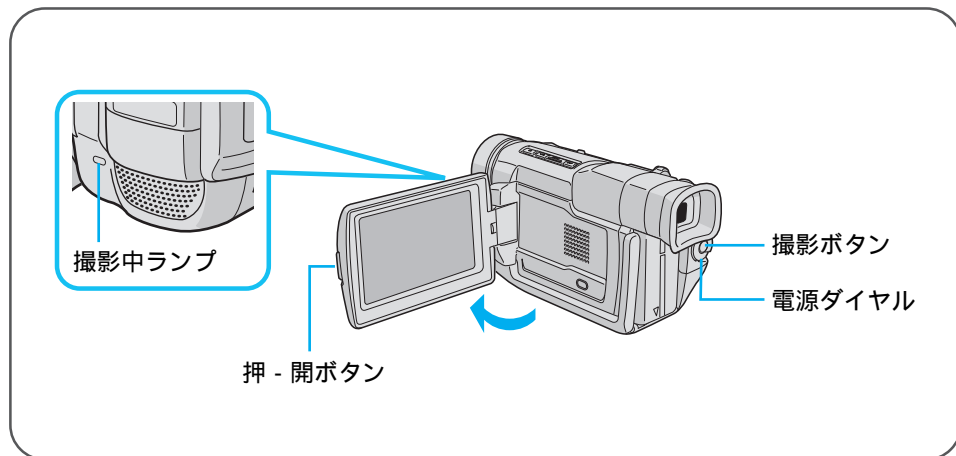
ビデオカメラを動かさない

安定した映像で撮影するためには、ビデオカメラを固定して撮ります。
左右に動かすとき（パンニング）や上下に動かすとき（チルディング）は、ゆっくり動かします。撮りはじめとと撮り終りは、ピタッと止めます。

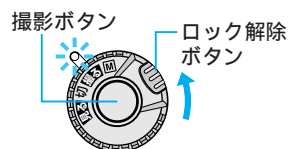
カメラリハーサルを行う

電源ダイヤルを撮るまたは M にすれば、テープを入れなくてもビデオカメラで撮っている映像を見ることができます。この状態で映像 / 音声コードをつなげば外部映像機器に出力することができます。

いろいろなアングルで撮影する

液晶画面は上に180°、下に90°回転します。液晶画面にご自分を映し、映り具合を見ながら撮影することもできます。液晶画面を開いて180°回転させ前に向けてください。レンズをご自分に向けて撮影すればビデオ日記などをお撮りになりたいときにご利用いただけます。

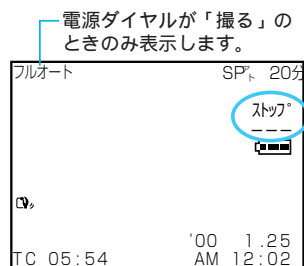
テープに撮影する

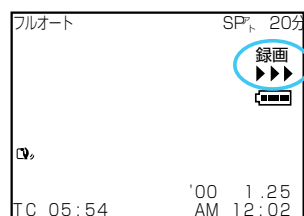
ピントや露出合わせも自動(フルオートモード)で、簡単に撮影できます。

❶ ロック解除ボタンを押しながら電源ダイヤルを「撮る」に合わせる

●電源ランプが点灯し電源が入ります。

❷ 「押ー開」ボタンを押して液晶画面を開く

●撮りたい被写体に合わせます。

電源ダイヤルが「撮る」のときのみ表示します。

フルオート SP 20分
ストップ
TC 05:54 '00 1.25 AM 12:02

❸ 撮影ボタンを押す

●録画が始まります。
●撮影中ランプが点灯します。
●再度押すと録画一時停止になり、ストップ表示がでます。

連続撮影時間の目安

バッテリー	ファインダー使用時	液晶画面使用時
BN-V416（付属）	2時間40分（1時間30分）	2時間10分（1時間20分）
BN-V428（別売）	4時間40分（2時間40分）	3時間50分（2時間20分）
BN-V840（別売）	6時間40分（3時間50分）	5時間20分（3時間20分）
BN-V856（別売）	9時間20分（5時間20分）	7時間30分（4時間40分）

（　）はライト使用時の時間

実撮影時間の目安

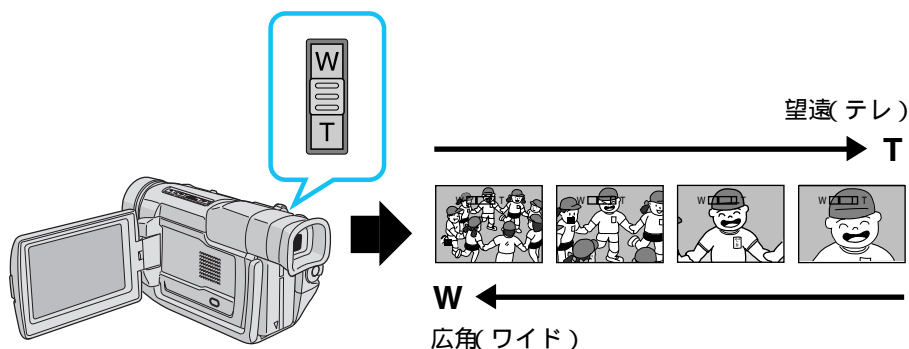
バッテリー	ファインダー使用時	液晶画面使用時
BN-V416（付属）	1時間15分（40分）	1時間（35分）
BN-V428（別売）	2時間10分（1時間10分）	1時間45分（1時間）
BN-V840（別売）	3時間10分（1時間45分）	2時間30分（1時間30分）
BN-V856（別売）	4時間20分（2時間30分）	3時間30分（2時間10分）

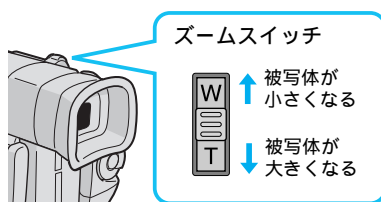
（　）はライト使用時の時間

連続撮影時間は、ズームを使ったり、撮影一時停止を繰り返すなどで短くなります。バッテリーは撮影予定時間の約3倍分をご用意されることをおすすめします。
連続して撮影するにはBN-V840またはBN-V856をおすすめします。（BN-V856はVU-V856KITに同梱されています。BN-V840はVU-V840KITに同梱されています。）
実撮影時間は撮影、撮影一時停止、電源の入/切、ズームなどを繰り返したときの撮影時間です。実際にはこれよりも短くなることがあります。

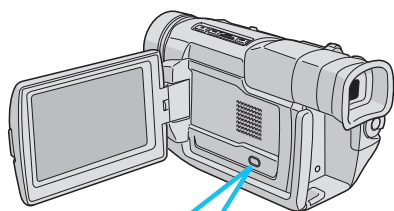
- **5分以上撮影を一時停止したときは**
  ビデオカメラの節電とテープ保護のため、自動的に電源が切れます。再び撮影したいときは、電源ダイヤルを一度「切」にしてから「撮る」または「M」に戻してください。
- **液晶画面が見づらいときは**
  光の反射などで液晶画面が見づらいとき、液晶画面を閉じてファインダーをのぞいて撮影することをおすすめします。液晶画面とファインダーは同時に使用できません。
- **LPモードで撮影すると**
  LPモードはSPモードに比べてテープの送り速度が遅くなるため、同じテープでも1.5倍長く撮影することができます。ただし、撮影後にアフレコ編集（☞82ページ）やインサート編集（☞84ページ）ができなくなります。お買い上げになった状態では、録画モードがSPモードに設定されています。36ページをご覧になり、必要に応じて録画モードを変更してください。
- **テープの残量を確認するには**
  撮影中は、自動的にテープの残量が表示されます。テープ残量は目安としてお使いください。使用するテープによっては正しく表示されないことがあります。また、80分テープの巻き始めでは、正しい残量表示をするまでに時間がかかったりすることがあります。テープの残量が残り2分となると表示が点滅し、テープが終わると「テープおわり」と表示されます。
- **バッテリー残量表示（▭）が点滅したら**
  バッテリーの残量が少なくなっています。バッテリーの残量がなくなると自動的に電源が切れます。電源が切れる前にバッテリーを交換してください。
- **正常に録画できない**
  ビデオヘッドが汚れているかもしれません（☞114ページ）。大切な撮影の前には試し撮りをして、正常に録画、録音されていることをご確認してください。

ズームして撮影する

被写体をズームして撮影することができます。被写体が遠いところにいるときや、画面に変化を付けたいときなどにご利用いただけます。

1 ズームスイッチを上下に動かす

●軽く動かすとゆっくりズームし、強く動かすと早くズームします。

- ●最大ズーム倍率 ➡ 何倍までズームを可能にするか変更できます。（☞96ページ）
- ●10倍以上のズーム（デジタルズーム） ➡ 10倍までの映像に比べて多少映像品質が劣化します。（デジタル処理をするため）
- ●接写したいとき（マクロ撮影） ➡ W側にいっぱいまで押すとレンズから約5cmまで被写体に近づいて撮影可能
  T側のときは、約1m、（テレマクロ“入”のときは約60cm）（ピントが合わない距離では、▲、▲、▼、● が点滅して自動的にズームがW側になります。）
- ●10倍以上のズームが使用できない ➡ 映像をデジタル処理する機能（ゴーストなど）との併用はできません。

ビデオライトを使用する

被写体や周囲が暗いときにライトを使用して撮影ができます。

❶ ビデオライトスイッチを設定する

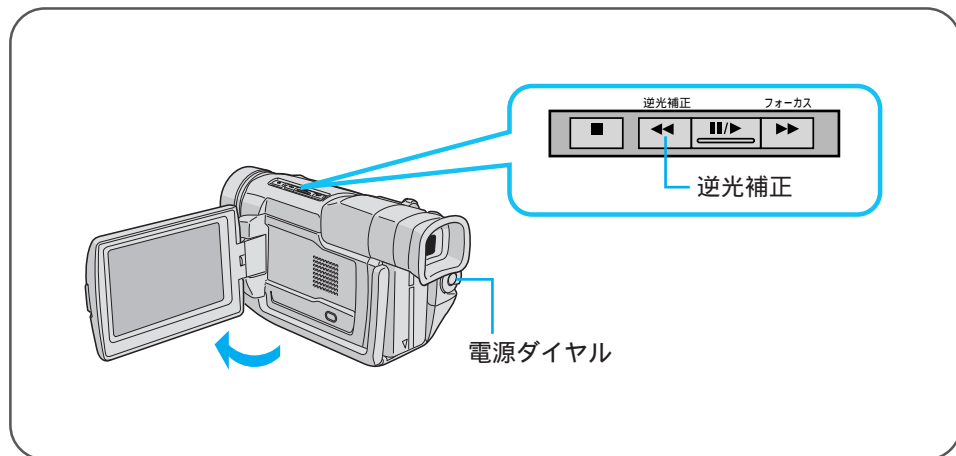
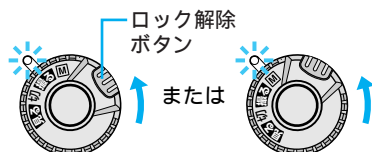
●ビデオライトスイッチをお好みの位置に合わせます。

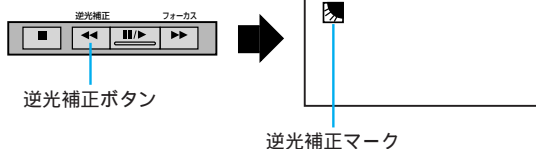
「切」　　：常にライトが消灯します。
「オート」：一定の暗さになると点灯します。
「入」　　：常にライトが点灯します。

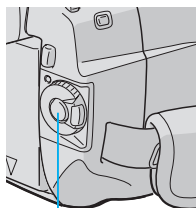
●ビデオライトが点灯しないとき
ビデオライトスイッチを「オート」に設定していても演出効果（☞68ページ）で「夜景」を選択しているときはビデオライトは点灯しません。

●バッテリーを長持ちさせて撮影するために
撮影しないときはビデオライトスイッチを「切」にしてください。室内では付属のＡＣチャージャーのご使用をおすすめします。

逆光を補正する

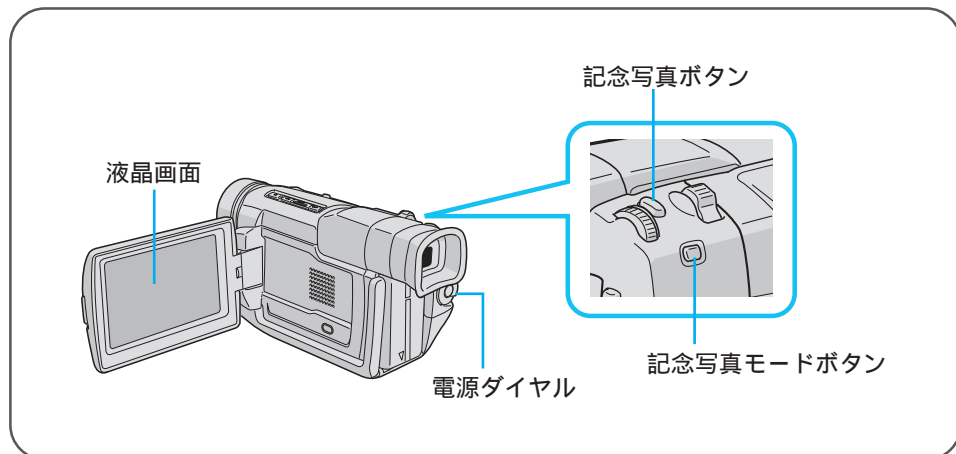
太陽などで背景が明るすぎて被写体が暗くなるとき、逆光補正ボタンで被写体が暗くならないように補正します。

❶ ロック解除ボタンを押しながら電源ダイヤルを「撮る」または「M」に合わせる

❷ 逆光補正ボタンを押す

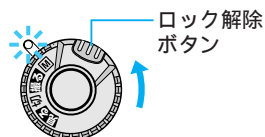
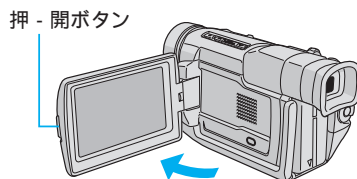
- 画面に逆光補正マークが表示されます。
- 再度押すと、逆光補正を解除します。

❸ 撮影ボタンを押す

●録画が始まります。

●逆光補正ボタンを使うと
被写体の周囲が明るくなりすぎて白くなることがあります。

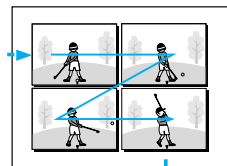
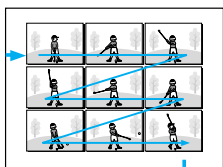
●より適切な明るさに調節するときは
明るさ補正メニュー（☞60ページ）で設定してください。
明るさ補正メニュー（☞60ページ）で明るさ補正しているときは、逆光補正ボタンは、使えません。

テープに静止画（記念写真）を撮る

ビデオテープの中に写真のような映像を挿入することができます。被写体の表情などをワンポイントで記録したいときなどに効果的です。

1 ロック解除ボタンを押しながら電源ダイヤルを「M」または「撮る」に合わせる

● 電源ランプが点灯して電源が入ります。

2 「押ー開」ボタンを押して液晶画面を開く

3 記念写真モードボタンを押してお好みのモードに合わせる

フレーム → フル → 4マルチ → 9マルチ → ピンナップ → フレーム

●ボタンを押すたびにモード表示が切替ります。

記念写真ボタンを押す

●静止画像が約 6 秒間記録されます。

●押し続けると静止画像が約1秒ごとに連写されます。

●撮影中に記念写真を撮影したときは
静止画像が約 6 秒間記録され通常の撮影に戻ります。

●記念写真撮影ができないときは
記念写真ボタンを押したとき画面に「PHOTO」が点滅してお知らせします。

●演出効果を設定していても記念写真撮影時に働かないものがあります。
このようなときは、演出効果アイコンが点滅してお知らせします。

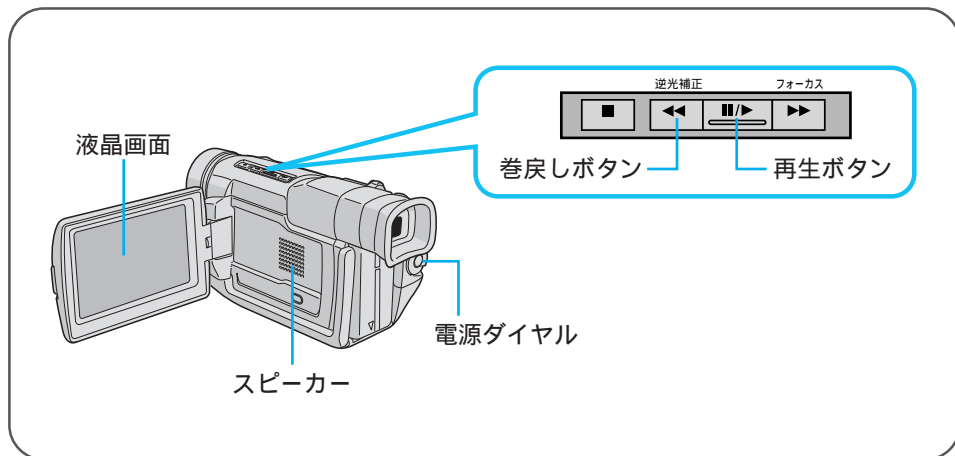
●AV 端子にコードが接続されているときは
「カシャッ」音は出ません。ただし、テープには記録されます。

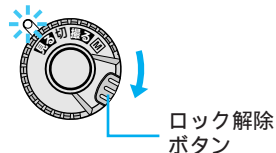
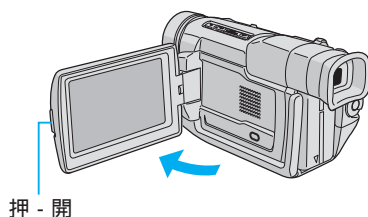
●再生中も記念写真モードを使えます
「カシャッ」音は出ません。

●4マルチ、9マルチモードを設定していてもデジタルズーム中は、フルモードで記録されます。

再生する

ビデオカメラの画面で映像を見る

ビデオカメラの液晶画面で再生映像を見ることができます。撮ったその場で映像を確認したいときなどにご利用ください。

1 ロック解除ボタンを押しながら電源ダイヤルを「見る」に合わせる

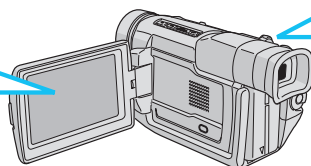
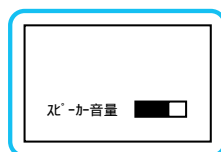
- 電源ランプが点灯し、電源が入ります。

2 「押ー開」ボタンを押して液晶画面を開く

3 巻戻しボタン（◀◀）を押してテープを巻戻す

4 再生ボタン（II/▶）を押す

- 画面に再生映像が映り、音声がスピーカーから出ます。
- 再生をやめたいときは、停止ボタン（■）を押します。

音量調節するには

スピーカー音量

W − 音量 + T

小さくなる

大きくなる

音量を調節する
上下に押す

色々な再生

こうして見たい	このボタンを押す		ふつうの再生に戻す
・画面を見ながら早送りして探し見したい（早送り再生）9倍速	再生中に ▶▶	1度ポンと押す	II/▶ 再生ボタンを押す
		押し続ける	指を離す
・画面を見ながら巻戻しして探し見したい（巻戻し再生）9倍速	再生中に ◀◀	1度ポンと押す	II/▶ 再生ボタンを押す
		押し続ける	指を離す
・画面を一時停止させて見たい（静止画再生）	再生中に II/▶		II/▶ 再生ボタンを押す
・スローで再生したい（スロー再生）	静止画再生中に（リモコンで操作） ◀I スロー I▶ どちらか一方を2秒以上押す		II/▶ ▶ ビデオカメラまたはリモコンの再生ボタンを押す 正転スロー再生を約2分、または逆転スロー再生を約1分続けると自動的に通常再生に戻ります。
・コマ送りで再生したい（コマ送り再生）	静止画再生中に（リモコンで操作） ◀I スロー I▶ どちらか一方を押すたびにコマ送りします またはメニューダイヤルを回します。（＋側：正転、－側：逆転）		II/▶ ▶ ビデオカメラまたはリモコンの再生ボタンを押す

●静止画再生を約３分以上続けると自動的に停止します。

●高速再生、スロー再生中は多少モザイクのかかったような映像になります。また、音声は出ません。

●スローボタンを押すと数秒間静止画になり、その後青い静止画（ブルーバック）が数秒間表示されるときがあります。故障ではありません。

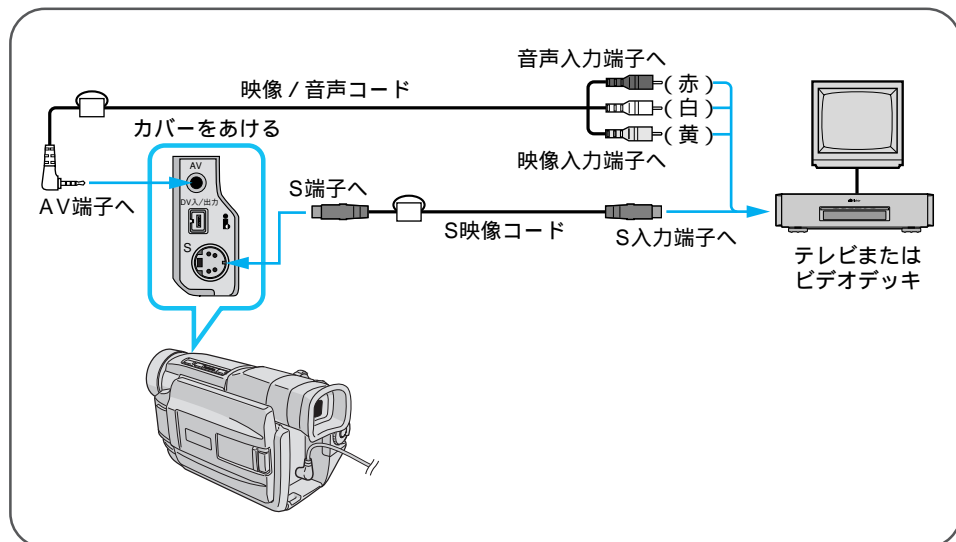
●停止状態を５分以上続けると電源が自動的に切れます。ただし、電源ダイヤルが「見る」で、ＡＣアダプターからの電源供給時は、電源が切れません。

●静止画にするために II/▶（またはリモコンの ▶）を押しても映像が静止するまでに多少時間がかかることがあります。

●モザイク状のノイズが出たり、青い画面のまま映像が出ないときは、ヘッドを清掃してください。（☞114ページ）

基本

テレビまたはビデオデッキにつないで映像を見る

みんな揃ってビデオを楽しみたいときなど、ビデオカメラをご家庭のテレビやビデオデッキにつないで再生することができます。S映像端子付きのテレビまたはビデオデッキと本機をS映像コードを使ってつなぐと、より高画質の映像をお楽しみいただけます。

1 ビデオカメラをテレビまたはビデオデッキに接続する

2 ロック解除ボタンを押しながら電源ダイヤルを「見る」に合わせる

3 テレビ、またはビデオデッキの電源を入れる

- 電源は必ず接続後に入れてください。電源を入れたまま接続を行なうと、機器の故障の原因となります。

❹ テレビのチャンネルやビデオデッキの入力モードを設定する

● ビデオカメラをテレビに接続したとき
テレビの入力モードをビデオカメラを接続した端子に切り替えます。
(例えば「ビデオ1、ビデオ2、ムービー」など)。

● ビデオカメラをビデオデッキに接続したとき
テレビをビデオを見るチャンネルに合わせ、ビデオデッキの入力モードを外部入力に切り替えます。

● 急に大きな音が出たりしないように、テレビの音量は最小にしておいてください。

基本

❺ 再生ボタンを押す

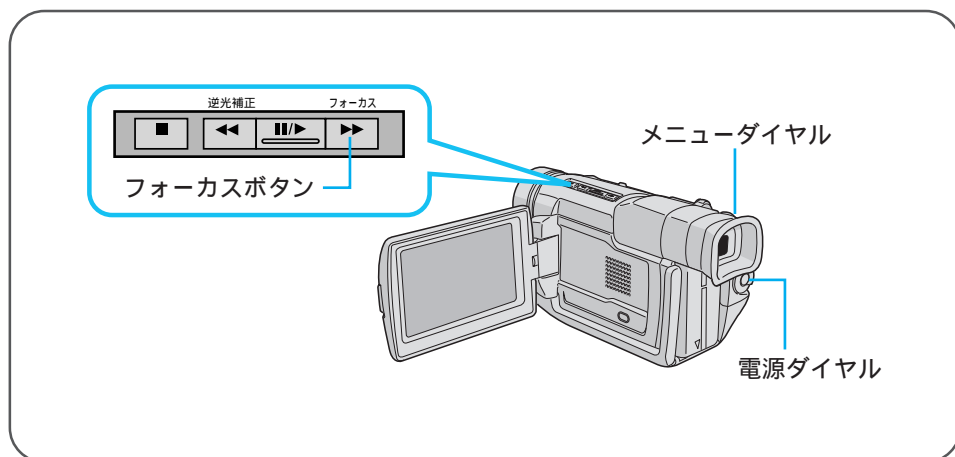
● ご使用になるテレビやビデオデッキによって、入力モードの設定方法は異なります。詳しくはテレビやビデオデッキの取扱説明書を参照してください。

● テレビから「ピー」「ウワーン」というノイズ音が出るときは、テレビからビデオカメラを離すか、テレビの音量を下げてください。

● 再生時のメッセージ表示を消すには(☞72、74、102ページ)

手動[マニュアル]撮影

ピントを手動で合わせる(マニュアルフォーカス)

オートフォーカスでは、約5センチから無限遠まで自動的にピントが合います。しかし、ピントが合いにくいときや被写体が画面中央にないときは、手動でピントを合わせてください。フォーカスはお買い上げになった状態ではオートモードに設定されています。

❶ 電源ダイヤルを「M」に合わせる

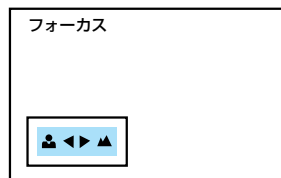
❷ フォーカスボタンを押す

● ピントの調整モードになります。

❸ メニューダイヤルを回してピントを合わせる

●被写体が良く見えるように合わせます。

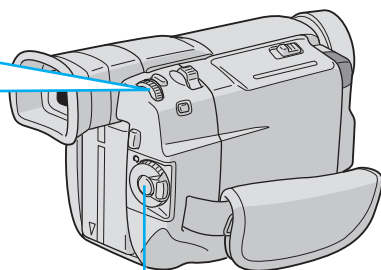
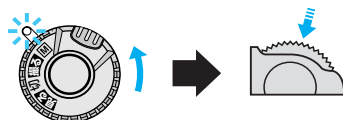
❹ メニューダイヤルを押す

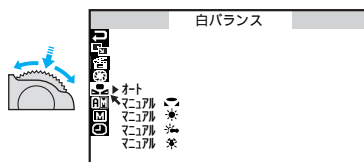
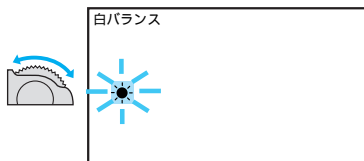
●フォーカスが固定します。固定したピントを合わせ直したいときは、手順 ❷からくり返します。

●ピントをオートフォーカスにするには
・手順 ❷ でフォーカスボタンを 2 回押します。
・電源ダイヤルを「撮る」に合わせてもオートフォーカスに切り替えることができます。

●こんなときに手動でピントを合わせます
・平らな壁や青空など、コントラスト（明暗差）のほとんどない被写体を撮るとき
・金網などの障害物が被写体との間にあるとき
・細かい模様や同じ模様が規則正しく並んでいる被写体を撮るとき
・蛍光灯などのちらつきのある光源の下で撮影するとき

●フルオートモードでは画面中央にピントが合います。

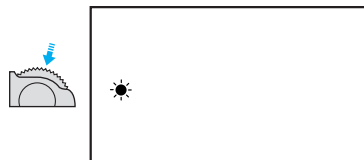
色のバランスを調節する(白バランス)

撮る(フルオート)モードでは、ビデオカメラは撮影する色のバランスを自動で調整します。しかし、天候やライトなど光源の状態によってはマニュアルモードで色のバランスを調節することができます。手動で色のバランスを調節すると、設定した色のバランスで撮影することができます。「白バランス」はお買い上げになった状態では「オート」に設定されています。

❶ 電源ダイヤルを「M」に合わせ、メニューダイヤルを押す

❷ メニューダイヤルで「」に合わせダイヤルを押す

●白バランスメニューが表示されます。

❸ メニューダイヤルでモードを選択する

次の5つのモードから選択できます。

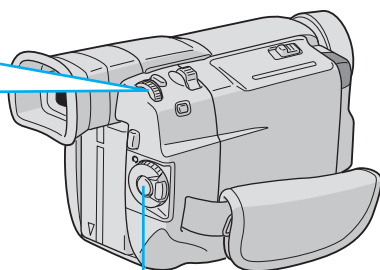
- オート ……………… 自動的に色のバランスを調節します。フルオートモードでは「オート」に設定されています。
- ワンタッチ ……… あらかじめ被写体に合わせて設定しておいた色のバランスで撮影したいときに選択します。(☞58ページ)
- ☀ ……………… 晴れた日に屋外で撮影するときに選択します。
- ☁ ……………… 曇りの日や日陰で撮影するときに選択します。
- 💡 ……………… ビデオライトなどで撮影するときに選択します。

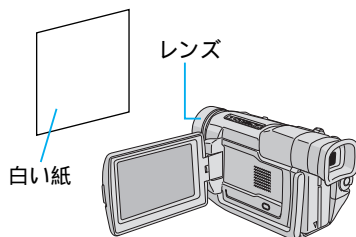
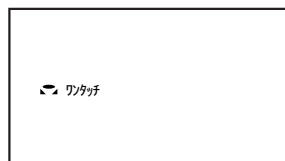
❹ メニューダイヤルを押す

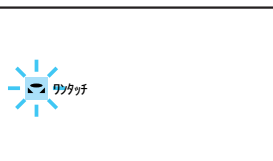
●色バランスが固定されます。

●色のバランス調節を自動調節に戻すには
・手順❸で「オート」を選択します。
・電源ダイヤルを「撮る」に合わせても自動調節に切り替えることができます。

応用

ワンタッチで色のバランスを設定する

被写体に合った色のバランスを「ワンタッチ」に設定しておく方法を説明します。

❶ レンズの前に白い紙を置き、画面いっぱいに白い紙を映します。

- ピントが合いにくいときは、マニュアルフォーカス(☞54ページ)であわせてください。
- 裏の透けない紙(コピー用紙など)をお使いください。

❷ 前ページ(☞57ページ)の手順❸で「ワンタッチ」を選ぶ

❸「 」が点滅するまでメニューダイヤルを押し続ける

●「 」の点滅が止まったところの色のバランスが、ビデオカメラに記憶されます。

❹メニューダイヤルを押す

●画面上の「ワンタッチ」が「 」だけになります。

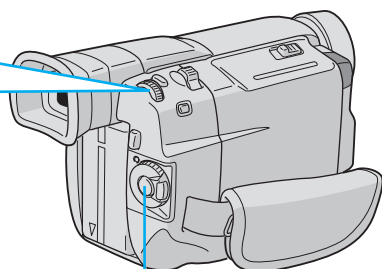
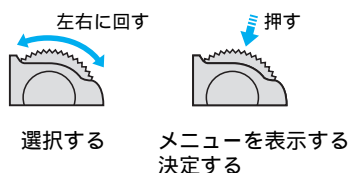
応用

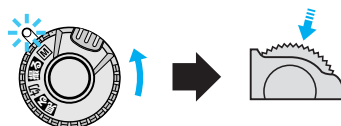
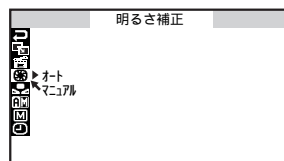
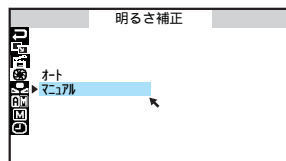
●設定した色のバランスは
「ワンタッチ」に別の色のバランスを設定するまで記憶されています。

●室内で撮影するときは
外光、蛍光灯、ロウソクの光など、いろいろな光源が被写体にあたります。自然な色合いで撮影したいときは色のバランスを調節してください。

●色紙を使って色のバランスを調節するときは
手順❶で色紙を置いて色のバランスを調節すると、白い紙を置いて調節したときとはちょっと変わった色合いの撮影がお楽しみいただけます。
例）
赤い紙で調節した場合　：青緑がかった色で撮影されます。
青い紙で調節した場合　：オレンジ色で撮影されます。
黄色い紙で調節した場合：青紫がかった色で撮影されます。

画像の明るさを調節する(明るさ補正)

ビデオカメラは映像の明るさを自動調整して撮影しますが、太陽などで背景が明るすぎて被写体が暗くなるときは、逆光補正ボタンを使用します。(☞46ページ)しかし逆光補正ボタンで補正できないときや背景に比べて被写体が明るすぎるときなどは、手動で明るさを調節します。「明るさ補正」はお買い上げになった状態では「オート」に設定されています。

❶ 電源ダイヤルを「M」に合わせ、メニューダイヤルを押す

●メニューが表示されます。

❷ メニューダイヤルで「⊡」を選び、ダイヤルを押す

❸ メニューダイヤルで「マニュアル」を選び、ダイヤルを押す

❹ メニューダイヤルを回して明るさを調節する

● 被写体を程良い明るさに調節します。
●「＋ 3」は、逆光補正ボタンと同じ効果です。

左に回す：暗くする（–6まで） ⟷ 右に回す：明るくする（+6まで）

❺ メニューダイヤルを押す

● 明るさの補正が固定されます。
固定した明るさを合わせ直したいときは、手順❷からくり返します。

応用

● 明るさ調節を自動調節にするには
・手順❸で「オート」を選択します。
・電源ダイヤルを「撮る」に合わせても自動調節に切り替えることができます。

● 一定の明るさで撮影するには
・手順❹のあと、メニューダイヤルを 2 秒以上押す
明るさ調節表示の数字の横に L が表示されます。
・再度メニューダイヤルを押す
明るさが固定されます。動きのある被写体や、ズーム操作で画面上の被写体を一定にすることができます。

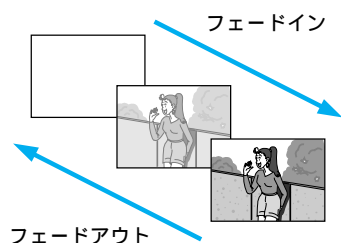
●「明るさ補正」を「マニュアル」にしたときは逆光補正ボタンが使えません。

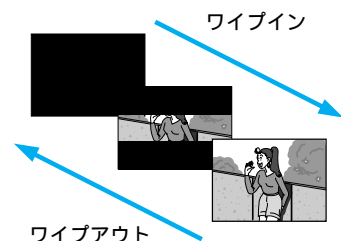
変化をつけて映像をつなぐ(場面切替)

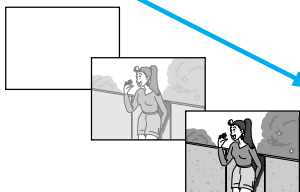
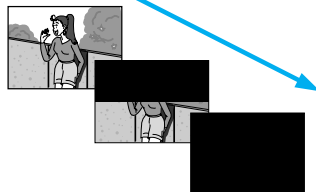
場面と場面の間に変化を付けて映像をつなぐことができます。実際に「場面切替」をご利用になる前に、どのように映像がつながるのかをイラストを使って説明します。

「白・黒画面で切替」を使ったときの効果

1) フェーダー効果

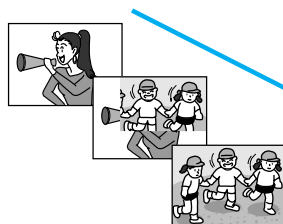
ビデオの撮り始めと撮り終わりをフェードイン、フェードアウトでつなぎます。「フェーダー:白」「フェーダー:黒」「フェーダー:モザイク」「フェーダー:白黒」がご利用いただけます。

2) ワイプ効果

ビデオの撮り始めと撮り終わりをワイプイン、ワイプアウトでつなぎます。
「ワイプ:コーナー」「ワイプ:ウィンドウ」「ワイプ:スライド」「ワイプ:ドア」「ワイプ:スクロール」「ワイプ:シャッター」がご利用いただけます。

「ランダムに切替」を使ったときの効果

「白・黒画面で切替」の中から使用する場面切替をビデオカメラがランダムに選び、画面を切り替えていきます。

「最後の映像（静止画）で切替」を使ったときの効果

1）オーバーラップ
ビデオの撮り始めをオーバーラップでつなぎます。

2）アイコンに P の付いているワイプ効果
ビデオの撮り始めをワイプインでつなぎます。
「ワイプ：コーナー」「ワイプ：ウィンドウ」「ワイプ：スライド」「ワイプ：ドア」「ワイプ：スクロール」「ワイプ：シャッター」がご利用いただけます。

応用

場面切替の種類

場面切替には 18 種類の効果があります。

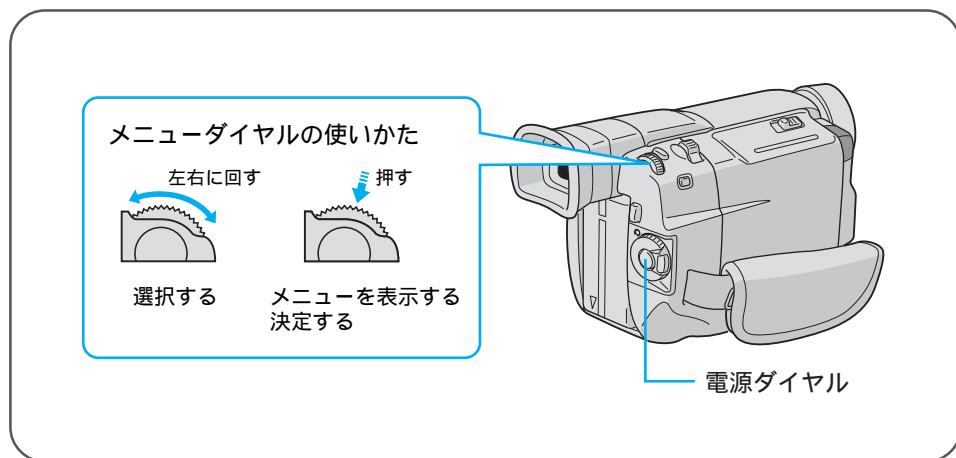
分　類	アイコン	効　果
白・黒画面で切替	白 フェーダー：白	白い画面でフェードイン、フェードアウトします。
	黒 フェーダー：黒	黒い画面でフェードイン、フェードアウトします。
	フェーダー：モザイク	モザイク画面でフェードイン、フェードアウトします。
	白黒 フェーダー：白黒	白黒画面からカラー画面にフェードインし、カラー画面から白黒画面にフェードアウトします。
	ワイプ：コーナー	黒い画面の右上から左下へ映像が徐々にワイプインし、左下から右上へワイプアウトします。
	ワイプ：ウィンドウ	黒い画面の中心から映像が徐々にワイプインし、画面の中心へワイプアウトします。
	ワイプ：スライド	黒い画面の右から左へ映像が徐々にワイプインし、左から右へワイプアウトします。
	ワイプ：ドア	黒い画面の中央から映像が左右にドアを開けていくように徐々にワイプインし、閉めていくようにワイプアウトします。
	ワイプ：スクロール	黒い画面から映像が下から上へ徐々にワイプインし、上から下へワイプアウトします。
	ワイプ：シャッター	黒い画面の中央から映像が上下に徐々にワイプインし、上下から中央にワイプアウトします。

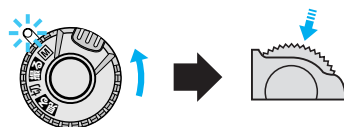
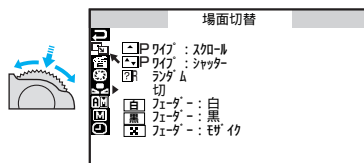
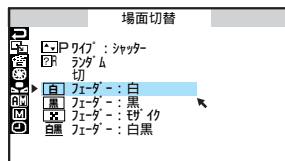
分　類	アイコン	効　果
最後の映像（静止画）で切替	P　オーバーラップ	最後に撮った映像から次の撮影の映像が徐々に浮かび上がっていくように場面を切り替えます（オーバーラップ）。
	P　ワイプ：コーナー	最後に撮った映像の右上から左下へ徐々にワイプインします。
	P　ワイプ：ウィンドウ	次の撮影の映像が、最後に撮った映像の中心から徐々にワイプインします。
	P　ワイプ：スライド	次の撮影の映像が、最後に撮った映像の右から左に徐々にワイプインします。
	P　ワイプ：ドア	次の撮影の映像が、最後に撮った映像の中央から左右にドアを開けていくように徐々にワイプインします。
	P　ワイプ：スクロール	次の撮影の映像が、最後に撮った映像の下から上に徐々にワイプインします。
	P　ワイプ：シャッター	次の撮影の映像が、最後に撮った映像の中央から上下に徐々にワイプインします。
ランダムに切替	?R　ランダム	「白・黒画面で切替」の中から使用するモードをビデオカメラがランダムに選び、場面を切り替えていきます。
–	切	「場面切替」を使用しないときに選択します。

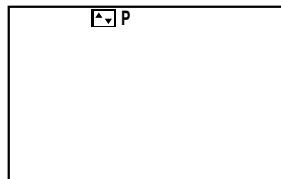
●アイコンが点滅しているとき、またはアイコンが表示されないときは、その機能は動作しません。
(☞67、111 ページ)

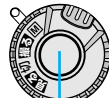
設定方法は 66 ページからです。

場面切替を設定する

場面切替の効果を設定する方法を説明します。

❶ 電源ダイヤルを「Ⓜ」に合わせ、メニューダイヤルを押す

● メニュー画面が表示されます。

❷ メニューダイヤルで「▣」を選び、ダイヤルを押す

❸ メニューダイヤルでお好みの場面切替を選ぶ

❹ メニューダイヤルを押す

●「場面切替」画面が消え、選択した場面切替が設定されます。
画面に選択した場面切替のアイコンが表示されます。

❺ 撮影ボタンを押す

●選択した場面切替でビデオを撮り始めます。
●もう一度撮影ボタンを押すと選択した場面切替でビデオを撮り終えます。

撮影ボタン

例：P ワイプシャッターの場合

●場面切替設定をやめたいときは
手順❸で「切」を選択します。

●場面切替設定と演出効果設定（☞64、68ページ）を一緒に使うと
さらに効果的なビデオ撮影をお楽しみいただけます。ただし、演出効果設定と一緒に使えない場面切替があります。
場面切替設定アイコンが点滅して、使えない機能であることをお知らせします。

●電源を切ってしまったときは
「最後の映像で切替」（アイコンに P の付いている切替）を設定したとき、電源が切れると、ビデオカメラに記憶されている最後の映像が消えてしまいます。このとき、場面切替設定アイコンが点滅しますので、もう一度通常の撮影をしてから場面切替を行ってください。
撮影一時停止を 5 分以上続けても電源が切れますので、注意してください。

応用

映像に変化をつける(演出効果)

映像そのものに変化をつけてビデオを撮る方法を説明します。被写体を何重にも重ねて撮影したり、暗い場所の被写体を明るく撮影することなどができます。演出効果は全部で12種類の効果があります。

アイコン	効　果
1/60　シャッター1/60	シャッタースピードを1/60に固定します。テレビ画面などを撮影するときに出る黒い帯は細くなります。
1/100　シャッター1/100	シャッタースピードを1/100に固定します。蛍光灯や水銀灯の光で撮影するときに出るちらつきは少なくなります。(50Hz地域のみ)
1/250　シャッター1/250	シャッタースピードを1/250に固定します。動きの早いものを1コマ1コマ鮮明に撮ることができます。シャッタースピードが早くなればなるほど画面が暗くなるので、できるだけ明るい場所で撮影してください。
1/500　シャッター1/500	シャッタースピードを1/500に固定します。動きの早いものを1コマ1コマ鮮明に撮ることができます。シャッタースピードが早くなればなるほど画面が暗くなるので、できるだけ明るい場所で撮影してください。
★☾　夜景	夜景などを撮るとき、映像がザラザラせず、自然な感じで録画することができます。「白バランス」は ☀ になりますが、お好みの設定に変えることができます。 ピントは、10m〜無限遠の間では自動的に合います。10m以内の間では手動で合わせてください。

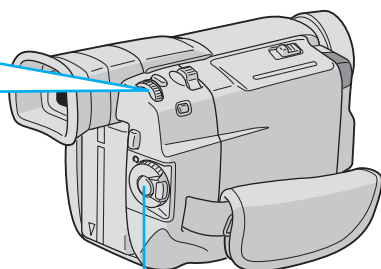
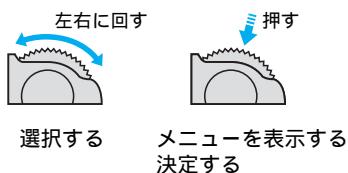
アイコン	効　果
セピア	古い写真のようなセピア色で映像を記録します。「ワイド効果」の「ワイド」や「シネマ」（☞100ページ）と合わせて使うと、古い白黒映画のような雰囲気をお楽しみいただけます。
B/W　ブラック/ホワイト	映像を白黒で記録します。「ワイド効果」の「ワイド」や「シネマ」と合わせて使うと、白黒映画のような雰囲気をお楽しみいただけます。
映画効果	早いコマ落とし効果を付けて映像を記録します。
ストロボ	コマ落としの効果で、連続写真のように記録します。
1　高感度　4倍	暗い場所の映りにくい被写体を、通常よりも約4倍明るく浮かび上がらせて撮影することができます。（シャッター速度は1/15秒です。）
2　高感度　10倍	暗い場所の映りにくい被写体を、通常よりも約10倍明るく浮かび上がらせて撮影することができます。（シャッター速度は1/6秒です。）
ゴースト	被写体が何重にもなって撮影されます。幻想的な雰囲気を出したいときなどに効果的です。
切	「演出効果」を使用しないときに選択します。

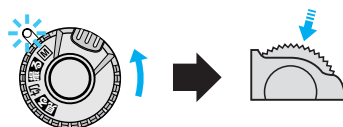
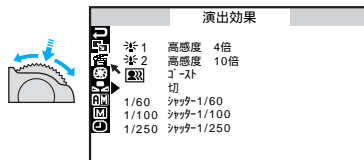
- アイコンが点滅しているとき、またはアイコンが表示されないときは、その機能は動作しません。
（☞70、111 ページ）

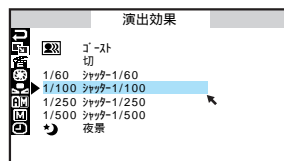
設定方法は 70 ページからです。

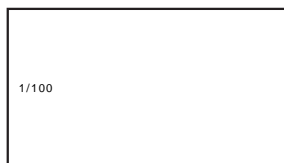
応用

演出効果を設定する

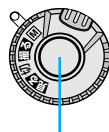
演出効果を設定する方法を説明します。

1 電源ダイヤルを「M」に合わせ、メニューダイヤルを押す

● メニュー画面が表示されます。

2 メニューダイヤルで「」を選び、ダイヤルを押す

●演出効果設定と場面切替設定を一緒に使うとさらに効果的なビデオ撮影をお楽しみいただけます。ただし、場面切替設定と一緒に使えない演出効果があります。演出効果設定アイコンが点滅して、使えない機能であることをお知らせします。

❸ メニューダイヤルでお好みの演出効果を選ぶ

❹ メニューダイヤルを押す

●「演出効果」画面が消え、選択した演出効果が設定されます。画面に選択した演出効果のアイコンが表示されます。

1/100

❺ 撮影ボタンを押す

●選択した演出効果でビデオを撮り始めます。

撮影ボタン

応用

●演出効果設定をやめたいときは
手順❸で「切」を選択します。

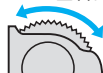
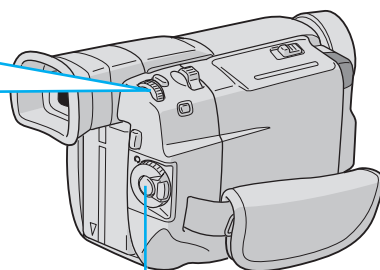
●シャッターモードを使うときは
シャッタースピードが速くなればなるほど画面が暗くなります（1/60、1/100、1/250、1/500の順で暗くなります）。できるだけ明るい場所で撮影してください。

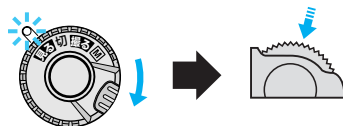
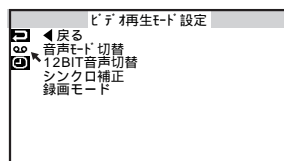
●高感度モードを使うときは
暗いところでのみお使いください。撮影した映像はコマ落としのようになります。手動フォーカス表示が出て点滅したときは、ピントを手動で合わせ、三脚などで固定してください。

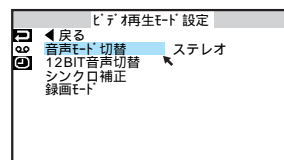
●ゴーストを設定しているときは
デジタルズームはご利用いただけません。

色々な再生

再生音声を切り替える（音声モード切替と12BIT音声切替）

アフレコ編集（☞82ページ）したビデオでは、撮影時の音声とアフレコ時に録音した音声（アフレコ音声）の再生を選択できます。また、ビデオカメラは常にステレオ音声で録音しますが、片方のスピーカの音声のみを再生することもできます。
アフレコ音声の切り替え［12BIT 音声切替］は撮影時の音声を再生するか、アフレコ音声を再生するか設定します。
ステレオ音声の切り替え［音声モード切替］はビデオの音声をステレオまたは左右どちらかのみで再生するか設定します。

1 電源ダイヤルを「見る」に合わせ、メニューダイヤルを押す

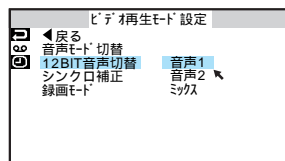
●メニュー画面が表示されます。

2 メニューダイヤルを押す

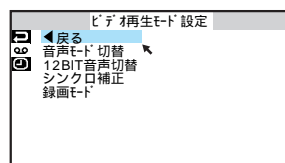
3 メニューダイヤルで「音声モード切替」、または「12BIT 音声切替」を選び、ダイヤルを押す

❹ メニューダイヤルでお好みのモードを選び、ダイヤルを押す

●「音声モード切替」のモードについて

ステレオ ：ステレオ音声で聞きたいとき
音声 L ：左の音声のみ聞きたいとき
音声 R ：右の音声のみ聞きたいとき

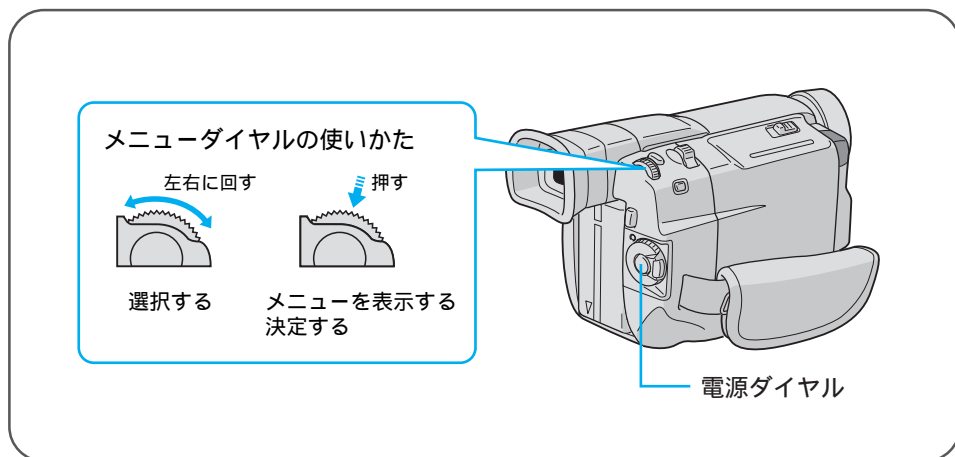
●「12BIT 音声切替」のモードについて

音声 1 ：撮影時の音声を聞きたいとき
音声 2 ：アフレコ音声を聞きたいとき
ミックス ：撮影時の音声とアフレコ音声を同時に聞きたいとき

❺ メニューダイヤルで「戻る」を選び、ダイヤルを2回押す

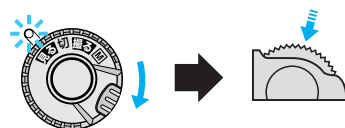
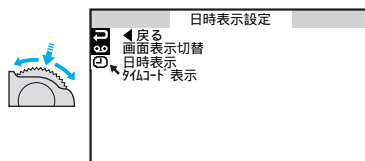
●メニューを終了し、通常の再生画面に戻ります。

●再生中の音声モード（12BIT/16BIT）を確認するには
ビデオカメラは、ビデオの音声モードを自動判別して再生します。ビデオを再生すると、画面の左上端に再生中の音声モードが表示されます（早送り/巻戻し再生中は自動判別できません）。

●12BIT/16BIT 音声について
従来のビクター製ビデオカメラでは、12BIT 音声を 32kHz音声、16BIT 音声を 48kHz音声と表現しています。

日時の表示

ビデオを撮影すると、撮影した日時が自動的にビデオに記録されます。ここでは、ビデオを再生するときに撮影した日時を消す方法を説明します。メニューの「日時表示」はお買い上げ時には「入」に設定されています。表示を消すときは「切」、出すときは「入」にします。

例）「日時表示」を「切」に設定する

❶ 電源ダイヤルを「見る」に合わせ、メニューダイヤルを押す

● メニュー画面が表示されます。

❷ メニューダイヤルで「🕘」を選び、ダイヤルを押す

❸ メニューダイヤルで「日時表示」を選び、ダイヤルを押す

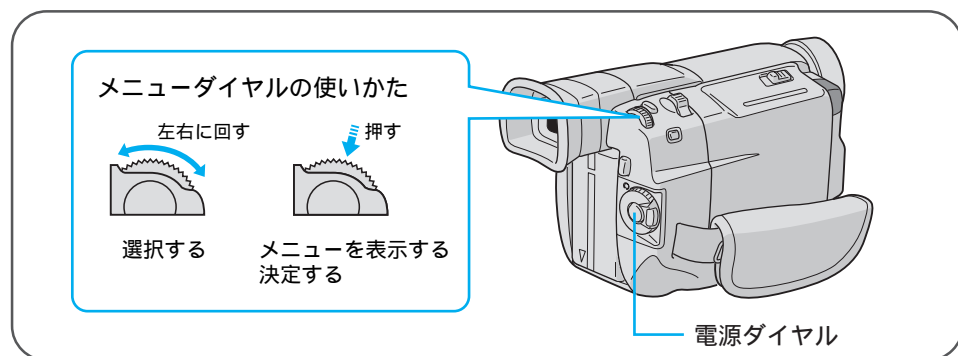
❹ メニューダイヤルで「切」を選び、ダイヤルを押す

❺ メニューダイヤルで「戻る」を選び、ダイヤルを２回押す

- メニューを終了し、通常の再生画面に戻ります。

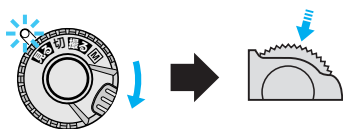
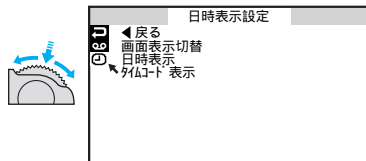
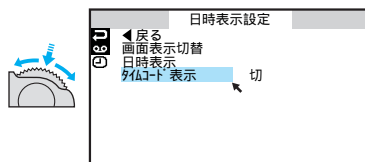
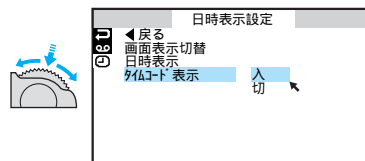
日時表示設定メニューは、電源ダイヤルが「M」のときも表示することができます。（☞104ページ）

タイムコードの表示

ビデオを撮影すると、タイムコード(ビデオ撮影開始からの「分:秒:フレーム」)が自動的にビデオに記録されます。タイムコードはビデオを編集するときなどに使用します。
ここでは、ビデオを再生するときにタイムコードを表示させる方法を説明します。メニューの「タイムコード表示」はお買い上げ時には「切」に設定されています。

例)「タイムコード表示」を「入」に設定する

1 電源ダイヤルを「見る」に合わせ、メニューダイヤルを押す

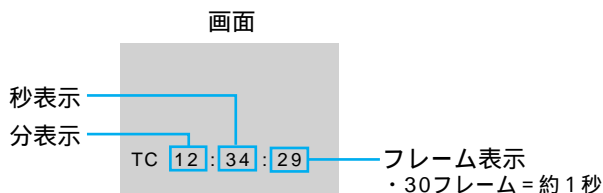
2 メニューダイヤルで「◷」を選び、ダイヤルを押す

日時表示設定メニューは
電源ダイヤルが「M」のときも表示することができます。(☞104ページ)

3 メニューダイヤルで「タイムコード表示」を選び、ダイヤルを押す

4 メニューダイヤルで「入」を選び、ダイヤルを押す

5 メニューダイヤルで「戻る」を選び、ダイヤルを2回す

● メニューを終了し、通常の再生画面に戻ります。

タイムコードと無記録部分

タイムコードとは

撮影中、ビデオカメラはテープの１コマ１コマにタイムコードと呼ばれる数字を記録していきます。タイムコードはビデオの撮影、再生や編集の際に、映像の位置を確かめる目安になります。自動編集（☞96 ページ）などはタイムコードを利用して行います。

- 早送り、巻き戻し時のタイムコード表示は、ビデオカメラがテープの位置を確認するため、タイムコードが数秒間前後することがあります。
- 撮影中は、分と秒のみ表示されます。

応用

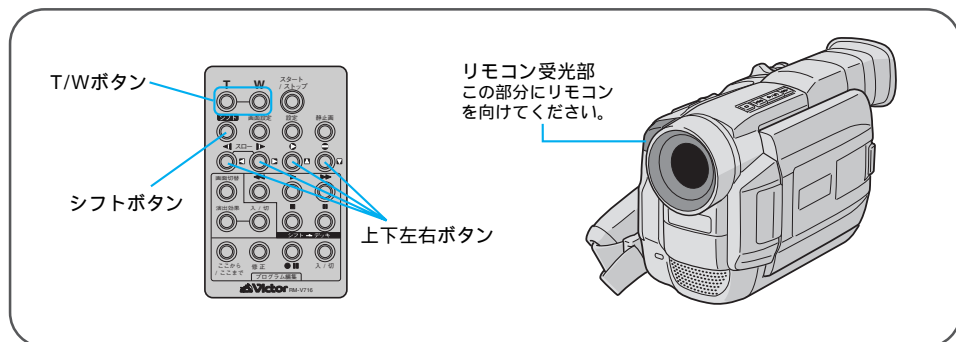
テープの途中に無記録部分があると誤動作の原因となります

テープに何も記録されていない部分を無記録部分と言います。同じテープの中の何も記録されていない部分から撮影を開始すると、タイムコードは「00:00:00」（分:秒:フレーム）から新たにタイムコードを記録していきます。１本のテープの中に複数の同一タイムコードが記録されるため、自動編集などの誤動作の原因になります。

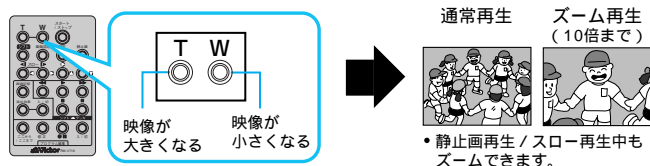
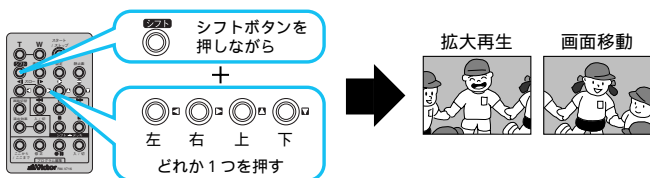
次のような場合は一度再生して、場面の終わりを確かめてから撮影してください。

- 撮影後に確認のため再生してみたテープで引き続き撮影するとき
- 撮影の途中で電源やバッテリーが切れたとき
- 使い切っていないテープをビデオカメラから出し入れして撮影するとき
- 途中まで撮影したテープを使って撮影するとき
- テープの途中にある無記録部分に撮影したいとき
- 撮影後にテープのテープカバーを開閉した後で撮影するとき

再生ズーム、画面の移動

付属のリモコン(☞108ページ)を使うと、ビデオカメラでビデオを再生しているときに、画面をズームすることができます。また、ズームした映像の中のお好きな場所に画面を移動させることができます。ここでは画面のズームと移動方法を説明します。

1 再生中に画面をズームさせるには、リモコンの「T」ボタンを押す

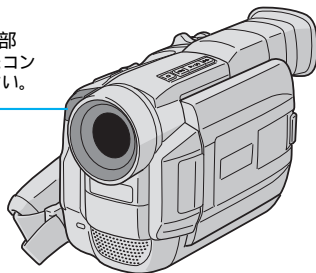
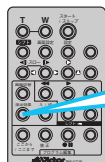
通常再生 ズーム再生(10倍まで)

• 静止画再生/スロー再生中もズームできます。

2 拡大した状態で画面を移動するにはシフトボタンを押しながら上下左右ボタンを押す

●ズームをやめたいときは
通常の再生画面の大きさに戻るまで「W」を押します。または、リモコンの停止ボタンを押した後に再生ボタンを押します。

●ズームしたときの映像は
通常の再生画面よりも多少再生映像が粗くなります。

●再生映像に「ゴースト」を加えたときは
再生ズームで拡大した映像は解除されます。

再生画面に演出効果を加える

付属のリモコンを使うと、テープを再生しているときに画面に演出効果（☞66ページ）を加えることができます。ここでは再生画面に演出効果を加える方法を説明します。

❶ ビデオカメラの再生中にリモコンの演出効果ボタンを押す

❷ 演出効果ボタンを押して演出効果を選ぶ

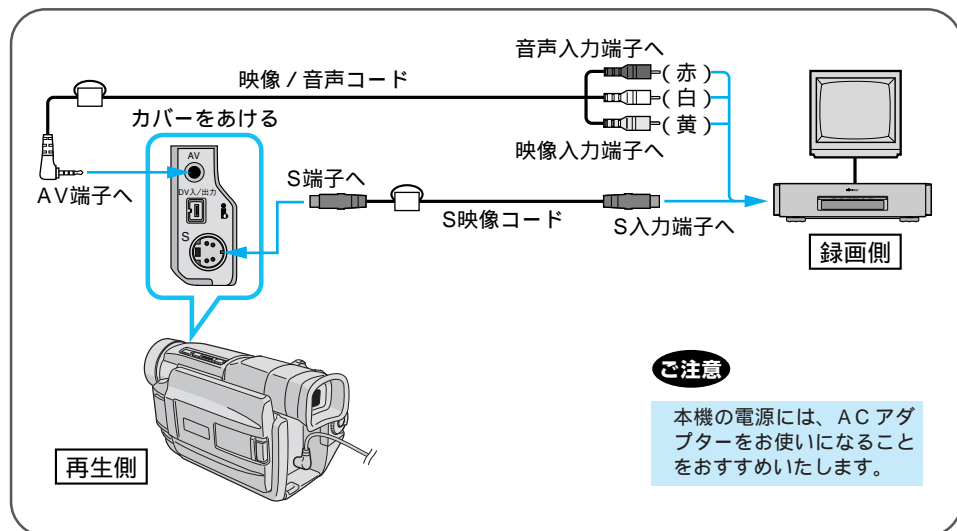
●演出効果入／切ボタンで選んだ演出効果をいつでも入／切できます。

応用

編集する

ダビングする

ここでは、本機で撮影したテープを映像／音声コードを使ってビデオデッキにダビングする方法を説明します。S映像端子付きのビデオデッキと本機をS映像コードを使ってダビングすると、より高画質の映像をダビングできます。

●本機の電源には、ACアダプターをお使いになることをおすすめいたします。

❶ 電源を入れない状態で
本機とビデオデッキを映像／音声コードで接続する

● S映像コードでビデオをダビングするときは、本機のS端子とビデオデッキのS入力端子を接続してください。

❷ 本機を再生し、ダビングしたいところで
ビデオデッキの録画ボタンを押す

●本機またはリモコンを操作してテープを再生してください。

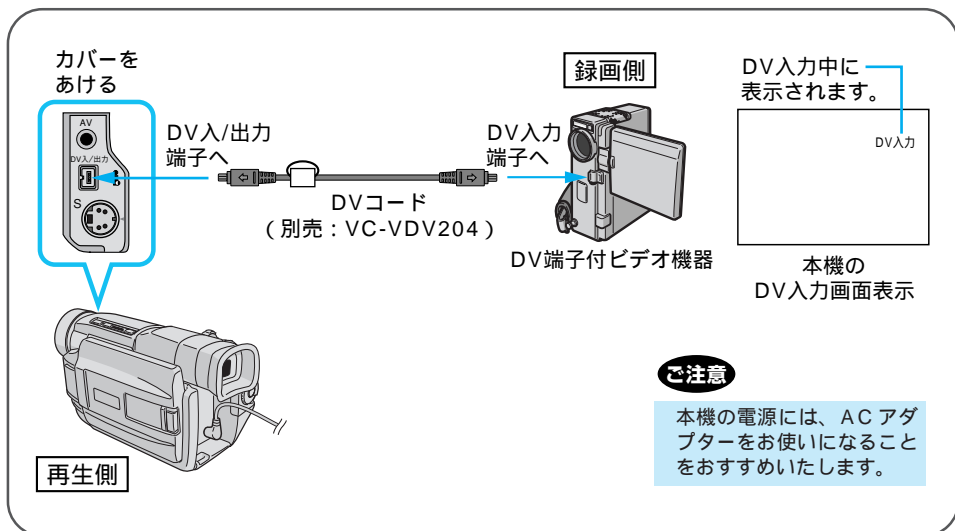
●ビデオデッキでダビングする前に
ご使用になるビデオデッキの取扱説明書もお読みください。

●カットしたい映像があるときは
ビデオデッキの一時停止ボタンを押してダビングを一時停止させ、ダビングしたい場面がテレビや液晶画面に現われたら録画を再開してください。

●ダビングを終了したいときは
ビデオデッキの録画停止ボタンを押します。

●画面に表示されるメッセージを消してダビングしてください（☞74、76、104ページ）
テレビの画面に表示されるメッセージは、そのままダビングされます。メッセージを消してからダビングしてください。

デジタルダビングする

ここでは、DV 端子付ビデオ機器にダビングする方法を説明します。デジタル信号でダビングするために画質や音質の劣化がほとんどありません。

応用

1 電源を入れない状態で

ビデオカメラと DV 端子付ビデオ機器を DV コードで接続する

- DV コード（別売）で、本機の DV 入/出力端子とDV端子付ビデオ機器のDV端子を接続してください。

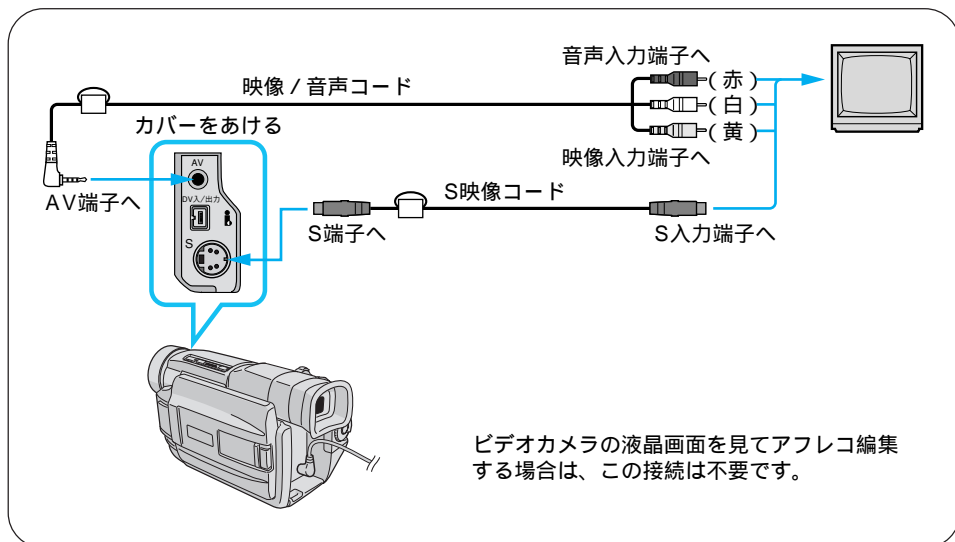
2 本機を再生し、ダビングしたいところで

DV 端子付ビデオ機器の録画ボタンを押す

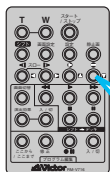
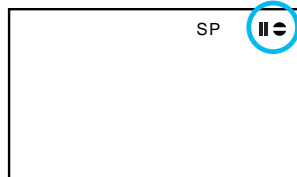
- 本機またはリモコンを操作してテープを再生してください。

- ビデオカメラでダビングするときは
  本機と接続できるのは 1 台だけです。本機で録画も可能です。
- 再生側が映像の乱れた部分や無記録部分を再生すると
  異常な映像が記録されたりダビングが停止することがあります。
- 再生時に「場面切替」「演出効果」「デジタルズーム」「記念写真」を設定していても
  DV 出力端子からは、テープの通常再生映像しか出ません。
- 本機を録画側として DV 入力しているときは
  S 端子 /AV 端子から信号が出力されません。
- 本機を録画側として使うときは
  ①録画モードを選ぶ（☞36、96 ページ）。
  ②電源ダイヤルを「見る」にする。
  ③撮影ボタンを押すと、画面上に「DV 入力」表示が出て録画一時停止状態になります。
  ④録画一時停止状態で、撮影ボタンを押すと録画を開始します。
  ⑤再度撮影ボタンを押すと、録画一時停止状態になります。

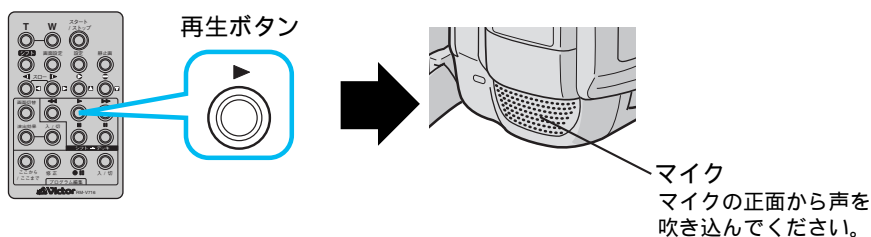
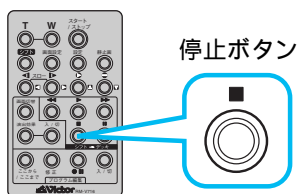
音声を加える（アフレコ編集）

録画モードSPで、音声モードを12BITで撮影しておくと、後でオリジナルテープにナレーションなどを追加することができます。アフレコ編集は、付属のリモコン（☞108 ページ）を使用して行います。

❶ テープを再生し、アフレコ編集したい場面でビデオカメラを一時停止させる

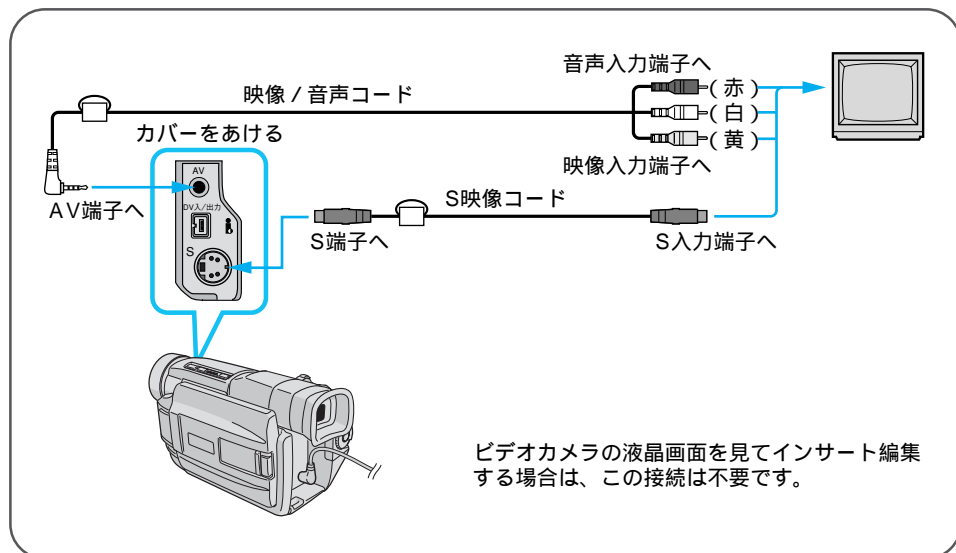
❷ リモコンのアフレコボタンを押しながら一時停止ボタンを押す

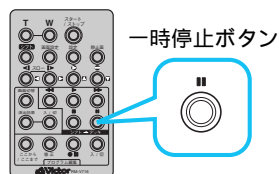
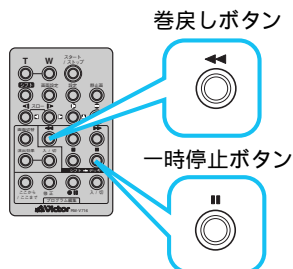
●画面にアフレコ編集アイコンが表示されます。

●アフレコ編集で吹き込んだ音声は撮影時の音声とは別に、アフレコ編集した声がステレオ音声で記録されます。

❸ 再生ボタンを押し、ビデオカメラのマイクに向かってナレーションなどを吹き込む

- アフレコ編集が始まり、吹き込んだ声が記録されます。

❹ 停止ボタンを押して、アフレコ編集を終了する

- アフレコ編集した音声を聞きたいときは（☞72 ページ）
- 画面に「音声アフレコできません」と表示されたときは（☞29 ページ）
  LPモードで撮影したテープ、16BITで音声を記録したテープ、誤消去防止用ツマミが「SAVE」側になっているテープ、およびテープの無記録部分ではアフレコ編集できません。
- 別の場面からアフレコ編集を再開したいときはリモコンの「一時停止ボタン」を押します。ビデオが静止画になります。リモコンの停止ボタンを押してアフレコ編集を終了し、アフレコ編集を再開したい場面を表示させてから再び編集を行ってください。
- テレビから「ピー」、「ウワーン」というノイズ音が出るときは
  テレビからビデオカメラを離すか、テレビの音量を下げてください。

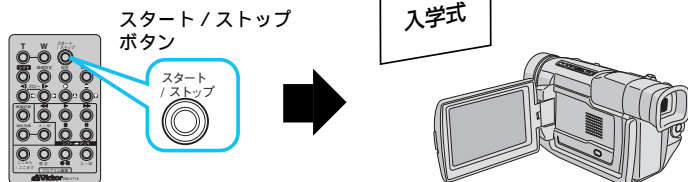
映像を入れかえる（インサート編集）

録画モード SP で撮影済みのテープに、後でタイトルなど別の場面を挿入することができます。タイトルを書いた紙などを用意してからインサート編集を行ってください。インサート編集は付属のリモコン（☞108 ページ）を使用して行います。

❶ テープを再生し、インサート編集を終える場面でビデオカメラを一時停止させる

- 終える場面のタイムコードを確認してください。タイムコード表示が出ていないときは（☞76 ページ）

❷ インサート編集を開始する場面までビデオカメラを巻き戻し、一時停止ボタンを押す

- インサート編集中、画面に演出効果を加えたいときは（☞70 ページ）

❸ リモコンのインサートボタンを押しながら一時停止ボタンを押す

●画面にインサート編集アイコンが表示されます。

❹ インサートするタイトルなどをカメラに映るようにしてリモコンの「スタート／ストップ」ボタン(またはビデオカメラの撮影ボタン)を押す

❺ リモコンのスタート/ストップボタンを押して、手順 ❶ で確認したタイムコードの位置でインサートを終了する

❻ 停止ボタンを押して、インサート編集を終了する

●画面に「インサート録画できません」と表示されたときは（☞29ページ）
LPモードで撮影したテープ、誤消去防止用ツマミが「SAVE」側になっているテープ、およびテープの無記録部分ではインサート編集できません。

●インサート編集したあとの映像と日時は新しい映像と日時が上書きされます。

応用

ビデオを自動で編集する（自動編集）

撮影済みのビデオの中からお好きな場面を８場面まで選んで、ビデオデッキのテープに自動的にダビングすることができます。あらかじめアフレコ編集（☞82ページ）してあるビデオを編集すると、テレビドラマや映画のようなビデオを作成することができます。編集する場面と場面の間に場面切替効果（☞62ページ）を挿入したり、演出効果（☞66ページ）を使って映像そのものに変化をつけることもできます。自動編集は、ビデオカメラ、および付属のリモコン（☞108ページ）とご家庭のビデオデッキを接続して行ないます。

ビデオデッキのメーカーをリモコンに登録する

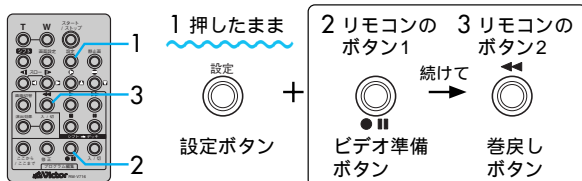
自動編集では、付属のリモコンを使用してご家庭のビデオデッキを操作します。ここでは、自動編集を行う前に、ご家庭のビデオデッキのメーカーをリモコンに登録する方法を説明します。ビデオデッキをリモコンに登録しておくと、自動編集以外でもリモコンでご家庭のビデオを操作できるようになります。

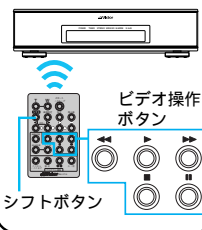
❶ ビデオデッキの電源を切る

❷ ご使用のビデオデッキのメーカー名を確認する

❸ 設定ボタンを押したまま「メーカー別リモコン設定表」（次ページ）に**対応したボタンを順番に押す**

- ビデオデッキの電源が入れば設定終了です。
- 同じメーカーでも信号の種類は複数あります。
- 「リモコン信号 A」でビデオデッキが反応しないときは、「リモコン信号 B」「リモコン信号 C」…の順でボタンを押してください。

例：ビクター（リモコン信号A）の場合

リモコン登録後のビデオの操作方法

シフトボタンを押したまま、ビデオ操作ボタンを押します。

リモコンメーカー設定表

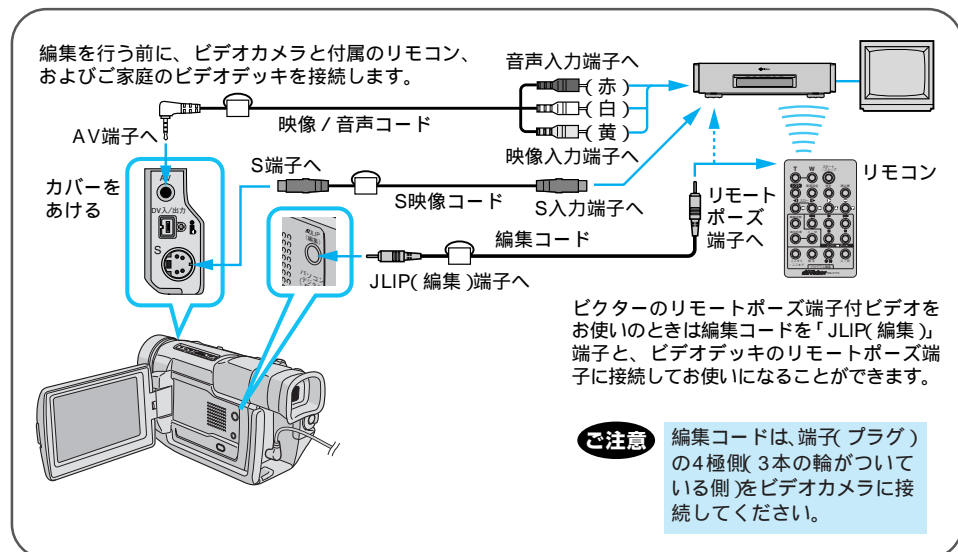
メーカー名	リモコン信号	リモコンのボタン1	リモコンのボタン2
ビクター	A	●❚❚（ビデオ準備）	◀◀（巻戻し）
	B	●❚❚（ビデオ準備）	■（停止）
	C	●❚❚（ビデオ準備）	（シフト）
アカイ	A	■（停止）	▶▶（早送り）
	B	■（停止）	▶（再生）
	C	（ここから/ここまで）	（ここから/ここまで）
サンヨー	A	■（停止）	▶（再生）
	B	（シフト）	❚❚（一時停止）
	C	（シフト）	（プログラム編集入/切）
	D	（ここから/ここまで）	●❚❚（ビデオ準備）
シャープ	A	◀◀（巻戻し）	❚❚（一時停止）
	B	◀◀（巻戻し）	（プログラム編集入/切）
ソニー	A	■（停止）	❚❚（一時停止）
	B	■（停止）	（プログラム編集入/切）
	C	（シフト）	●❚❚（ビデオ準備）
	D	（シフト）	◀◀（巻戻し）
東芝	A	■（停止）	●❚❚（ビデオ準備）
	B	■（停止）	◀◀（巻戻し）
NEC	A	（シフト）	（ここから/ここまで）
	B	（シフト）	（修正）
日立	A	■（停止）	■（停止）
	B	■（停止）	（シフト）
フナイ	A	（ここから/ここまで）	（シフト）
松下	A	◀◀（巻戻し）	（シフト）
	B	◀◀（巻戻し）	（ここから/ここまで）
	C	◀◀（巻戻し）	◀◀（巻戻し）
	D	●❚❚（ビデオ準備）	▶（再生）
	E	◀◀（巻戻し）	（修正）
三菱	A	■（停止）	（ここから/ここまで）
	B	■（停止）	（修正）

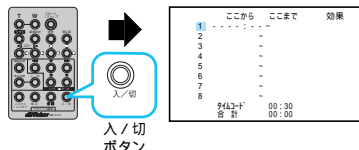
●乾電池の容量がなくなったときは設定したビデオデッキのメーカー設定も消えてしまいます。乾電池を交換してメーカー設定をやり直してください。

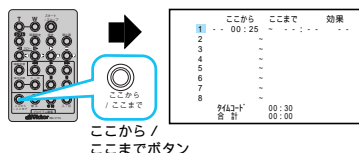
●リモコンでビデオデッキを操作できないときは機種によってはリモコンでのビデオデッキのメーカー設定ができないものや、特定のボタンだけ操作できないものもあります。ご了承ください。

好きな場面を選んでダビングする

撮影済みのビデオの中からお好きな場面を８場面まで選んで、ビデオデッキのテープに自動的にダビングします。編集する場面と場面の間に場面切替効果を挿入したり、演出効果を使って映像そのものに変化をつけることもできます。

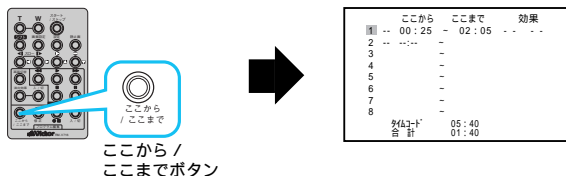
ご注意
編集コードは、端子（プラグ）の４極側（３本の輪がついている側）をビデオカメラに接続してください。

1 リモコンを使ってビデオカメラを再生し 自動編集の「入／切」ボタンを押す

● 液晶画面に自動編集表示画面が表示されます。

2 編集は開始したい場面で リモコンの「ここから／ここまで」ボタンを押す

● ビデオカメラの液晶画面やテレビに編集開始場面のタイムコードが表示されます。

● 場面の撮り始めに変化を付けたいときは（☞62ページ）
リモコンの場面切替ボタンを押します。ボタンを押すたびにカウンターの左側に表示される場面切替アイコンが変わります。利用したい場面切替アイコンが表示されるまでボタンを押してください。ただし、自動編集する最初の場面では映像が記録されていないため、「最後の映像によるコーナーワイプ」などを使用することはできません。
場面切替が設定されていないときは「－－」が表示されます。

❸ 編集を終了したい場面で リモコンの「ここから / ここまで」ボタンを押す

●ビデオカメラの液晶画面やテレビに編集終了場面のタイムコードが表示されます。

ここから／
ここまでボタン

●場面の録り終わりに変化を付けたいときは（☞62 ページ）
リモコンの場面切替ボタンを押します。ボタンを押すたびにカウンターの右側に表示される場面切替アイコンが変わります。利用したい場面切替アイコンが表示されるまでボタンをくり返し押してください。ただし、自動編集する最後の場面では「最後の映像によるコーナーワイプ」などを使用することはできません。録り終わりの場面切替効果を決めると、次の編集開始映像が自動的に録り終わりの場面切替効果で始まります。また、場面の録り終わりで場面切替効果を使用すると、編集終了時点からフェードアウトやワイプアウトを行うため、その時間がビデオの編集時間に加算されます。ただし、デジタルダビングでは変化を付けることはできません。場面切替が設定されていないときは「－－」が表示されます。

●映像そのものに変化を付けたいときは（☞68 ページ）
リモコンの演出効果ボタンを押します。ボタンを押すたびに「効果」の下に表示される演出効果アイコンが変わります。ただし、デジタルダビングでは変化を付けることはできません。演出効果が設定されていないときは「－－」が表示されます。

❹ 手順❷、❸を繰り返して自動編集したい場面を登録する

次ページへつづく

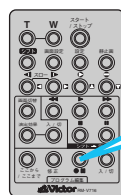
応用

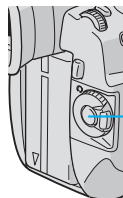
好きな場面を選んでダビングする（つづき）

5 最初に登録した場面１の編集開始点の前までビデオを巻き戻し、ビデオを一時停止する

- リモコンやビデオカメラの「巻戻しボタン（◀◀）」でビデオを巻き戻し、「一時停止ボタン（II）」を押します。

6 ビデオデッキのリモコン受光部に向けて リモコンのビデオ準備ボタン（●II）を押す

- ビデオデッキが録画一時停止になります。一時停止にならないときは、手動でビデオデッキを操作して録画一時停止にしてください。

7 ビデオカメラの撮影ボタンを押す

- 自動編集が始まり、指定した場面を最後まで自動的にダビングします。ダビングが終了するとビデオカメラが一時停止し、ビデオデッキは録画一時停止状態になります。

リモコンの「スタート／ストップ」ボタンでは始まりません。

8 ビデオカメラとビデオデッキを停止させ、編集を終了する

- 画面に表示されるメッセージを消して自動編集してください
  テレビの画面に表示されるメッセージは、自動編集でもそのまま記録されます。メッセージを消してから自動編集してください。
  （☞74、76、104ページ）
  （自動編集表示は自動編集をスタートすると消え、ビデオには記録されません）。
- 各場面のタイムコードとタイムコードの合計時間は
  編集開始場面と終了場面のタイムコードには1秒以下の数値（フレーム）が表示されないため、各場面のタイムコードの時間と合計時間が合わないことがあります。
- 自動編集の登録場面を修正したいときは
  リモコンの「修正ボタン」を押します。ボタンを押すたびに最後から登録場面が消去されます。

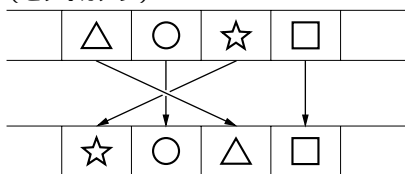
● ダビング中のリモコンの位置は
ビデオデッキのリモコン受光部に向けてください。障害物があるとうまくダビングできません。

● こんなときは自動編集できません
- 同じタイムコード（☞77ページ）が2つ以上存在するテープでタイムコードを指定しても、どのタイムコードかわからないため誤動作することがあります。
- 編集終了場面のタイムコードの値が編集開始場面の値より小さいときは自動編集できません。
- 編集終了場面と開始場面までの早送り時間がビデオデッキの一時停止可能時間（当社の場合約5分以内）を超えるときは、自動編集できません
- リモコンのプログラム編集入/切ボタンを押して「切」にしたときは、自動編集に登録した内容すべてが消えてしまいます。
- 編集開始場面や終了場面の前後に無記録部分があるときは、ブルーバック（青い画面）を記録してしまうことがあります。
- 自動編集中にビデオカメラを操作すると、ビデオデッキが録画一時停止状態になり、自動編集を中止します。

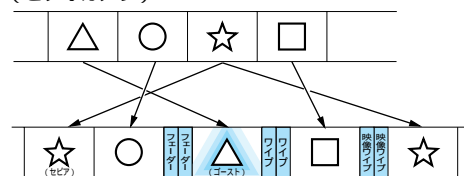
● 編集終了場面を決めずにダビングしたときは
ビデオの最後まで自動的にダビングします。

知っておきたい自動編集のしくみ

普通に自動編集したときは

撮影済みのビデオの中から最大8つまでの場面を指定して、お好きな順番に並べ替えてダビングすることができます。普通に自動編集すると、ビデオは次のようにダビングされます。

場面切替や演出効果を入れて自動編集したときは

自動編集するビデオの最初と終わりに場面切替を入れたり、映像そのものに演出効果を付けてダビングすることができます。場面切替や演出効果を入れて自動編集すると、ビデオは次のようにダビングされます。

応用

より正確に自動編集する(シンクロ補正)

ビデオデッキには録画タイミングの早いものと遅いものがあります。自動編集(☞86ページ)でビデオカメラとビデオデッキを同時にスタートさせてもそれぞれ動き出すタイミングが異なるため、余計な場面をダビングしてしまったり、必要な場面をダビングできなかったりすることがあります。そんなときはビデオカメラ側でビデオデッキの録画タイミングの誤差を補正してから再度自動編集を行ってください。

録画タイミングのズレを確認する

任意の場面を自動編集してみて、ビデオカメラのビデオ再生開始タイミングとビデオデッキの録画開始タイミングのズレを確認します。

1 適当な場面を1場面だけ自動編集する

- 録画タイミングのズレを確認するだけなので、自動編集の指定は1場面だけでかまいません。自動編集する場面は、録画タイミングのズレがわかりやすいように場面が切り替わっている場面を指定してください。

2 ダビングしたテープを巻き戻し、再生する

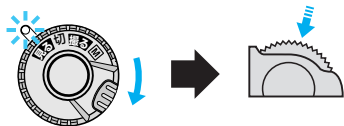
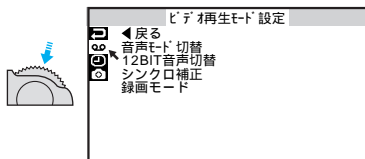
- 指定した編集開始場面よりも前の場面が録画されているときは、ビデオカメラのビデオ再生開始場面よりも先にビデオデッキが録画を開始しています。
- 指定した編集開始場面よりも後の場面から録画されているときは、ビデオカメラのビデオ再生開始時点よりも後にビデオデッキが録画を開始しています。

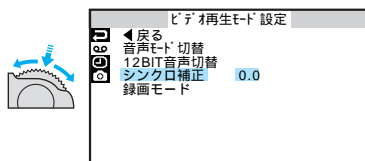
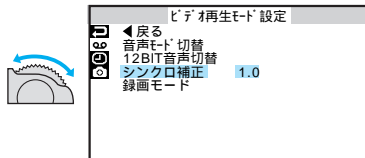
このようなときは録画タイミングのズレを補正する必要があります。

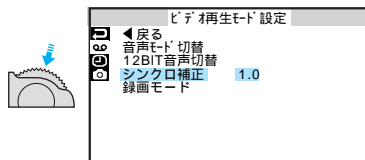
- 自動編集を行う前に
  数回自動編集のテストを行って補正値が適切であることを確認してから、最終的な自動編集を行ってください。
- 補正しても録画タイミングが合わないときは
  ビデオデッキによっては、録画タイミングのズレを補正しきれないことがあります。ご了承ください。

録画タイミングのズレを補正する

「録画タイミングのズレを確認する」(☞92ページ)でビデオカメラのビデオ再生開始タイミングとビデオデッキの録画開始タイミングのズレがあったときは、録画タイミングのズレを補正します。

❶ 電源ダイヤル「見る」で、メニューダイヤルを押す

❷ メニューダイヤルを押す

❸ メニューダイヤルで「シンクロ補正」を選び、ダイヤルを押す

❹ メニューダイヤルで「シンクロ補正」の数値を設定する

−1.3〜＋1.3秒まで、0.1秒単位で補正値を設定することができます。

- ビデオカメラのビデオ再生開始場面よりも先にビデオデッキが録画を開始しているときは、マイナス(−)の値を設定します。
- ビデオカメラのビデオ再生開始場面よりも後にビデオデッキが録画を開始しているときは、プラス(＋)の値を設定します。

❺ メニューダイヤルを押す

❻ メニューダイヤルで「戻る」を選びダイヤルを2回押す

- メニューを終了し、通常の画面に戻ります。

関連機器と接続する

パソコンにつなぐ

本機に付属のパソコン接続キット（CD-ROM、パソコン接続コード）を使用すると静止画像をパソコンに取り込むことができます。また DV 端子付キャプチャーボード（GV-DV1000：別売）を搭載したパソコンにも静止画像を取り込むことができます。

画像転送中に
表示されます。
通信中
パソコン
（デジタル静止画）
端子へ
シリアル
（RS-232C）
端子へ
付属のパソコン接続コード
を使用します。
パソコン

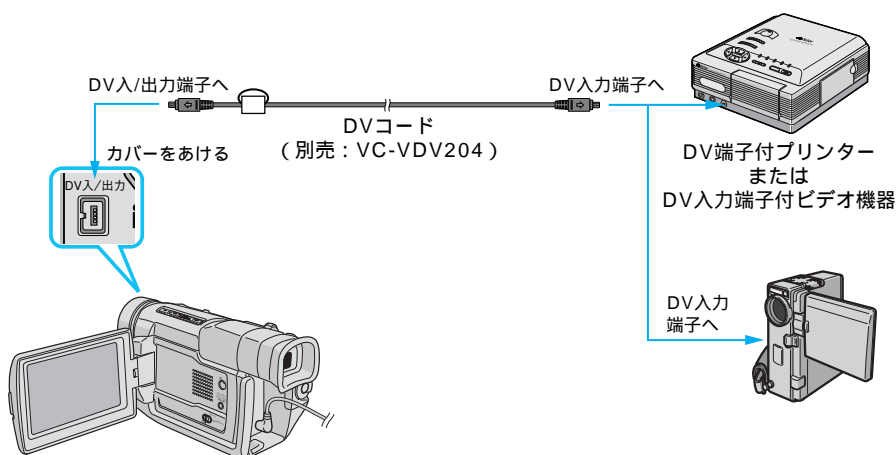
カバーをあける
DV入/出力
DV入／出力端子へ
DV入力端子へ
DVコード
パソコン
DV端子付キャプチャーボード
（GV-DV1000)を搭載

ご注意

●必ず電源を切った状態で接続してください
電源を入れたまま接続すると、感電や故障の原因になります。
●本機の電源には、AC アダプターをお使いになることをおすすめします。

●日時情報などは、パソコンに取り込むことができません。
●パソコンの DV 端子付キャプチャーボード（GV-DV1000)の取扱説明書もご覧ください。
●GV-DV1000を使用するときは、GV-DV1000に付属の DV コードをご使用ください。

DV端子付ビデオ機器につなぐ

デジタルプリンターGV-DT3（別売）を使用するとデジタル情報をそのままプリンターに送ることができるため、明瞭な画質でプリントできます。また、DV入力／出力端子付ビデオ機器に接続すると画質や音量の劣化がほとんどなく、デジタルダビングすることができます。（☞81ページ）

DV入/出力端子へ
DVコード
（別売：VC-VDV204）
DV入力端子へ
カバーをあける
DV入/出力
DV端子付プリンター
または
DV入力端子付ビデオ機器
DV入力
端子へ

ご注意
- 必ず電源を切った状態で接続してください
  電源を入れたまま接続すると、感電や故障の原因になります。
- 本機の電源には、ACアダプターをお使いになることをおすすめします。

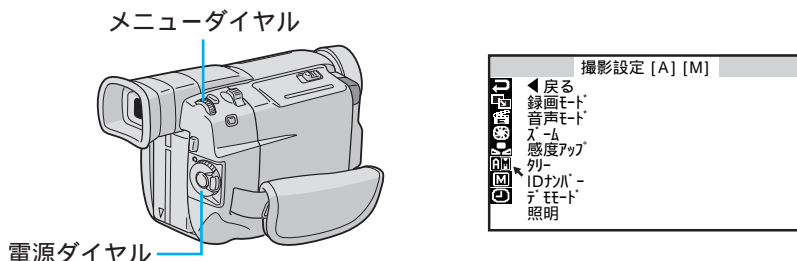
- デジタルダビングするときは本機と接続できるのは、1台だけです。
- 接続する機器（DV端子付ビデオ機器、デジタルプリンター）などの取扱説明書もご覧ください。

応用

メニューの設定を変える

撮影設定[A][M]メニューについて

電源ダイヤルで M を選択しているときにメニューダイヤルを押して、ビデオカメラの撮影設定を変更する方法を説明します。

設定内容は、電源ダイヤルが「撮る」および「M」の両方で働きます。

項　目	設定内容	特　徴	参　照
録画モード テープの撮影時間が1.5倍になる	SP	アフレコ編集可能	☞82 ☞36
	LP	撮影時間がSPモードの1.5倍	
音声モード アフレコ可能なモードで録音する	12BIT	アフレコ編集可能	☞82
	16BIT	高音質で録音	
ズーム ズーム倍率の上限を設定する	10倍	光学ズーム(画質が劣化しない)	☞44
	40倍	デジタルズーム	
	100倍	デジタルズーム	
感度アップ 撮影の感度を設定する	切	自然のままの明るさ	☞97
	AGC	電気的に感度アップ	
	オート　A☀	シャッター速度調整で感度アップ	
タリー 撮影中ランプを消す	入	撮影中にランプが点灯する	☞97
	切	ランプを消す	
IDナンバー JLIP制御用のIDナンバーを設定する	06 (01〜99まで可)	付属のソフトを使ってパソコンやJLIP対応機器でビデオカメラを操作するときに使用する	☞94
デモモード 演出効果などを デモンストレーションで確認する	入	カセットが入っていないときにデモンストレーションを表示する	☞ 7 ☞97
	切	デモンストレーション表示をやめる	
照明 撮影照明のライトを消す	入	ライトを点灯する	☞97
	切	ライトを消す	

• お買い上げ時の設定値は、（水色）で表示してあります。

補足説明

録画モード

・本機の「LP」モードで撮影したテープは本機で再生することをおすすめします。他のデジタルビデオではうまく再生できない場合があります。
・ビデオ再生モード設定メニューにある「録画モード」でも「SP」、「LP」の設定を切り替えることができます。

音声モード

・アフレコ編集をするには、あらかじめ「12BIT」に設定して撮影してください。一方、「16BIT」に設定すると、より高音質で録音できます。
・どちらのモードでも、ステレオで録音されます。

ズーム

・10倍まではレンズの機能で映像をズームしますが、10倍以上は映像をデジタル処理してズームするため、映像品質が少し劣化します。

感度アップ

・「AGC」で撮影した画面は、デジタル映像を処理して実際よりも明るい映像を記録します。ただし、映像がザラザラした感じになります。
・「オート」で撮影した画面は、自動的にシャッタースピードを調整して、実際よりも明るい映像を記録します。ただし、被写体の動きは多少不自然になります。

タリー

・「入」のとき、撮影中は撮影中ランプが点灯します。
・「切」のとき、撮影中でも撮影中ランプは点灯しません。

ID ナンバー

・付属のソフトウェアなどを使ってパソコンや JLIP 対応の AV 機器からビデオカメラを操作するときに必要な ID ナンバーを設定することができます。「01」〜「99」まで設定できます。

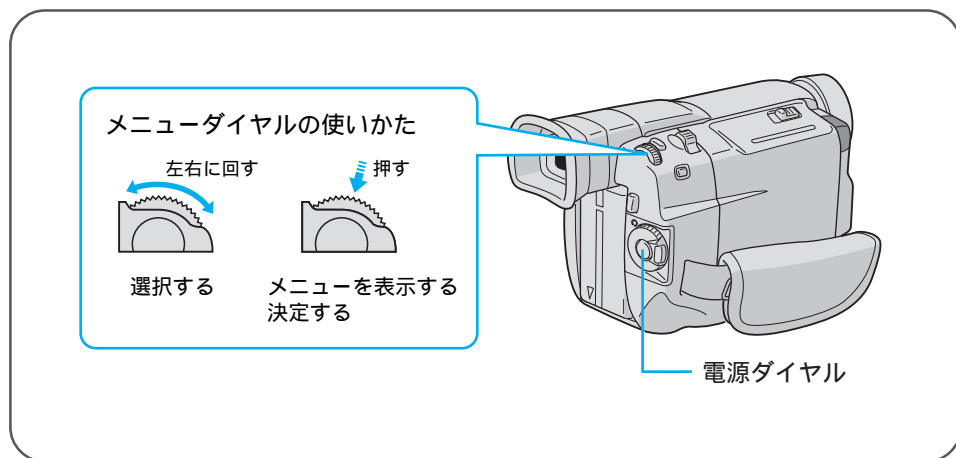
デモモード

・カセットテープを入れずに電源を入れ、「デモモード」を「入」にすると、画面にビデオカメラの機能デモを表示します。(☞7 ページ)

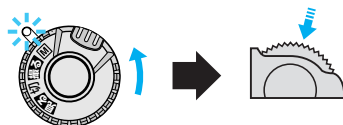
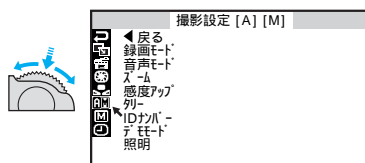
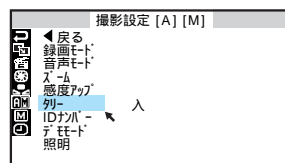
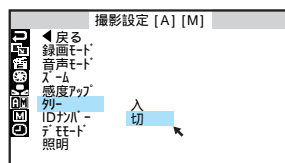
照明

・撮影照明(☞22 ページ)のライトを入/切します。

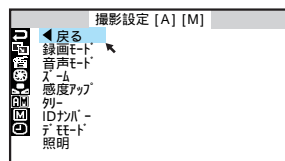
撮影設定[A][M]メニューの設定方法

撮影設定[A][M]メニュー共通の設定方法を説明します。

例）「タリー」を「切」に変更する

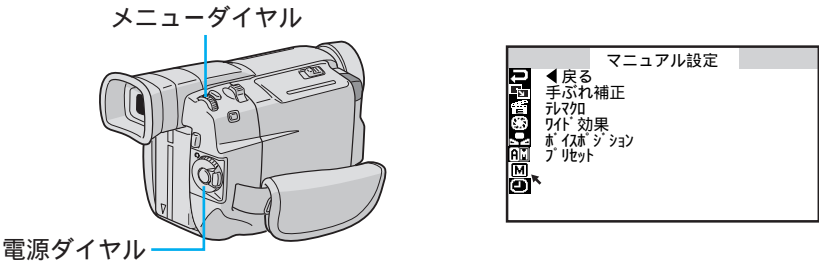
❶ 電源ダイヤルを「M」に合わせ、メニューダイヤルを押す

● メニューが表示されます。

❷ メニューダイヤルで「AM」を選び、ダイヤルを押す

❸ メニューダイヤルで「タリー」を選び、ダイヤルを押す

❹ メニューダイヤルで「切」を選び、ダイヤルを押す

❺ メニューダイヤルで「戻る」を選び、ダイヤルを 2 回押す

● 撮影画面に戻ります。

マニュアル設定メニューについて

電源ダイヤルで［M］を選択しているときにメニューダイヤルを押して、ビデオカメラの撮影設定を変更する方法を説明します。

設定内容は、電源ダイヤルが「［M］」のときのみ働きます。

項　目	設定内容	特　徴	参　照
手ぶれ補正 手ぶれ補正をやめる	入	手ぶれで映像が振れない	☞101
	切	—	
テレマクロ 接写を設定する	入	T側（望遠側）で60cmまで接近可能	☞44
	切	T側（望遠側）で1mまで接近可能	
ワイド効果 ワイドテレビに合わせた画面にする	切	—	☞101
	シネマ	映画風に上下に黒い帯が入る	
	ワイド	ワイドテレビと同じ横長の画面になる	
ボイスポジション 録音される雑音を軽減する	入	風による雑音を軽減して録音する	—
	切	自然な音声を録音する	
プリセット メニューの設定をすべて最初に戻す	キャンセル	—	—
	実行	メニューの設定をすべて最初に戻す	

- お買い上げ時の設定値は、［色付き］で表示してあります。
- 電源ダイヤルが「撮る」のときは［色付き］の設定で動作します。

補足説明

手ぶれ補正

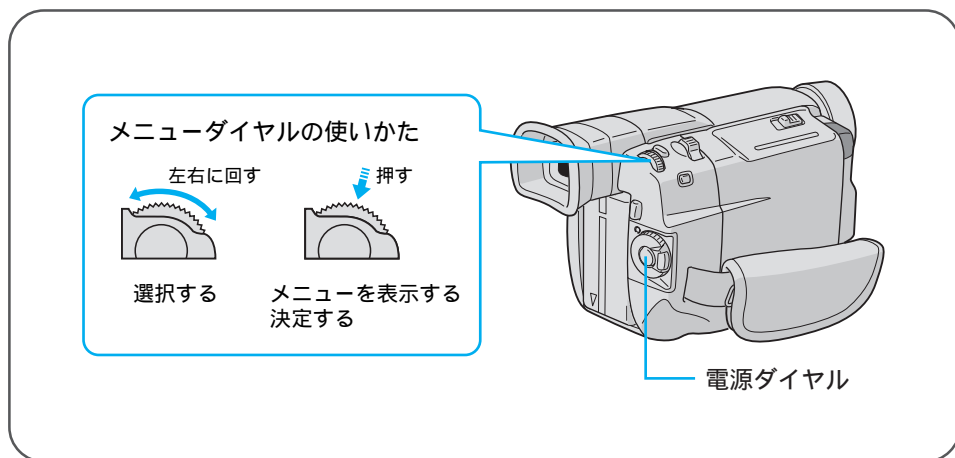
- デジタル処理するため、多少映像品質が劣化します。
- 「フルオート」モードの手ぶれ補正は
  「手ぶれ補正」を「切」に設定していても、自動的に「入」になります。
- 三脚などでビデオカメラを固定して撮影するときは
  「手ぶれ補正」を「切」にしてください。「入」のままだと被写体の動きに合わせて必要のない補正を行い、不自然な映像になることがあります。
- 手ぶれが大きいときやコントラスト（明暗差）のほとんどない被写体を撮るときは
  補正できないことがあります。
- 映像をデジタル処理する機能と同時に使えないものがあります。
- 手ぶれ補正が働かないときは
  「(手ぶれ補正マーク)」表示が点滅、または表示が消えます。

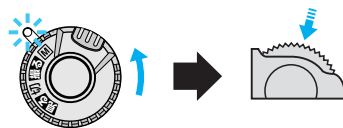
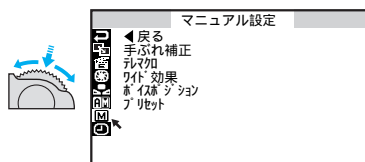
ワイド効果

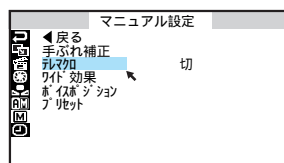
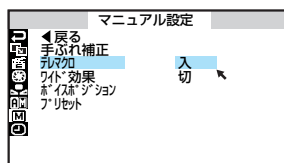
- 普通のテレビ（画面比率 4:3）やファインダー、液晶画面で見るときは
  ワイド映像は、撮影時、再生時ともに縦長の映像が映ります。シネマ映像は、撮影時、再生時ともに上下に黒い帯が入った映像が映ります。
- ワイドテレビで再生するときは
  ワイドで撮った映像には、ワイド用の識別信号が記録されています。S 端子を S 映像コードでワイドテレビに接続してください。テレビの S2 端子に接続すれば、ワイド、シネマをテレビが自動判別します。S1 端子に接続すると、ワイドを自動判別します。テレビ側に S2 または S1 端子がないときは、S 端子に接続してください。自動判別はできません（詳細はお使いのワイドテレビの取扱説明書を参照してください）。
- ビデオデッキでダビングしたワイド映像を再生するときは
  ワイド映像になるようにテレビ側でモードを切り替えてください（詳細はお使いのワイドテレビの取扱説明書を参照してください）。
- ワイド映像とシネマ映像を混在させて撮ったときは
  早送り再生中、巻戻し再生中は、ワイド映像とシネマ映像を判別できません。

応用

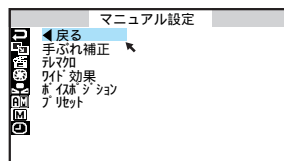
マニュアル設定メニューの設定方法

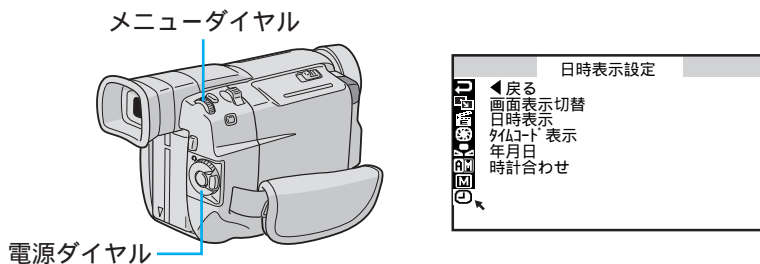
マニュアル設定メニューの設定方法を説明します。

例）テレマクロの設定を「入」に変更します

❶ 電源ダイヤルを「M」に合わせ、メニューダイヤルを押す

❷ メニューダイヤルで「M」を選び、ダイヤルを押す

❸ メニューダイヤルで「テレマクロ」を選び、ダイヤルを押す

●「切」と「入」が表示されます。

❹ メニューダイヤルで「入」を選び、ダイヤルを押す

❺ メニューダイヤルで「戻る」を選び、ダイヤルを 2 回押す

●撮影画面に戻ります。

日時表示設定メニューについて

電源ダイヤルがⓂまたは 見る を選択しているときにメニューダイヤルを押して、ビデオカメラの画面に表示されるメッセージの表示方法や日時を変更する方法を説明します。

項　目	設定内容	機　能
画面表示切替	モニター	ＴＶやビデオデッキに､画面の表示を出力しない
	モニター/TV	ＴＶやビデオデッキに､画面と常に同じ表示を出力する
	［シンプル］	ＴＶやビデオデッキに､画面内の文字を出力しない
		画面内の表示を最少限にする
日時表示	入	常に表示する
	切	表示しない
タイムコード表示	入	表示する
	切	表示しない
年月日時計合わせ	年月日、時刻	日時を設定する（「Ⓜ」に設定したときのみ可能）

• お買い上げ時の設定値は、　　で表示してあります。

●「日時を設定してください！」が表示されたときは、時計用電池（内蔵）がなくなっています。電池交換は最寄りの「ビクターサービス窓口」にご相談ください。

補足説明

画面表示切替

・ダビングや編集をおこなう時に画面の文字などの余分な表示を消すために設定します。

日時表示

・日時表示を入 / 切するときに設定します。（☞74 ページ）

・日時表示を表示すると記録した日時がわかるので便利です。

タイムコード

・タイムコード表示を入 / 切するときに設定します。（☞76 ページ）

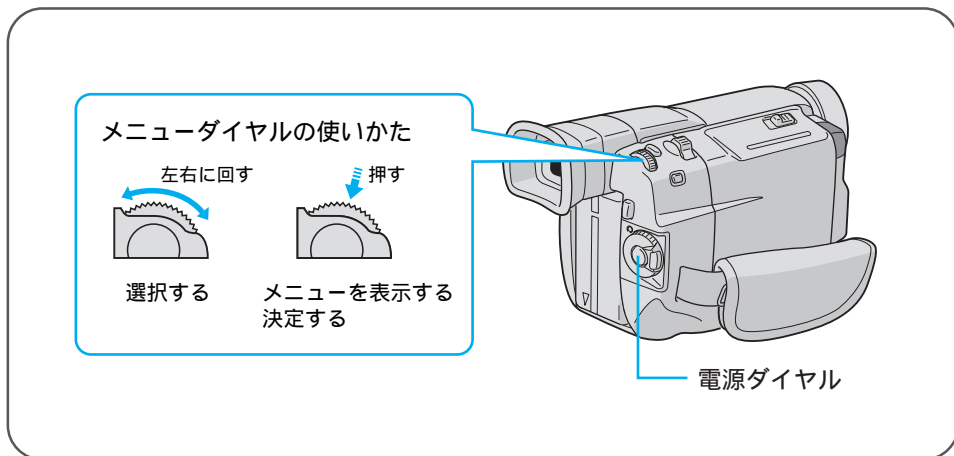
年月日時計合わせ

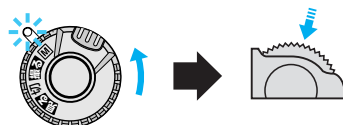
・ご購入時は、日時が設定されています。海外旅行、時刻がずれたときなどに設定しなおします。（☞106 ページ）

●「画面表示切替」、「日時表示」、および「タイムコード表示」の設定は電源ダイヤルを「撮る」にしたときも働きます。

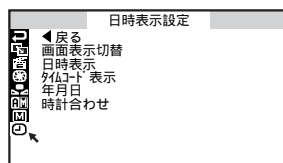
●「画面表示切替」の設定はリモコンの「画面表示」ボタンでも切り替えることができます。

日時表示設定メニューの設定方法

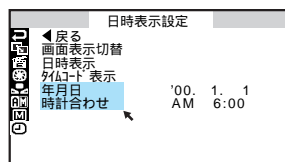
ここでは、日時表示設定メニューの設定方法を説明します。

例）年月日と時計を合わせる

1 電源ダイヤルを「M」に合わせ、メニューダイヤルを押す

●メニューが表示されます。

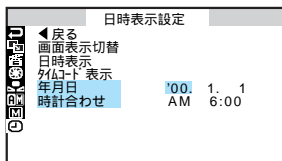
2 メニューダイヤルで「◎」を選び、ダイヤルを押す

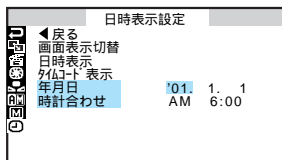
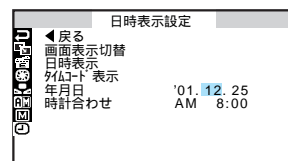
●電源ダイヤルが「見る」のときは、「年月日時計合わせ」が表示されません。

❸ メニューダイヤルで「年月日時計合わせ」を選び、ダイヤルを押す

●年が変更できるようになります。

●西暦 2000 年は 00 で表示されます。

❹ メニューダイヤルを回して正しい年に合わせる

●数値を大きくする→「+」側

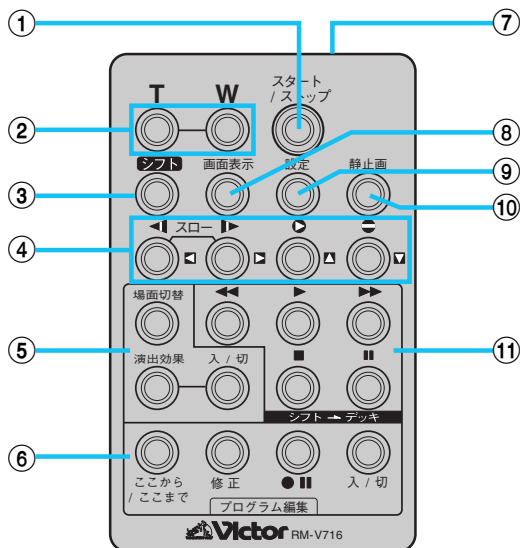
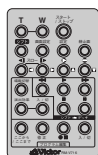
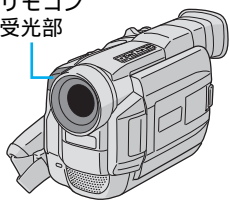
●数値を小さくする→「−」側

❺ メニューダイヤルを押す

●月が変更できます。

❻ 同様に❹〜❺を繰り返して月日と時刻を合わせてメニューダイヤルを押す

❼ メニューダイヤルで「戻る」を選び、ダイヤルを 2 回押す

●通常画面に戻ります。

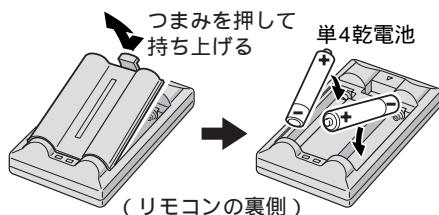
リモコン関連

リモコン(付属)

付属のリモコンを使って、ビデオカメラをリモートコントロールすることができます。ビデオカメラのリモコン受光部に向けて使用します。

リモコンの操作方法

操作範囲は屋内で約 5m です。
ビデオカメラのリモコン受光部に向けて操作してください。角度によっては操作できない場合があります。また、ビデオカメラのリモコン受光部に直射日光や照明の強い光が当たるとビデオカメラが誤動作したり、動作しないことがあります。

リモコン電池の入れかた

(リモコンの裏側)

ボタン名			ボタンの機能	参照ページ
①		スタート/ストップボタン	撮影をスタートまたはストップする。	–
②	T	ズームボタン	映像が大きくなる。	44、78
	W	ズームボタン	大きくした映像が元に戻る。	
③		シフトボタン	拡大した再生映像を上下左右に動かす。	78、86
④	◀❙	スロー(逆転)ボタン/左ボタン	テープをスローで巻き戻し再生する。 再生ズームした映像を左に動かす。	51、78
	❙▶	スロー(正転)ボタン/右ボタン	テープをスローで再生する。 再生ズームした映像を右に動かす。	51、78
	▶	インサートボタン/上ボタン	インサート編集を行う。 再生ズームした映像を上に動かす。	78、84
	⊖	アフレコボタン/下ボタン	アフレコ編集を行う。 再生ズームした映像を下に動かす。	78、82
⑤		場面切替ボタン	自動編集中、場面切替効果を選択する。	88、89
		演出効果ボタン	再生中や自動編集中、演出効果を選択する。	79、89
		演出効果 入/切ボタン	再生映像に演出効果を加える。	79
⑥		ここから/ここまでボタン	自動編集の開始と終了を指定する。	88、89
		修正ボタン	自動編集を修正する。	90
	●❙❙	ビデオ準備ボタン	自動編集でビデオデッキを録画一時停止にする。	90
		入/切ボタン	自動編集表示画面を表示する。	88
⑦		リモートポーズ（入力） 端子	編集コードを接続する。	88
⑧		画面表示ボタン	テレビに出てくるメッセージを出したり、消したりする。	90、105
⑨		設定ボタン	編集に使用するビデオデッキのメーカーを設定する。	86
⑩		静止画ボタン	静止画を撮影する。	–
⑪	◀◀	巻戻しボタン	テープを巻き戻す。	51
	▶	再生ボタン	テープを再生する。	51
	▶▶	早送りボタン	テープを早送りする。	51
	■	停止ボタン	テープを停止する。	51
	❙❙	一時停止ボタン	テープを一時停止するときに押す。	51

故障かな？と思ったら

このビデオカメラはマイコンを使用しています。
雑音や妨害ノイズにより正常に動作しないことがあります。そんなときはビデオカメラから電源（バッテリー、AC アダプターなど）を外し、あらためてご使用ください。それでも不具合があり、以下の処置をしても改善されない場合は、お買い上げ販売店、またはビクターサービス窓口にご相談ください。

	こんなとき	ご確認ください	参照ページ
電源	電源が入らない	● 電源は正しく接続されていますか？ ● バッテリーは充電されていますか？	32 30
撮影中	撮影できない	● テープの誤消去防止用つまみが「SAVE」側になっていませんか？ ●「テープおわり」になってませんか？ ● 電源ダイヤルが 見る になっていませんか？ ● カセットカバーが開いていませんか？	121 28 24 33
	映像が出ない	● 電源をもう一度入れ直してみてください 。	—
	メニューダイヤルの機能が使えない	● 電源ダイヤルを M にしてください。	—
	自動でピントが合わない	● 電源ダイヤルを 撮る にしてください。M のまま撮影するときは「フォーカス」ボタンを押してマニュアルフォーカスを解除してください。 ● 暗いところや明暗差のないものを撮影していませんか？ ● レンズにゴミや水滴などが付いていませんか？	54 54 123
	撮影中、液晶画面に日時が出ない	●「日時表示」を「切」にしていませんか？	74、104
	撮影したビデオの縦に明るい線が出る	● 強い光の当たる被写体を撮影しませんでしたか？　被写体に強い光が当たると、コントラストの違いで線が出ることがあります。故障ではありません。	—
	太陽光が映ると、画面が一瞬赤くなったり、黒くなったりする	● 故障ではありません。	—
	ビデオライトが点灯しない	● 十分な明るさがある場合は、「オート」では点灯しません。「入」に切り替えてください。	45
	ビデオライトがついたり消えたりする	● ビデオライトスイッチが「オート」になっていると周囲の明るさによってはついたり消えたりします。「入」または「切」のどちらかにセットしてください。	45

	こんなとき	ご確認ください	参照ページ
撮影中	記念写真で撮影した画像の色がおかしい	● 照明の色や被写体に白い部分がない場合または被写体の背後にいろいろな光源がある場合に色がおかしくなるときがあります。	—
	デジタルズームできない	●「ズーム」が「10倍」に設定されているときは10倍ズームまでしかできません。 ●「演出効果」で「ゴースト」を選択しているときは、ズームは10倍ズームまでしか使えません。 ●「場面切替」で最後の映像ワイプ効果や「オーバーラップ」を選択しているときはデジタルズームは使えません。	96 68 64
	手振れ補正が働かない	● 手振れ補正が「切」になっていませんか？ 「入」にしてください。	100
	「演出効果」や「場面切替」機能が使えない	● 電源ダイヤルを Ⓜ にしてください。	—
	「場面切替」の最後の映像（静止画）での切替が使えない	●最後の場面を記憶している状態になっていますか？ ●最後の場面を撮影した状態で、電源ダイヤルを「切」にしませんでしたか？ ●電源が切れていませんか（撮影一時停止を5分以上続けると、自動的に電源が切れます）？	67 67 67
	「場面切替」の「オーバーラップ」が使えない	●最後の場面を記憶した状態で「演出効果」を設定、変更しませんでしたか？ ●「演出効果」の「セピア」や「ブラック/ホワイト」、「高感度」を選択していませんか？ ●「ワイド効果」で「ワイド」を選択していませんか？　選択しているときは使えません。	68 69 100
	「場面切替」の最後の映像（静止画）でのワイプ効果が使えない	●「演出効果」の「高感度」を選択していませんか？ ●「ワイド効果」で「ワイド」や「シネマ」を選択していませんか？	69 100
	「場面切替」の「フェーダー：白黒」が使えない	●「演出効果」の「セピア」や「ブラック/ホワイト」を選択していませんか？	69
	「演出効果」の「ゴースト」が使えない	●「ワイド効果」で「ワイド」を選択していませんか？ ●「場面切替」の最後の映像（静止画）でのワイプ効果や「オーバーラップ」で撮影していませんか？ ●「場面切替」のフェーダー効果を使ってフェードイン、フェードアウトしていませんか？	100 65 65

故障かな？と思ったら（つづき）

	こんなとき	ご確認ください	参照ページ
撮影中	「演出効果」の「映画効果」や「ストロボ」を選択してもコマ落とし効果が使えない	●「場面切替」の最後の映像（静止画）でのワイプ効果や「オーバーラップ」で撮影していませんか？	65
	「白バランス」が設定できない	●「演出効果」の「セピア」や「ブラック/ホワイト」を選択していませんか？	69
	液晶画面の映像が暗い、または白くなる	● 液晶画面の角度や明るさを調節してください。 ● 寒い場所で再生していませんか？　寒い場所では、多少液晶画面が暗く見えます。故障ではありません。 ● 液晶画面の寿命が短くなっている可能性があります。お買い上げの販売店、またはお近くのビクターサービス窓口にご相談ください。	38 — —
	液晶画面の裏側が熱くなる	● 液晶画面を長時間使用していませんか？　長時間使用すると、液晶画面裏の蛍光管が温かくなります。液晶画面を切るか電源を切ってしばらく放置しておくと元に戻ります。	—
	液晶画面に表示ムラが出る	● 液晶画面やそのまわりを押しませんでしたか？　液晶画面を圧迫すると映像ムラが生じます。手を離してしばらく放置しておくと元に戻ります。	—
	液晶画面のアイコン表示が点滅する	●「場面切替」「演出効果」「手ぶれ補正」機能のうち、同時に使用できない機能を選択しているときは各機能のアイコンが点滅します。	64 68 100
	液晶画面にメッセージなどの表示が出ない	●「画面表示切替」を「モニター」または「モニター/TV」にしてください。	104
	「ツユがつきました」と表示される	● メッセージが消えてから使用してください。	123
	「ヘッドが汚れています」と表示される	● 別売のデジタルビデオヘッドクリーニングカセットでヘッドを掃除してください。	114
再生中	液晶画面の映像が乱れる	● テープの無記録部分の再生、高速再生、および静止画再生中は液晶画面の映像が乱れることがあります。故障ではありません。	51
	再生、巻戻し、早送りができない	● 電源ダイヤルが 撮る M になっていませんか？	—
	テープは回っているが再生されない	● カセットカバーが開いていませんか？ ● テレビのチャンネルがビデオ用になっていますか？	33 53
	映像にモザイク状のノイズが出る	● 別売のデジタルビデオヘッドクリーニングカセットでヘッドを掃除してください。	114
	映像が映らず青い画面になる	● 別売のデジタルビデオヘッドクリーニングカセットでヘッドを掃除してください。	114

	こんなとき	ご確認ください	参照ページ
その他	液晶画面に「E01」など、Eの付いた数字が表示される	● 拡大故障を防ぐため、ビデオカメラが操作できなくなります。バッテリーなど電源を取り外し、数分待って表示が消えてからお使いください。2、3度くり返しても表示が消えないときはお買い上げの販売店、またはビクターサービス窓口にご相談ください。テープを傷める場合がありますので、テープを取り出さないでください。	29
	液晶画面に映像が表示されない	● 液晶画面の明るさを調節してみてください。	38
	ファインダーに映像が表示されない	● 液晶画面を閉じてみてください。	—
	ACアダプターの充電ランプがつかない	● 低温（10℃以下）や高温（30℃以上）で充電していませんか？10〜30℃の環境で充電してください。周囲の温度が低すぎたり高すぎたりすると、バッテリー保護のため充電が中止されることがあります。	32
	テープが入らない	● テープの向きが間違っていませんか？ ● バッテリーの容量が少なくなっていませんか？	33 28
	プリンターで印刷したら画面の下に黒い線が出る	● 故障ではありません。 手振れ補正「入」で撮影すると、黒い線は出なくなります。	—
	液晶画面とファインダーに黒、赤、青、緑の点が出る	●故障ではありません。	120
	ファインダー内にゴミが入っている	●市販のレンズブロワーでごみを取ってください。	115
	通信時エラー表示が出る	●パソコンケーブルを正しく接続してください。 ●ソフトを正しくインストールしてください。	94
	DVコードで接続しているとき、操作ができない	●電源が入った状態でDVコードを抜き差ししませんでしたか？ 一度電源を切り、接続をやり直してから操作してください。	—

日常のお手入れ

ヘッドの汚れを取る

ビデオカメラを長時間使用していると、ヘッドに空気中のほこりやちりが付着します。また、傷のあるテープを使用したときにテープの磁性粉がはがれてヘッドに付着したりします。ヘッドが汚れると次のような症状が出ます。

- 撮影中にヘッド目づまり表示⊗「ヘッドが汚れています」（☞29ページ）が出る
- 再生しても音や映像が出ない（青い画面になる）
- 再生すると、映像がモザイク画（ブロック状のノイズ）になる
- 再生すると、映像に黒色やモザイク画の横しまが出る

このようなときは、別売のデジタルビデオヘッドクリーナー（M-DV2CL）テープをビデオカメラで再生して、ヘッドを清掃してください。

M-DV2CLを長時間繰り返し再生すると、ヘッド摩耗の原因になりますのでご注意ください。（ビデオカメラでM-DV2CLを再生すると、20秒後に自動的に再生を停止します）

詳しくはM-DV2CLの取扱説明書をご覧ください。

- **M-DV2CLでクリーニングしても鮮明な映像が映らないときは**
  ヘッドが摩耗しています。または、テープに傷があります。お買い上げの販売店、またはビクターサービス窓口にご相談ください。
- **定期点検を行ってください**
  ヘッドやテープを動かす機械部品は、お使いになる間に汚れたり、摩耗したりします。ビデオカメラの性能を維持し、いつも美しい画面をご覧いただくために、およそ使用時間1000時間を目安に定期点検に出されることをおすすめします。定期点検は、お買い上げの販売店、またはビクターサービス窓口にご相談ください。

本体の汚れを取る

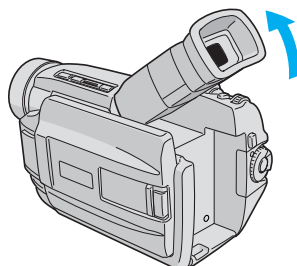
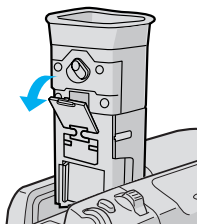
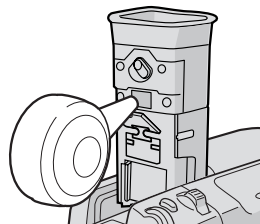
バッテリーやACアダプターを外して電源を切ってから､次のようにお手入れしてください。
・汚れを乾いた柔らかい布などで拭き取ってください。
・ひどい汚れは水で薄めた中性洗剤に布を浸して固く絞ってから汚れを拭き､乾いた布で水分を拭き取ってください。

●ベンジンやシンナーは使用しないでください
ボディの損傷や故障の原因になります。
●化学ぞうきんや洗剤をご使用になるときはご使用になる製品の注意書きに従ってください。

レンズや液晶画面のゴミ・汚れを取る

市販のレンズブロワーでほこりを落とし､また市販のレンズクリーニングペーパー等で汚れを落としてください。汚れたまま放置しておくと､かびなどが発生することがあります。

ファインダー内部のゴミを取る

ファインダーの内部にゴミなどが入ったときは、ファインダー底面のフタを開け、レンズブロワーでゴミ、汚れを取ってください。
終わったらファインダー底面のフタを確実に閉め、ファインダーをもとに戻します。

メニュー一覧

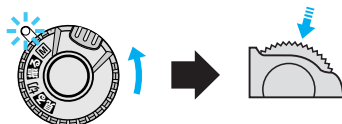
撮影時

電源ダイヤルを「M」に合わせてメニューダイヤルを押すと撮影時のメニューが表示されます。

撮影時メニュー一覧（1/2）

アイコン	メニュー
	場面切替 切 白フェーダー：白 黒フェーダー：黒 フェーダー：モザイク 白黒フェーダー：白黒 ワイプ：コーナー ワイプ：ウィンドウ ワイプ：スライド ワイプ：ドア ワイプ：スクロール ワイプ：シャッター P ワイプ：オーバーラップ P ワイプ：コーナー P ワイプ：ウィンドウ P ワイプ：スライド P ワイプ：ドア P ワイプ：スクロール P ワイプ：シャッター ?R ワイプ：ランダム
	演出効果 切 夜景 セピア B/Wブラック／ホワイト 映画効果 ストロボ ゴースト 1 高感度4倍 2 高感度10倍 1/60 シャッター1/60 1/100 シャッター1/100 1/250 シャッター1/250 1/500 シャッター1/500

 はお買い上げ時の設定値

メニュー表示方法

撮影時メニュー一覧（2/2）

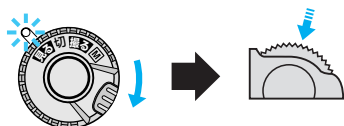
アイコン	メニュー	サブメニュー		
	明るさ補正			
	オート			
	マニュアル	−6〜±0〜＋6		
	白バランス			
	オート			
	マニュアル	ワンタッチ		オート
	マニュアル			
	マニュアル			
	マニュアル			
	撮影設定［A］［M］			
	◀ 戻る			
	録画モード	SP	LP	
	音声モード	12BIT	16BIT	
	ズーム	10倍	40倍	100倍
	感度アップ	切	AGC	オート A
	タリー	入	切	
	IDナンバー	06	（01〜99）	
	デモモード	入	切	
	照明	入	切	
	マニュアル設定			
	◀ 戻る			
	手ぶれ補正	入	切	
	テレマクロ	入	切	
	ワイド効果	切	シネマ	ワイド
	ボイスポジション	入	切	
	プリセット	キャンセル	実行	
	日時表示設定			
	◀ 戻る			
	画面表示切替	モニター	モニター/TV	〔シンプル〕
	日時表示	入	切	
	タイムコード表示	入	切	
	年月日時計合わせ	00.01.01 AM　1.00		

はお買い上げ時の設定値

メニュー一覧（つづく）

再生時

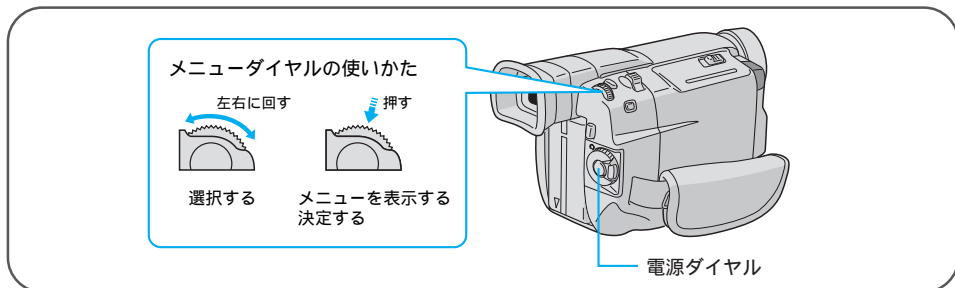
電源ダイヤルを「見る」に合わせてメニューダイヤルを押すと再生時のメニューが表示されます。

メニュー表示方法

再生時メニュー一覧

アイコン	メニュー	サブメニュー		
	ビデオ再生モード設定			
	◀ 戻る			
	音声モード切替	**ステレオ**	音声L	音声R
	12BIT音声切替	**音声1**	音声2	ミックス
	シンクロ補正	−1.3～ **0.0** ～＋1.3		
	録画モード	**SP**	LP	
	日時表示設定			
	◀ 戻る			
	画面表示切替	モニター	**モニター/TV**	〔シンプル〕
	日時表示	**入**	切	
	タイムコード表示	入	**切**	

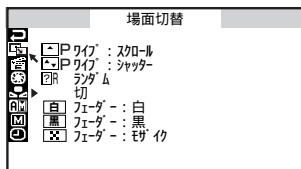
（太字）はお買い上げ時の設定値

メニューの使いかた

ここでは、メニュー共通の使い方について説明します。

❶ 電源ダイヤル「M」または「見る」で、メニューダイヤルを押す

(例)「M」を選ぶ

❷ メニューダイヤルでアイコンを選択する

● 選択した項目に合わせてメニューが切り替わります。

❸ メニューダイヤルを押す

● メニューの最初の項目が選択されます。

❹ メニューから項目を選択する

● サブメニュー有り : 現在の設定値を表示
サブメニュー無し : 手順 ❼ へ進む

❺ メニューダイヤルを押す

● サブメニューが表示されます。

❻ メニューダイヤルを回してサブメニューの項目を選択する

❼ メニューダイヤルを押す

● サブメニュー有り : 項目が決定します。
サブメニュー無し : メニューを終了し、通常の画面に戻ります。

❽ 戻るを選びメニューダイヤルを 2 回押す

● メニューを終了し、通常の画面に戻ります。

使用上のご注意

ビデオカメラについて

■ **本機は DV 方式のデジタルビデオカメラです。**
従来式のビデオ、およびDV方式以外のデジタルビデオとは互換性がありません

■ **電源（バッテリーや AC アダプター）を外すときは、必ず電源が「切」になっていることを確認してください。**
・ビデオカメラの動作中に電源を外すと、テープを傷めたり誤動作の原因になります。

■ **長時間使用しないときは電源ダイヤルを「切」にしてください。**
・長時間電源を入れたままにしておくと、ビデオカメラの表面が温かくなります。長時間使用しないときは電源を「切」にしてください。

■ **ビデオカメラを保管するときはカセットテープを出し、電源を切り、バッテリーをはずしてください。**
・機能に支障をきたす場合がありますので、ときどき電源を入れて動作を点検してください。

液晶画面について

■ **液晶画面の表面を強く押したり強い衝撃を与えないでください。**
・傷がついたり割れたりして故障の原因となることがあります。

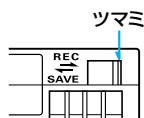
■ **ファインダーや液晶画面に小さな光る点や黒い点が出ることがあります。**
・ファインダーや液晶画面には 99.99% 以上の有効画素がありますが、0.01% 以下の小さな光る点（赤、青、緑）や黒い点が出ることがあります。（故障ではありません。）
これらはテープに記録されません。

カセットテープについて

■ **本機は DV 方式のデジタルビデオカメラです。**

Mini DV マークの付いたデジタルビデオカセットテープをご使用ください。

■ **大切な録画を消してしまわないように注意してください。**

・保存しておきたい録画済みテープは、カセット背面にあるツマミを「SAVE」の矢印方向に引いてください（ツマミを「REC」の方向に引くと、再び録画できます）。

■ **事前に試し撮りをしてください。**

・大切な録画をするときは、事前に試し撮りを行い、正常に録画、録音されていることをご確認ください。

■ **内容の補償についてはご容赦ください。**

・万一、ビデオカメラおよびカセットテープ等の不具合により正常に録画、録音や再生ができなかった場合の内容の補償についてはご容赦ください。

■ **権利者に無断で使用できません。**

・あなたがビデオカメラで録画、録音したビデオは個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

■ **撮影を制限している場所があります。**

・鑑賞や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場所がありますのでご注意ください。

■ **モザイク状のノイズが出る場合があります。**

・LP モードで録画されたテープは、他の LP モードのついたデジタルビデオで再生した場合、モザイク状のノイズが出る場合があります。また、LP モードのないデジタルビデオでは正常に再生できません。

■ **カセットテープは湿気が少なく風通しのよい、カビの発生しない場所に保存してください。**

バッテリーについて

■ リチウムイオンバッテリーの特性

- リチウムイオンバッテリーは小型で高容量のバッテリーです。しかし、冬場の屋外などの低温（10℃以下）でバッテリーが冷えている場合、バッテリーの使用時間が短くなる特性があり、動作しないことがあります。このような時は、バッテリーをポケットに入れるなどして温かくし、撮影前にビデオカメラに取り付けてください。バッテリー自体が冷えていなければ、ビデオカメラの動作上問題ありません（カイロなどをご使用になっている場合は、直接カイロがバッテリーに触れないようにご注意ください）。

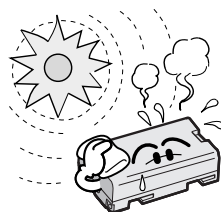
■ リチウムイオンバッテリーの保存

- 充電された状態で長期間保存すると特性が劣化することがあります。
- しばらく使わない場合は、使い切った状態で保存してください。

<残りの容量を使い切るには>

① カセットテープを入れずに電源を入れる。

② ビデオカメラの電源が自動的に切れたらバッテリーを取り出す

- 長期間保存する場合は、半年に一回程度充電した後、使い切ってから保存してください。
- 使用しないときは必ずバッテリーをビデオカメラやACアダプターから取り外してください。付けたままにしておくと、電源が切れていても微少電流が流れていますので、過放電になり使用できなくなる恐れがあります。
- 涼しい所で保存してください。周囲の温度が15℃〜25℃くらいの乾燥した所をおすすめします。暑い所や極端に寒い所は避けてください。
- ご使用にならないときはバッテリーキャップを取り付けて保存してください。
- 充電完了後は、ACアダプターに放置しないでください。

美しい環境維持にあなたも一役。リサイクルに協力しましょう。
ご使用済みの電池は廃棄しないで、充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。

時計用電池について

- 日時を記憶するために電池が内蔵されています。電池の容量がなくなると、バッテリーやACアダプターの電源をはずしたとき日時情報が失われます。電池の交換は最寄りの「ビクターサービス窓口」にご相談ください。日時の合わせ方については、☞106ページをご覧ください（日時を合わせなくても、ビデオカメラで撮影をすることはできます）。

つゆつきについて

よく冷えたビールをコップに注ぐと、コップのまわりに徐々に水滴が付着します。この状態を「つゆつき」と言います。ビデオカメラでつゆつきが発生すると、心臓部のヘッドドラムのまわりに水滴が付着し、テープが貼り付いてしまいます。

■ つゆつきはこんなときに起こります

- ビデオカメラを寒いところから急に暖かいところに移動したとき
- 湿気の多い場所でビデオカメラを使用しているとき
- 暖房した直後の部屋や、エアコンなどの冷風がビデオカメラに直接当たるとき

■ つゆつきが発生すると

- 液晶画面に「ツユが付きました」と「しばらくおまちください」が交互にが表示され、ビデオカメラが停止します。カセットの出し入れはしないでください。
- 通常、つゆつきは徐々に発生するため、10～15分間はなどが表示されないことがあります。が出る前でもレンズや保護ガラスに水滴が付いているときはヘッドドラムにも水滴が付着している可能性がありますので、カセットカバーを開けないでください。
- つゆつきはレンズにも発生します。レンズに水滴が付着しているときれいに撮影できませんので、つゆつきがなくなってから撮影してください。

■ つゆつき後再び使い始めるときは

- 電源を切って1時間以上待ちます。その後、電源を入れて数分待ち、が消えてからご使用ください。が消えないときは点検が必要です。お買い上げの販売店にご相談ください。
- 寒冷地帯では露が凍結し、霜になることがあります。寒冷地帯ではが消えるまでに、さらに時間がかかることがあります。

■ つゆつきのトラブルを防ぐには

- 寒いところから暖かいところ、冷風の効いたところから温度、湿度の高い場所に移動したときは、ビデオカメラとテープをしばらく放置して、使用する環境になじませてからご使用ください。
- 例えばスキー場で撮影後、暖房の効いた部屋に入るときは、ビニール袋などにビデオカメラを入れて空気を抜き、密封してください。しばらくその状態で部屋になじませてからご使用ください。

海外でお使いになるときは

付属のＡＣアダプターは海外でも使用可能です。バッテリーを充電したりコンセントから直接電源を確保できます。ただし、コンセントの形状は国によって異なります。訪問国のコンセントに合った変換プラグをご用意ください。詳細は旅行代理店、またはビクターサービス窓口にご相談ください。

コンセントの形状と使用する変換プラグ

現地のテレビで再生する

ＮＴＳＣ方式の映像、音声入力端子付きテレビが必要です。ＮＴＳＣ方式を採用している国、および地域は以下の通りです。

●アメリカ合衆国
●プエルトリコ
●バルバドス
●キューバ
●フィリピン
●チリ
●コロンビア
●台湾
●バミューダ
●バハマ
●カナダ
●米領サモア
●韓国
●コスタリカ
●メキシコ
●ニカラグア
●パナマ
●エルサルバドル
●ペルー
●グアム
●グァテマラ
●ミクロネシア
●スリナム
●ハイチ
●エクアドル
●ベネズエラ
●ミャンマー
●ボリビア
●ホンジュラス
●ドミニカ
●トリニダード・トバコ

●再生できるテープは
日本と同じ NTSC 方式で撮影したミニ DV テープが再生できます。

●ビデオカメラが海外で故障したときは
・☞126ページ「ビクターサービス窓口案内」の「海外主要都市でのビデオムービーご相談窓口」にご相談ください。日本語での対応ができない窓口もあります。海外では日本の保証書は適用されません。
・その他の地域に関しては、日本にお持ち帰りになった後、お買い上げ販売店にご相談ください。

保証とアフターサービス

保証書（別途添付しています）

保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ、販売店から受取っていただき、内容をよくお読みになってから大切に保管してください。保証期間は、お買い上げ日から1年間です。

補修用性能部品の最低保有期間

当社は、デジタルビデオカメラの補修用性能部品を、製造打ち切り後、最低8年間保有しています。この期間は通商産業省の指導によるものです。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

ご不明な点や修理に関するご相談は

お買い上げの販売店または最寄りの「ビクターサービス窓口」にお問い合わせください。

修理を依頼される場合（持込修理）

110〜113ページに従って調べていただき、なお異常のあるときは、電源を切り、必ず電源プラグを抜いてから、お買い上げの販売店にご連絡ください。
万一本機およびデジタルビデオカセットなどの不具合により、正常に撮影や再生できなかった場合の内容の補償については、ご容赦ください。

ご連絡していただきたい内容

品　　名	デジタルビデオカメラ
型　　名	GR-DVA10
お買い上げ日	年　月　日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご　住　所	
お　名　前	
電話番号	（　　）　ー

保証期間中は

修理に際しましては保証書をご提示ください。保証書の規定に従って販売店にて修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる場合には、ご希望により修理させていただきます。

その他

愛情点検

● 長年ご使用のデジタルビデオカメラの点検をぜひ！

熱、湿気、ホコリなどの影響や、使用の度合により部品が劣化し、故障したり、時には安全性を損なって事故につながることもあります。

このような症状はありませんか	●再生しても映像が出ない。 ●異常な臭いや音がする。 ●水や異物が入った。 ●その他の異常な故障がある。

ご使用を中　止	故障や事故防止のため、電源を切り、必ず販売店に点検をご相談ください。

ビクターサービス窓口案内

ビクター製品のアフターサービスはお買い上げの販売店へご用命ください

ご贈答品等で保証書記載のお買い上げ販売店にアフターサービスをご依頼になれない場合は、機種名をご確認の上、最寄りの「ご相談窓口」にご相談ください。

●修理についてのご相談窓口

ビクターサービスエンジニアリング株式会社

●略号について　S.C.はサービスセンターの略称です。
S.S.はサービスステーションの略称です。

都府県名	拠点名	TEL	〒	所在地
北海道				
北海道	札　幌S.C.	(011)898-1180	004-0005	札幌市厚別区厚別東5条1丁目2-29
	苫小牧S.S.	(0144)34-6682	053-0032	苫小牧市緑町2-7-11
	旭　川S.C.	(0166)61-3659	070-8012	旭川市神居二条3-2-15
	北　見S.S.	(0157)25-8557	090-0037	北見市山下町4-7-19
	釧　路S.S.	(0154)24-0797	085-0036	釧路市若竹町6-13
	帯　広S.S.	(0155)24-4493	080-0806	帯広市東六条南12-11
	函　館S.S.	(0138)46-5324	041-0806	函館市美原3-16-25
東北				
青森	青　森S.C.	(0177)23-2261	030-0844	青森市桂木4-6-17
	八　戸S.S.	(0178)44-4521	031-0804	八戸市青葉2-21-2
	弘　前S.S.	(0172)28-0165	036-8084	弘前市高田1-13-1
岩手	盛　岡S.C.	(019)637-0121	020-0835	盛岡市津志田9地割24-1
	水　沢S.S.	(0197)22-2773	023-0815	水沢市天文台通り3-12
秋田	秋　田S.C.	(018)824-3189	010-0953	秋田市山王中園町4-1
	大　館S.S.	(0186)43-0980	017-0874	大館市美園町5-6
	横　手S.S.	(0182)32-8873	013-0064	横手市赤坂字大道向3-6
宮城	仙　台S.C.	(022)287-0151	984-0011	仙台市若林区六丁の目西町7-13
	石　巻S.S.	(0225)94-7711	986-0853	石巻市門脇字四番谷地8-18
山形	山　形S.C.	(023)642-0279	990-2412	山形市松山3-12-18
	酒　田S.S.	(0234)26-7145	998-0842	酒田市亀ヶ崎6-6-1
福島	郡　山S.C.	(024)952-6331	963-0205	郡山市堤1-3
	いわきS.S.	(0246)28-4991	970-8034	いわき市平上荒川字桜町19-4
	会津若松S.S.	(0242)32-0247	965-0022	会津若松市滝沢町1-5
	福　島S.S.	(024)553-9437	960-0103	福島市本内字南原26-1
関東・甲信越				
新潟	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(025)241-4003	113-0033	東京都文京区本郷3-14-7ビクター本郷ビル2F
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	新　潟S.C.	(025)242-3431	950-0084	新潟市明石1-2-19
	長　岡S.S.	(0258)24-8391	940-0012	長岡市下々条2-1366-1
	上　越S.S.	(0255)45-1734	942-0081	上越市五智1-11
長野	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(026)221-7607	113-0033	東京都文京区本郷3-14-7ビクター本郷ビル2F
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	長　野S.C.	(026)221-6583	380-0913	長野市川合新田962-1
	松　本S.S.	(0263)25-9165	390-0837	松本市鎌田2-3-50
群馬	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(027)255-5982	113-0033	東京都文京区本郷3-14-7ビクター本郷ビル2F
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	前　橋S.C.	(027)255-5921	371-0854	前橋市大渡町1-19-1
栃木	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(028)635-2938	113-0033	東京都文京区本郷3-14-7ビクター本郷ビル2F
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	宇都宮S.C.	(028)638-1639	320-0864	宇都宮市住吉町17-9
茨城	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(03)5803-2888	113-0033	東京都文京区本郷3-14-7ビクター本郷ビル2F
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	土　浦S.C.	(0298)21-8756	300-0813	土浦市富士崎1丁目10-1
	水　戸S.S.	(029)246-1560	310-0836	水戸市元吉田町1077
山梨	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(055)227-5773	113-0033	東京都文京区本郷3-14-7ビクター本郷ビル2F
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	甲　府S.S.	(055)237-4016	400-0864	甲府市湯田2-11-5

都府県名	拠点名	TEL	〒	所在地
千葉				
千葉	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(03)5803-2888	113-0033	東京都文京区本郷3-14-7ビクター本郷ビル2F
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	千　葉S.C.	(043)246-2588	261-0001	千葉市美浜区幸町2-1-1
	木更津S.S.	(0438)23-3035	292-0000	木更津市清見台2-1-3 グレイスビル1F
	柏　S.C.	(0471)75-4322	277-0863	柏市豊四季512-10-67
	浦　安S.S.	(047)353-6189	279-0001	浦安市当代島2-13-27
東京				
東京	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(03)5803-2888	113-0033	東京都文京区本郷3-14-7ビクター本郷ビル2F
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	本　郷S.C.	(03)5684-8254	113-0033	東京都文京区本郷3-14-7ビクター本郷ビル1F
	秋葉原S.S	(03)3251-2128	101-0021	東京都千代田区外神田1-6-6
	練　馬S.C.	(03)3993-7520	176-0014	東京都練馬区豊玉南1-19-1
	大　田S.C.	(03)3727-9385	145-0062	東京都大田区北千束2-20-6
	八王子S.C.	(0426)46-6914	192-0045	東京都八王子市大和田町2-9-6
	【業務用機器専門】のご相談窓口			
	首都圏メンテナンスセンター	(03)3874-5231	110-0003	東京都台東区根岸5-4-3
埼玉				
埼玉	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(03)5803-2888	113-0033	東京都文京区本郷3-14-7ビクター本郷ビル2F
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	大　宮S.C.	(048)654-5241	330-0037	大宮市東大成町2-658-1
	熊　谷S.S.	(048)553-5105	361-0057	行田市城西2-7-39ツインハイツ石山B
	川　越S.S.	(0492)42-4496	350-1106	川越市小室491-1
神奈川				
神奈川	【出張修理専門】のご相談窓口			
	首都圏サービスセンター	(03)5803-2888	113-0033	東京都文京区本郷3-14-7ビクター本郷ビル2F
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	横　浜S.C.	(045)651-0403	231-0028	横浜市中区翁町1-3-1
	横須賀S.S.	(0468)34-9261	239-0831	横須賀市久里浜6-4-1
	川　崎S.C.	(044)975-1879	216-0024	川崎市宮前区南平台3-2（第2石原ビル）
	平　塚S.C.	(0463)36-2160	254-0065	平塚市南原2-4-5
	相模原S.C.	(042)776-2052	229-0004	相模原市古淵3-7-4
静岡				
静岡	静　岡S.C.	(054)282-4141	422-8006	静岡市曲金6-5-28
	沼　津S.S.	(0559)22-1557	410-0041	沼津市筒井町6-5
	浜　松S.S.	(053)421-3441	435-0041	浜松市北島町785
東海・北陸				
愛知	名古屋S.C.	(0568)25-3235	481-0041	西春日井郡西春町九之坪鴨田121-1
	三　河S.S.	(0564)26-1005	444-2133	岡崎市井ノ口町字河原西31-1
	豊　橋S.S.	(0532)64-0815	440-0853	豊橋市佐藤5-19-1
岐阜	岐　阜S.S.	(058)274-1947	500-8367	岐阜市宇佐南3-1-28
三重	三　重S.S.	(0593)52-0841	510-0076	四日市市堀木2-15-2
	津　S.S.	(059)229-7780	514-0815	津市大字藤方485-18
富山	富　山S.C.	(076)425-2397	939-8211	富山市二口町4丁目1-3
石川	金　沢S.C.	(076)269-4821	921-8062	金沢市新保本4丁目65-17
福井	福　井S.S.	(0776)53-6916	910-0843	福井市西開発3-211

所在地、電話番号が変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。　0100

都府県名	拠点名	TEL	〒	所在地
近畿				
滋賀	【サービス関連全て】のご相談窓口			
	滋　賀S.S.	(077)582-5812	524-0033	守山市浮気町268
京都南部	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大　阪S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	京　都S.C.	(075)313-3189	600-8861	京都市下京区七条御所ノ内北町91
京都北部	【サービス関連全て】のご相談窓口			
	福知山S.S.	(0773)22-8664	620-0059	福知山市厚東町145-2
奈良	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大　阪S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	奈　良S.S.	(07442)4-6271	634-0007	橿原市葛本町834-2
大阪	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大　阪S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	大　阪S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	大阪南S.C.	(06)6768-5489	543-0028	大阪市天王寺区小橋町10-16
	堺　S.C.	(0722)54-2881	591-8032	堺市百舌鳥梅町3丁目21-2 伊助ハイツ
	【業務用機器専門】のご相談窓口			
	業務機器C	(06)6304-6715	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
和歌山	【サービス関連全て】のご相談窓口			
	和歌山S.S.	(0734)72-6799	640-8323	和歌山市太田430-8
	田　辺S.S.	(0739)22-9914	646-0023	田辺市文里1-19-18
兵庫東部	【出張修理専門】のご相談窓口			
	大　阪S.C.	(06)6304-5731	532-0027	大阪市淀川区田川2-4-28
	【お預かり修理、補修用部品】のご相談窓口			
	神　戸S.C.	(078)252-0562	651-0086	神戸市中央区磯上通3-2-16
	明　石S.S	(078)924-1104	673-0018	明石市西明石北町3-12-9 小西ビル1F
兵庫西部	【サービス関連全て】のご相談窓口			
	姫　路S.S.	(0792)34-3833	670-0975	姫路市中地南町11-1

都府県名	拠点名	TEL	〒	所在地
中国				
岡山	岡　山S.C.	(086)243-1566	700-0926	岡山市西古松西町8-23
広島	広　島S.C.	(082)243-9839	730-0825	広島市中区光南3-9-17
	福　山S.S.	(0849)31-6984	721-0973	福山市南蔵王町3-5-15
山口	山　口S.C.	(0839)73-3708	754-0022	吉敷郡小郡町花園町5-28
	徳　山S.S.	(0834)27-1331	745-0042	徳山市野上町2-35
	下　関S.S.	(0832)51-1040	751-0852	下関市熊野町2-14-23
四国				
香川	高　松S.C.	(087)866-1200	761-8057	高松市田村町205-1
徳島	徳　島S.C.	(088)622-7387	770-8052	徳島市沖浜2-37
高知	高　知S.S.	(088)882-0546	780-8122	高知市高須新町4-143
愛媛	松　山S.C.	(089)923-0372	791-8015	松山市中央1-4-12
	宇和島S.S.	(0895)20-1018	798-0087	宇和島市坂下津甲407-40
	新居浜S.S.	(0897)67-1030	792-0881	新居浜市松神子2-2-25
九州・沖縄				
福岡	福　岡S.C.	(092)431-1261	812-0011	福岡市博多区博多駅前4-16-1
	久留米S.C.	(0942)39-3495	830-0038	久留米市西町字神浦1-1192
	北九州S.C.	(093)921-3981	802-0065	北九州市小倉北区三萩野2-9-3
佐賀	佐　賀S.S.	(0952)26-8785	840-0023	佐賀市本庄町大字袋265-1
長崎	長　崎S.C.	(095)862-5522	852-8021	長崎市城山町9-13
	佐世保S.S.	(0956)33-5568	857-1166	佐世保市木風町1467-2
大分	大　分S.C.	(097)543-1422	870-0822	大分市大道町4-1-2
熊本	熊　本S.C.	(096)353-4536	861-4101	熊本市近見8-1-10
宮崎	宮　崎S.S.	(0985)24-5401	880-0032	宮崎市霧島町3-59
	延　岡S.S.	(0982)35-7077	882-0857	延岡市惣領町24-3
鹿児島	鹿児島S.C.	(099)282-8818	890-0034	鹿児島市田上7丁目9-8
沖縄	沖　縄S.C.	(098)898-3631	901-2224	沖縄県宜野湾市真志喜1-13-16
山陰				
島根	山陰ビクター販売(株) サービスセンター (松江・米子担当)	(0852)31-8900	690-0823	松江市学園1丁目16-39
	出雲営業所サービス係	(0853)21-4611	693-0001	出雲市今市町854
	浜田営業所サービス係	(0855)22-1584	697-0023	浜田市長沢町671-1
鳥取	鳥取営業所サービス係	(0857)23-2151	680-0911	鳥取市千代水1丁目22-1

●海外主要都市でのビデオムービーご相談窓口

カナダ　JVC CANADA INC.
・トロント　〔416-293-1311〕
21 Finchdene Square, Scarborough, Ontario M1X 1A7

アメリカ　JVC SERVICE & ENGINEERING COMPANY OF AMERICA
・ロサンゼルス　〔714-229-8011〕
5665 Corporate Avenue Cypress, CA 90630-0024
・ニュージャージー　〔973-396-1000〕
10 New Maple Avenue, Pine Brook, NJ 07058-9641
・ホノルル　〔808-833-5828〕
2969 Mapunapuna Place, Honolulu, HI 96819-2040

イギリス　JVC（U.K.）LIMITED
・ロンドン　〔0208-450-3282〕
JVC BUSINESS PARK, 14 Priestley Way, London NW2 7BA

フランス　JVC FRANCE S.A.
・パリ　〔01-61-04-11-11〕
1, Avenue, Eiffel 78422 Carrieres Sur Seine Cedex

シンガポール　JVC ASIA PTE. LTD.
・シンガポール　〔255-8155〕
31Kaki Bukit Roard 3, #06-18 Techlink, Singapore 417818

（注）・その他の地域に関しては、おでかけの前にお客様ご相談センターにご相談ください。・海外では日本の保証書は適用されません。
・日本語での対応はできないサービスセンターもございます。

●ビクター製品についてのご相談窓口

お買物相談、お取扱い方法、お手入れ方法その他ご不明な点は、下記にご相談ください。

お客様ご相談センター	(03)5684-9311	113-0033	東京都文京区本郷3-14-7　ビクター本郷ビル
	(06)6765-4161	543-0028	大阪市天王寺区小橋町10-16　大阪ビクタービル

サービスネットワークＢＳ　9001

その他

主な仕様

[ビデオカメラ]

一般仕様

項　　目	仕　　様
電源	DC 6.3 V（ACアダプター使用時）、DC 7.2 V（バッテリー使用時）
消費電力	4.3 W（ファインダー使用時）、5.3 W（液晶画面使用時）、 7.8 W（ファインダーとビデオライト使用時）、 8.8 W（液晶画面とビデオライト使用時）
外形寸法	80 mm × 96 mm × 175 mm（幅×高さ×奥行き）
質量	本体質量　　約 580 g 撮影時質量　約 720 g（バッテリーBN-V416、カセットM-DV30ME含む）
許容動作温度	0 °C 〜 40 °C
許容相対湿度	35 % 〜 80 %
許容保存温度	–20 °C 〜 50 °C

カメラ部仕様

項　　目	仕　　様
撮像素子	1/4型 68万画素CCD （撮像エリア　34万画素）
レンズ	F1.8、f=3.6 mm 〜 36 mm （35 mmカメラ換算：46 mm 〜 460 mm）
フィルター径	37 mm（ネジピッチ 0.75 mm）
ズーム倍率	光学10倍、最大100倍（デジタル使用）
最低照度	9ルクス

デジタルビデオカメラ部仕様

項　　目	仕　　様
録画／再生方式	DV方式（SD仕様） 映像：デジタルコンポーネント記録 音声：PCMデジタル記録、32 kHz 4チャンネル（12BIT）、 　　　48 kHz 2チャンネル（16BIT）、44.1kHz（再生のみ）
信号方式	NTSC日米標準信号方式
使用カセット	ミニDVカセット
録画／再生時間	SPモード：60分、LPモード：90分（DVM60テープ使用時）
早送り／巻き戻し時間	約3分（DVM60テープ使用時）

液晶画面／ファインダー部仕様

項　　目	仕　　様
液晶画面	3型、11万画素　カラー液晶
ファインダー	0.44型、11万画素　カラー液晶

端子部仕様

項　　目	仕　　様
DV入／出力端子	4ピン（i.LINK／IEEE1394準拠）
S端子（S映像出力端子）	アナログ出力（Y:1.0 V (p-p)、75Ω　C:0.29 V (p-p)、75Ω）
AV端子 （映像／音声出力端子）	φ3.5 mmミニジャック 映像：アナログ出力（1.0 V (p-p)、75Ω） 音声：ステレオ／アナログ出力（300 mVrms、1 kΩ）
パソコン(デジタル静止画)端子	φ2.5 mm超ミニジャック
JLIP（編集）端子	φ3.5 mmミニジャック

[AC アダプター]

一般仕様

項　　目	仕　　様
電源	AC 100 V ～ 240 V、50 Hz/60 Hz
入力容量	24 VA（100 V充電時）、33 VA（240 V充電時） 31 VA（100 V VTR時）、39 VA（240 V VTR時）
出力	DC 7.2 V⎓、1.2 A（充電時）、DC 6.3 V⎓、1.8A（電源供給時）
許容動作温度	0℃～40℃（充電時は10℃～35℃）
外形寸法	68 mm × 38 mm × 110 mm（幅×高さ×奥行き）
質量	約250 g（DCコード含まず）

●仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

● 本機は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。
本機は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
この取扱説明書に従って正しく取り扱いをしてください。

索引

あ

か

さ

た

な

は

ま

や

ら

わ

アルファベット

■「東京ビデオフェスティバル」は日本ビクターが主催するどなたでも参加できる国際的ビデオフェスティバルです。審査は著名な映画監督や俳優や作家の方々によって行われます。
■入賞作品のダイジェスト動画映像はビクターホームページでご覧いただけます。

■お問い合わせ先
日本ビクター株式会社　東京ビデオフェスティバル事務局
〒105-0004　東京都港区新橋1-7-1　ビクタービル内
☎03-3289-2815　Fax: 03-3289-2819
E-mail: jvc-tvf1@mb.kcom.ne.jp　（2000年3月現在）

ご相談や修理は

故障かな？と思ったら

修理をご依頼になる前に110～113ページをご確認ください。

修理相談

ご転居等で保証書に記載のお買上げ販売店に修理をご依頼になれない場合は、125ページの「保証とアフターサービス」をお読みのうえ、126～127ページの「ビクターサービス窓口」にご相談ください。

お問い合わせ

ビクター製品についてのお買い物相談、お取り扱い方法、お手入れ方法その他ご不明な点は、下記までお問い合わせください。

東京お客様ご相談センター

東京☎ (03) 5684-9311

〒113-0033 東京都文京区本郷3丁目14-7 ビクター本郷ビル

大阪お客様ご相談センター

大阪☎ (06) 6765-4161

〒543-0028 大阪市天王寺区小橋町10-16 大阪ビクタービル

この機種についてのお取り扱い、技術的なご相談は、下記までお問い合わせください。

DVご相談窓口

☎ (045)450-2770

ビクターホームページ　http://www.jvc-victor.co.jp/

ビデオ事業部

〒221-8528　横浜市神奈川区守屋町3丁目12番地　電話（045）450-2550

0300HOV＊SW＊VP